佐賀県文化財調査報告書第138集

# 佐賀県農業基盤整備事業に係る
# 文化財調査報告書　16

１９９８年3月

佐賀県教育委員会

# 佐賀県農業基盤整備事業に係る
# 文化財調査報告書　16

１９９８年3月

佐賀県教育委員会

# はじめに

この報告書は、佐賀県農林業基盤整備事業等の施行に先立ち実施しました埋蔵文化財確認調査の記録をまとめたものです。

本県には先史時代以降の遺跡が多数存在しており、その密度の高さと重要性ならびに国際性は全国的にも注目を浴びているところです。

県教育委員会では、これらの貴重な文化財の保護と農林業基盤整備事業等との調整を図るため、埋蔵文化財の確認調査を実施し、その記録の保存に努めています。

今回、平成８・９年度農林業基盤整備事業等施行予定地区の文化財確認調査を実施した結果、先史時代～江戸時代にわたる各時代の遺跡・遺物が確認されました。

本書が、貴重な文化財を県民の共有財産として大切に保存していくための資料として、さらに学術資料として活用していただければ幸いです。

この文化財調査にあたって、御協力をいただいた文化庁・九州農政局・県農林部・各市町村教育委員会・土地改良担当課・農林担当課並びに地元関係各位に対しまして、深くお礼を申し上げます。

平成10年３月31日

佐賀県教育委員会

教育長　川久保　善明

# 例　　言

1　本書は国庫補助を受け、平成８・９年度に施工計画の佐賀県農林業基盤整備事業等に先行して、平成８年度に調査を実施した佐賀県農林業基盤整備事業等に伴う文化財調査の報告書である。

2　確認調査は関係市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が行なった。

3　トレンチの位置図作成、遺構の実測、写真撮影は各調査員が行なった。

4　遺物の整理・実測・製図・報告書作成作業は、佐賀県文化財課（神埼八子事務所）で行なった。

・遺物整理……中島美須三・田中ハルミ

・図面整理……山口美佐子・江島美恵子・上瀧光子

・地図等製図……三好文子

5　本書の執筆は下記の分担で行なった。

Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ－１～５、Ⅴ …… 松尾　法博（佐賀県文化財課）

Ⅲ－６、Ⅳ－19 …… 川副真理子（佐賀県文化財課）

Ⅳ－１～３ …… 太田　　睦（中原町教育委員会）

Ⅳ－４ …… 鶴田　浩二（上峰町教育委員会）

Ⅳ－５ …… 古賀　章彦（佐賀市教育委員会）

Ⅳ－６～７ …… 楠本　正士（佐賀市教育委員会）

Ⅳ－８ …… 三代　敏幸（佐賀市教育委員会）

Ⅳ－９ …… 西田　　巌（佐賀市教育委員会）

Ⅳ－10 …… 中野　　充（佐賀市教育委員会）

Ⅳ－11 …… 武谷　和彦（佐賀県文化財課）

Ⅳ－12 …… 岩永　雅彦（多久市教育委員会）

Ⅳ－13～15 …… 西村　秀昭（江北町教育委員会）

Ⅳ－16 …… 内田　孔明（唐津市教育委員会）

Ⅳ－17 …… 藤井　浩司（肥前町教育委員会）

Ⅳ－18 …… 後藤　宏爾（鎮西町教育委員会）

Ⅳ－20 …… 西田　和己（佐賀県文化財課）

6　本書のⅢ・Ⅳについては各調査担当者より提出された「確認調査結果報告書」ならびに「発掘調査実績報告書」を引用し、一部加筆した。なお、「土壙」や「・・・跡」の表記等については統一を図り、また、一部表現を変えたところがある。これらの文責は編集者に帰す。

7　本書に用いた方位は、原則として座標北とし、磁北を用いた場合はその旨を明記した。

8　挿図中の■は、遺構・遺物が確認されたトレンチ（試掘坑）、□は遺構・遺物が確認できなかったトレンチ（試掘坑）、---は想定される遺跡の広がりを示す。

9　本書の編集は松尾法博が担当した。

# 目　　次


Ⅰ．調査に至る経過 …… 1

1　平成９年度農林業基盤整備事業等に伴う文化財確認調査 …… 1

（１）農林業基盤整備事業等に係る協議 …… 1

（２）文化財確認調査 …… 1

（３）開発と文化財保護に係る協議 …… 1

Ⅱ．調査組織 …… 2

Ⅲ．平成８年度文化財確認調査の内容 …… 11

1　佐賀東部地区の調査 …… 11

（１）鳥栖市 …… 12

2　佐賀西部地区 …… 13

（１）佐賀市 …… 14

（２）多久市 …… 20

（３）富士町 …… 20

（４）三日月町 …… 21

（５）小城町 …… 22

3　佐賀南部地区 …… 30

（１）武雄市 …… 31

（２）鹿島市 …… 31

（３）江北町 …… 33

4　佐賀北部地区 …… 35

（１）伊万里市 …… 36

（２）西有田町 …… 38

5　佐賀上場地区 …… 42

（１）唐津市 …… 43

（２）肥前町 …… 46

6　筑後川下流用水事業に係る調査 …… 49

（１）佐賀東部導水路（城原川以西） …… 49

Ⅳ．平成８年度発掘調査の概要 …… 51
1　野田遺跡Ⅱ …… 52
2　香田遺跡 …… 54
3　天神遺跡 …… 56
4　堤三本松遺跡 …… 58
5　金立遺跡 …… 60
6　久富遺跡 …… 62
7　友貞遺跡 …… 64
8　東千布遺跡 …… 66
9　牟田寄遺跡 …… 68
10　修理田遺跡 …… 70
11　川久保松原遺跡 …… 72
12　西の原西遺跡 …… 78
13　馬場北遺跡 …… 80
14　焼石遺跡 …… 84
15　山中遺跡 …… 88
16　八幡溜第２遺跡 …… 92
17　太田遺跡 …… 94
18　塩鶴遺跡 …… 96
19　薬師丸遺跡 …… 98
20　戊遺跡 …… 100

Ⅴ．まとめ …… 102

Ⅵ．資　料 …… 104
資料１　平成９年度農業基盤整備事業等に係る文化財調査一覧表 …… 104
資料２　平成９年度農業基盤整備事業等に係る文化財調査の進め方 …… 107
資料３　平成９年度農業基盤整備事業等に係る文化財確認調査要領 …… 108
資料４　農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項 …… 110

# 挿図目次


図1　平成8年度農林業基盤整備事業事業等に伴う文化財調査地区位置図 …… 5
図2　佐賀東部地区周辺地形図 …… 11
図3　鳥栖市轟木・幸津地区霞堤周辺地形図 …… 12
図4　佐賀西部地区周辺地形図 …… 13
図5　佐賀市鍋島トレンチ配置図 …… 16
図6　佐賀市金立東部トレンチ配置図 …… 17
図7　佐賀市兵庫北部トレンチ配置図 …… 18
図8　佐賀市久保泉西部トレンチ配置図 …… 19
図9　多久市八ツ溝トレンチ配置図（1） …… 23
図10　多久市八ツ溝トレンチ配置図（2） …… 24
図11　多久市八ツ溝トレンチ配置図（3） …… 25
図12　富士町御民田線トレンチ配置図 …… 26
図13　三日月町西部導水トレンチ配置図（1） …… 27
図14　三日月町西部導水トレンチ配置図（2） …… 28
図15　三日月町西部導水トレンチ配置図（3） …… 29
図16　佐賀南部地区周辺地形図 …… 30
図17　武雄市杵島山トレンチ配置図 …… 32
図18　江北町江北地区5号農道トレンチ位置図 …… 34
図19　佐賀北部地区周辺地形図 …… 35
図20　伊万里市渚線トレンチ配置図 …… 37
図21　伊万里市国営本瀬戸幹線道路トレンチ位置図 …… 39
図22　伊万里市国営小黒川幹線道路トレンチ位置図 …… 40
図23　佐賀上場地区周辺地形図 …… 42
図24　唐津市竹木場（上場Ⅱ期）トレンチ位置図 …… 44
図25　唐津市枝去木（上場Ⅱ期）トレンチ位置図 …… 45
図26　肥前町万賀里川支線第2号トレンチ位置図 …… 47
図27　肥前町納所支線第2号トレンチ位置図 …… 48
図28　佐賀東部導水路金立東部工区トレンチ配置図 …… 50
図29　野田遺跡Ⅱ位置図 …… 52
図30　香田遺跡位置図 …… 54
図31　天神遺跡位置図 …… 56

図32　堤三本松遺跡位置図 …… 58
図33　金立遺跡位置図 …… 60
図34　久富遺跡位置図 …… 62
図35　友貞遺跡位置図 …… 64
図36　東千布遺跡位置図 …… 66
図37　牟田寄遺跡位置図 …… 68
図38　修理田遺跡位置図 …… 70
図39　川久保松原遺跡４区位置図 …… 72
図40　川久保松原遺跡４区遺構配置図 …… 73
図41　川久保松原遺跡４区調査区壁面・溝跡土層実測図 …… 74
図42　川久保松原遺跡４区土壙実測図 …… 75
図43　川久保松原遺跡４区出土遺物実測図 …… 76
図44　西の原西遺跡位置図 …… 78
図45　馬場北遺跡位置図 …… 80
図46　馬場北遺跡遺構配置図（１） …… 82
図47　馬場北遺跡遺構配置図（２） …… 83
図48　焼石遺跡位置図 …… 84
図49　焼石遺跡遺構配置図（１） …… 86
図50　焼石遺跡遺構配置図（２） …… 87
図51　山中遺跡位置図 …… 88
図52　山中遺跡遺構配置図１区 …… 90
図53　山中遺跡遺構実測図 …… 91
図54　八幡溜第Ⅱ遺跡位置図 …… 92
図55　太田遺跡位置図 …… 94
図56　太田遺跡出土遺物実測図 …… 94
図57　塩鶴遺跡位置図 …… 96
図58　塩鶴遺跡遺構実測図 …… 96
図59　塩鶴遺跡出土遺物実測図 …… 96
図60　薬師森遺跡位置図 …… 98
図61　薬師森遺跡調査位置図 …… 98
図62　戊遺跡位置図 …… 100

# 写真図版目次


図版1　確認調査状況（佐賀西部地区）…… 22
図版2　確認調査状況（佐賀北部地区）…… 41
図版3　野田遺跡Ⅱ…… 53
図版4　香田遺跡…… 55
図版5　天神遺跡…… 57
図版6　堤三本松遺跡…… 59
図版7　金立遺跡…… 61
図版8　久富遺跡…… 63
図版9　友貞遺跡…… 65
図版10　東千布遺跡…… 67
図版11　牟田寄遺跡…… 69
図版12　修理田遺跡…… 71
図版13　川久保松原遺跡4区…… 77
図版14　西の原西遺跡…… 79
図版15　馬場北遺跡…… 81
図版16　焼石遺跡…… 85
図版17　山中遺跡…… 89
図版18　八幡溜第Ⅱ遺跡…… 93
図版19　太田遺跡…… 95
図版20　塩鶴遺跡…… 97
図版21　薬師森遺跡…… 99
図版22　戊遺跡…… 101


# 表目次


表1　農林業基盤整備事業等に伴う文化財調査一覧（平成8年度）…… 6
表2　農林業基盤整備事業等施工予定地区内文化財確認調査（平成8年度実施）…… 7
表3　平成8年度農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査一覧表…… 9
表4　川久保松原遺跡4区　主要遺構一覧表　（溝跡一覧表・土壙一覧表）…… 75
表5　川久保松原遺跡4区　遺物観察表…… 76
表6　平成9年度農業基盤整備事業に係る文化財調査一覧表…… 104

# Ⅰ．調査に至る経過

## １．平成９年度農林業基盤整備事業等に伴う文化財確認調査

### （１）農林業基盤整備事業等に係る協議

県農林部と県文化課が昭和53年４月に締結し、昭和59年４月に一部改正した「農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項」に基づいて、平成８年９月に平成９年度農業基盤整備事業施行計画について事業担当部局から文化財保護担当部局へ協議が求められた。

平成９年度工事地区のうち踏査・文化財確認調査の対象となった地区は、佐賀東部地区（鳥栖市・基山町・中原町・上峰町・神埼町・東脊振村・脊振村・三瀬村）76.9ha、佐賀西部地区（佐賀市・川副町・大和町・三日月町・多久市・富士町・小城町・東与賀町・芦刈町）208.3ha、佐賀南部地区（鹿島市・武雄市・太良町・江北町・塩田町・大町町・山内町・北方町・有明町・嬉野町）68.2ha、佐賀北部（伊万里市・北波多村・浜玉町・七山村・厳木町・相知町・有田町・西有田町）73.5ha、佐賀上場地区（唐津市・鎮西町・肥前町・玄海町）26.6haの合計453.5haである。関係する農業基盤整備事業として、県営圃場整備事業・干拓地等農地整備事業・県営土地改良総合事業・団体営圃場整備事業をはじめ、農業構造改善事業・山村振興農林漁業対策事業・農道整備事業・広域基幹林道事業・導水事業等多岐にわたっている。

施行主体は九州農政局筑後川下流用水事務所・伊万里開拓事業所所管の国営、佐賀県農林部所管の県営、市町村所管の団体営事業に区分される。また、水資源開発公団所管の筑後川下流用水事業に伴う協議（佐賀市・三田川町）もなされた。

### （２）文化財確認調査

協議された事業計画地区（工区）の設計図については、佐賀県遺跡地図で位置を確認するとともに現地踏査などの結果をもとに検討を行なった。検討に際しては、関係市町村教育委員会の文化財担当職員の協力を得て、情報の収集を行ない、遺跡が立地する自然環境等を含めて事前の検討を進めた。

更に、各事業計画地区については、関係市町村教育委員会の文化財担当職員と共に現地踏査を重ねた。

その結果、遺跡の存在が予測され確認調査が必要と認められた地区（表２）について、当該市町村の教育委員会・農林担当課・県農林部、国等の機関との第１回目の合同四者協議会（『平成９年度農業基盤整備事業に係る文化財の保護の協議会（第１回）』）を県教育委員会が主催して平成８年10月14日に開催した。協議会においては全体協議の後、市町村毎に関係者による個別協議の場を設け、事業計画の概要説明、現地踏査等の検討結果の報告、確認調査の計画的・円滑な実施にあたっての打ち合せを行なった。

その協議会での合意に従って文化財確認調査は原則として、佐賀上場地区など稲刈りが早く終了する市町村では10月下旬から開始し、その他の市町村でも麦の種蒔き時期との関係で12月上旬までの間に実施を予定した。

実際の文化財確認調査は、関係市町村教育委員会の文化財担当職員の協力を得て、稲刈りが終了する10月下旬から麦の作付けが始まる12月上旬までの間に行なったが、上物の状況によって適切な時期に調査を行なった。確認調査は原則として、２×２ｍの試掘坑（トレンチ）を20ｍ間隔で碁盤目状に設定し、埋蔵文化財の有無、性格、分布範囲等を調査する方法を採用した。

### （３）開発と文化財保護に係る協議

確認調査の結果をもとに詳細な遺跡分布図を作成した。確認された遺跡は、佐賀東部地区7,500㎡，佐賀西部地区136,340㎡、佐賀南部地区120㎡，佐賀北部地区360㎡，佐賀上場地区1,450㎡の合計145,770㎡であった。

この確認調査の結果をもとに、関係市町村教育委員会が主体となって開発事業担当部局との個別協議が行なわれた。

農林業基盤整備工事等が遺跡に影響を及ぼす地点については、水路位置の変更、盛土による田面高の嵩上げ、圃場の区画変更、農道・林道の路線変更等の設計変更を中心に、技術的・経済的に可能な保存方法を検討し、開発事業計画と文化財保護に関する調整を行なった。この間、事業担当部局には、設計変更に関して積極的に対処していただいた。

個別協議を進めるなかで、埋蔵文化財の保存のために数度の設計変更を行なったが、やむを得ず農林業基盤整備工事等により埋蔵文化財の保存が不可能となったとなった地点においては、文化財調査の方法・時期等についての協議を進めた。

このような個別協議を経て、平成８年12月18日に第２回目の合同四者協議会（『平成９年度農業基盤整備事業に係る文化財の保護の協議会（第２回）』）を開催し、平成９年度の事業計画と文化財の保護についての最終的な調整が行なわれた。この調整会議においては、各地区の平成９年度の文化財調査面積・調査方法・調査時期等についての調整がなされたが、一部の地区については工事設計の詰めの作業と併せて、個別協議を平成８年度末まで継続した。

これらの協議を経て、平成８年度以前に確認調査を実施した分を含めて、平成９年度及び平成10年度以降の工事計画を考慮に入れた最終調整がなされた。これによって、平成９年度工事施行予定地内の大部分の遺跡は盛土工法等の採用による設計変更により遺跡の保存が図られ、残る21,313㎡については平成９年度に発掘調査を実施して記録保存を図ることとなった。

# Ⅱ．調査組織

１．調査主体

佐賀県教育委員会　（事務局：佐賀県教育庁文化財課）

２．総括

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| （事務局長） | 高島　忠平 | 県文化財課長 | | | |
| （次　　長） | 木下　　巧 | 県文化財課参事 | | 深町　昌司 | 県文化財課長補佐 |

３．庶務

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 岩瀬　茂生 | 県文化課庶務企画係長 | 久保　信行 | 県文化課庶務企画係主査 |
| 吉村　俊也 | 県文化課庶務企画係主事 | 富窪　道代 | 県文化課庶務企画係主事 |

４．調査

| | | |
|---|---|---|
| （調査主任） | 田平　徳栄 | 県文化財課長補佐、管理・指導班総括 |
| （調 査 員） | 西田　和己 | 県文化財課管理・指導班企画調整主査 |
| | 徳富　則久 | 県文化財課管理・指導班企画調整主査 |
| | 松尾　法博 | 県文化財課管理・指導班主査 |
| | 徳永　貞紹 | 県文化財課管理・指導班文化財保護主事 |
| | 武谷　和彦 | 県文化財課管理・指導班文化財保護主事 |

| | |
|---|---|
| 市川　浩文 | 県文化財課管理・指導班文化財保護主事 |
| 川副真理子 | 県文化財課調査班文化財保護主事 |
| 福田　義彦 | 佐賀市教育委員会文化課文化財係長 |
| 古賀　章彦 | 佐賀市教育委員会文化課文化財係事務吏員 |
| 中野　　充 | 佐賀市教育委員会文化課文化財係事務吏員 |
| 久山　高史 | 鳥栖市教育委員会文化課文化財係事務吏員 |
| 内田　孔明 | 唐津市教育委員会文化財課文化財係事務吏員 |
| 岩永　雅彦 | 多久市教育委員会社会教育課社会教育係事務吏員 |
| 高塚　啓介 | 多久市教育委員会社会教育課社会教育係事務吏員 |
| 原田　保則 | 武雄市教育委員会文化課文化財係長 |
| 船井　向洋 | 伊万里市教育委員会生涯学習課文化係事務吏員 |
| 荒谷　義樹 | 伊万里市教育委員会生涯学習課文化係事務吏員 |
| 加田　隆志 | 鹿島市教育委員会生涯学習課社会教育文化係事務職員 |
| 谷澤　　仁 | 大和町教育委員会社会教育課文化財係文化財保護主事 |
| 宗像　　剛 | 富士町教育委員会社会教育課主事 |
| 永田　稲男 | 三日月町教育委員会社会教育課主事 |
| 古庄　秀樹 | 小城町教育委員会社会教育係主事 |
| 西村　秀昭 | 江北町教育委員会社会教育課嘱託 |
| 宮崎　光明 | 西有田町教育委員会生涯学習課事務吏員 |
| 藤井　浩司 | 肥前町教育委員会社会教育課社会教育係主事 |

5．調査協力

| | | |
|---|---|---|
| 佐賀市教育委員会 | 三瀬村教育委員会 | 肥前町教育委員会 |
| 鳥栖市教育委員会 | 大和町教育委員会 | 鎮西町教育委員会 |
| 唐津市教育委員会 | 富士町教育委員会 | 玄海町教育委員会 |
| 多久市教育委員会 | 川副町教育委員会 | 有田町教育委員会 |
| 武雄市教育委員会 | 東与賀町教育委員会 | 西有田町教育委員会 |
| 伊万里市教育委員会 | 小城町教育委員会 | 山内町教育委員会 |
| 鹿島市教育委員会 | 三日月町教育委員会 | 北方町教育委員会 |
| 基山町教育委員会 | 芦刈町教育委員会 | 大町町教育委員会 |
| 中原町教育委員会 | 浜玉町教育委員会 | 江北町教育委員会 |
| 上峰町教育委員会 | 七山村教育委員会 | 太良町教育委員会 |
| 神埼町教育委員会 | 厳木町教育委員会 | 塩田町教育委員会 |
| 東脊振村教育委員会 | 相知町教育委員会 | 嬉野町教育委員会 |
| 脊振村教育委員会 | | |

九州農政局筑後川下流農業水利事業所

九州農政局伊万里開拓事業所

水資源開発公団筑後川下流用水建設所
佐賀県農地農村整備局農村計画課
佐賀県農地農村整備局農村整備課
佐賀県農地農村整備局農地保全課
佐賀県農地農村整備局林政課
佐賀県農地農村整備局森林整備課
佐賀県農林部佐賀中部農林事務所
佐賀県農林部鳥栖農林事務所
佐賀県農林部唐津農林事務所
佐賀県農林部武雄農林事務所
佐賀県農林部伊万里農林事務所
佐賀県農林部鹿島農林事務所
各市町村土地改良担当課・農林担当課
地元各位

6．調査指導

吉田　恵二　　國学院大学教授

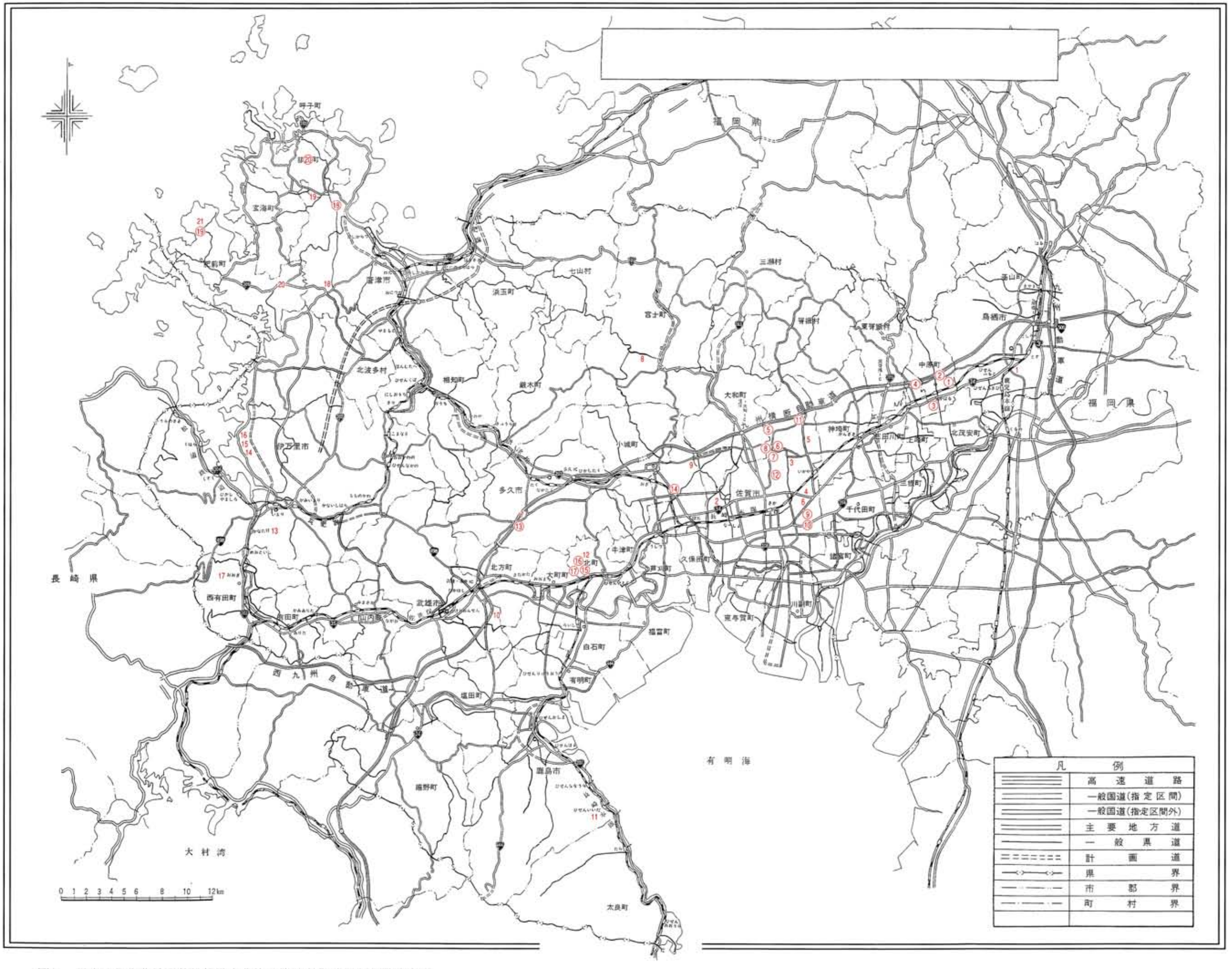



図1　平成8年度農林業基盤整備事業等に伴う文化財調査地区位置図

表1　農業基盤整備事業等に伴う文化財調査一覧(平成8年度実施)

| | |
|---|---|
| 確認調査地区 | 佐賀東部地区 |
| | 1．鳥栖市（轟・幸津地区） |
| | 佐賀西部地区 |
| | 2．佐賀市（鍋島地区） |
| | 3．〃　（金立東部） |
| | 4．〃　（兵庫北部） |
| | 5．〃　（久保泉地区） |
| | 6．〃　（幹線水路徳永線） |
| | 7．多久市（八ヶ溝） |
| | 8．富士町（御民田線） |
| | 9．三日月町（西部導水路） |
| | 佐賀南部地区 |
| | 10．武雄市（杵島山線） |
| | 11．鹿島市（飯田地区） |
| | 12．江北町（江北地区） |
| | 佐賀北部地区 |
| | 13．伊万里市（木須団地） |
| | 14．〃　（本瀬戸幹線道路） |
| | 15．〃　（小黒川幹線道路） |
| | 16．西有田町（西有田地区） |
| | 佐賀上場地区 |
| | 17．唐津市[竹木場(上場Ⅱ期)] |
| | 18．〃　[枝去木(上場Ⅱ期)] |
| | 19．肥前町（万賀里川第2号） |
| | 20．〃　（納所支線第2号） |

| | | |
|---|---|---|
| 発掘調査遺跡 | ①野田Ⅱ遺跡 | (NDAⅡ) |
| | ②香田遺跡 | (KOD) |
| | ③天神遺跡 | (TJN) |
| | ④堤三本松遺跡 | (TSN) |
| | ⑤金立遺跡 | (KIR) |
| | ⑥久富遺跡 | (HDM) |
| | ⑦友貞遺跡 | (TBS) |
| | ⑧東千布遺跡 | (HCF) |
| | ⑨牟田寄遺跡 | (MTY) |
| | ⑩修理田遺跡 | (SRD) |
| | ⑪川久保松原遺跡 | (KMB-4) |
| | ⑫薬師森遺跡 | (YMR) |
| | ⑬西の原西遺跡 | (NSN) |
| | ⑭戊遺跡 | (MTU) |
| | ⑮馬場北遺跡 | (BBN) |
| | ⑯焼石遺跡 | (YKS) |
| | ⑰山中遺跡 | (YMA) |
| | ⑱八幡溜第Ⅱ遺跡 | (HMDⅡ) |
| | ⑲太田遺跡 | (OOT) |
| | ⑳塩鶴遺跡 | (SIO) |

表２　農業基盤整備事業施工予定地区内文化財確認調査（平成８年度実施）

| 地　区 | 市町村名 | 工事地区名 | 所　在　地 | 確認調査対象 | 調　査　結　果 | 担当者 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 佐賀東部地区 | 鳥　栖　市 | 轟木・幸津 | 鳥栖市轟木町・幸津町 | 21.4 ha | 遺跡は確認されなかった。 | 久山 | 霞堤（五反歩堤） |
| 佐賀西部地区 | 佐　賀　市 | 鍋島 | 佐賀市鍋島大字森田 | 22.6 ha | 中世集落跡 | 古賀 | 森田遺跡 |
| | | 金立東部 | 佐賀市金立町大字薬師丸 | 40.5 ha | 旧クリークを確認した。表土より近世陶磁器出土 | 古賀 | 未周知 |
| | | 兵庫北部 | 佐賀市兵庫町大字若宮字若宮 | 20.5 ha | 中世～近世集落跡、土師器細片若干出土 | 福田・中野 | 若宮遺跡 |
| | | 久保泉西部 | 佐賀市久保泉町大字川久保字上分 | 0.76 ha | 中世～近世集落跡 | 福田 | 川久保松原遺跡 |
| | | 幹線水路徳永線 | 佐賀市金立町大字薬師丸 | 6.0 ha | 旧クリークを確認した。表土より近世陶磁器出土 | 古賀 | 未周知 |
| | 多　久　市 | 八ツ溝 | 多久市多久町大字八ツ溝 | 40.6 ha | 縄文時代（後期）集落跡 | 岩永・高塚 | 八ツ溝 |
| | 富　士　町 | 御民田線 | 富士町大字古場字貝野 | 延長　120 m | 中世集落跡 | 宗像・武谷 | 貝野遺跡 |
| | 三日月町 | 佐賀西部導水 | 三日月町大字道辺字立物ほか | 20.1 ha | 弥生・古墳・中世集落跡 | 永田･武谷･松尾 | 赤司東遺跡 |
| | 小　城　町 | 牛尾 | 小城郡小城町大字池上字中隈 | 延長　750 m | 遺跡は確認されなかった。 | 古庄 | 未周知 |
| 佐賀南部地区 | 武　雄　市 | 杵島山線 | 武雄市橘町大字片白字片白 | 延長　1,600 m | 平安末期の巨石信仰遺跡 | 原田 | 南片白古墳群 |
| | 鹿　島　市 | 飯田 | 鹿島市大字飯田 | 5.0 ha | 遺跡は確認されなかった。 | 加田 | 未周知 |
| | 江　北　町 | 江北 | 江北町大字上小田字団子前・畑分 | 5.0 ha | 縄文時代（晩期）遺物包含層 | 西村・徳永 | 焼石遺跡・馬場北遺跡 |
| 佐賀北部地区 | 伊万里市 | 渚線 | 伊万里市立花町鈴桶 | 延長　300 m | 縄文時代遺物散布地 | 荒谷 | 腰岳遺跡群 |
| | | 木須団地 | 伊万里市木須町字見上・戸渡島 | 13.0 ha | 遺構・遺物は確認されなかった。 | 船井 | 未周知 |
| | | 本瀬戸幹線道路 | 伊万里市瀬戸町字樽浦 | 延長　1,100 m | 縄文時代（前期）遺物包含層 | 船井 | 樽浦遺跡 |
| | | 小黒川幹線道路 | 伊万里市黒川町字人辻 | 延長　1,266 m | 遺構・遺物は確認されなかった。 | 船井 | 未周知 |
| | 西有田町 | 西有田 | 西松浦郡西有田町曲川丙字大石 | 20.8 ha | 遺構・遺物は確認されなかった。 | 宮崎 | 野瀬原遺跡 |
| 佐賀上場地区 | 唐　津　市 | 竹木場（上場Ⅱ期） | 唐津市竹木場字丹ノ木・岩野 | 3.0 ha | 縄文時代遺物包含層 | 内田 | 竹木場丹ノ木遺跡 |
| | | 枝去木（上場Ⅱ期） | 唐津市枝去木・八ノ木・甚蔵山 | 延長　1,100 m | 旧石器時代～縄文時代遺物包含層 | 内田 | 枝去木分校入口遺跡 |
| | 肥　前　町 | 万賀里川（上場Ⅲ期） | 肥前町大字万賀里川字下長谷 | 2.0 ha | 遺構はほとんど削平されていると考えられる。 | 藤井 | 未周知 |
| | | 納所支線（上場Ⅲ期） | 肥前町大字納所字笹山・石久保 | 延長　700 m | 旧石器時代～縄文時代遺物包含層 | 藤井 | 納所笹山遺跡 |
| 筑後川下流用水事業 | 佐　賀　市 | 金立工区 | 佐賀市金立町大字薬師丸字薬師森 | 1.8 ha | 縄文時代晩期～弥生時代初頭の遺物包含層 | 川副 | 薬師森遺跡 |
| | | 金立西部 | 佐賀市金立町大字薬師丸 | 0.03 ha | 遺構・遺物は確認されなかった。 | 川副 | 未周知 |

表３　平成８年度　農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査一覧表

| 地　区 | 市町村名 | 工事地区名 | 略　号 | 所　在　地 | 調査面積 | 調査主体者 | 調査担当者 | 遺　跡　の　内　容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 佐賀東部地区 | 中　原　町 | 1　野田遺跡Ⅱ | ＮＤＡⅡ | 三養基郡中原町大字簀原字野田 | 2,200㎡ | 中原町教育委員会 | 太田・野田 | 縄文時代集落跡、奈良時代～平安時代集落跡 |
| | | 2　香田遺跡 | ＫＯＤ | 三養基郡中原町大字簀原字香田 | 5,700㎡ | 〃 | 太田・野田 | 縄文時代・古墳時代・奈良時代～平安時代・中世集落跡 |
| | | 3　天神遺跡 | ＴＪＮ | 三養基郡中原町大字原古賀字天神 | 300㎡ | 〃 | 太田・野田 | 弥生時代・奈良時代～平安時代集落跡 |
| | 上　峰　町 | 4　堤三本松遺跡 | ＴＳＭ | 三養基郡上峰町大字堤字一本黒木 | 2,500㎡ | 上峰町教育委員会 | 鶴　田 | 弥生～近世集落跡，縄文時代遺物包含層 |
| 佐賀西部地区 | 佐　賀　市 | 5　金立遺跡 | ＫＩＲ | 佐賀市金立町大字千布 | 5,100㎡ | 佐賀市教育委員会 | 古　賀 | 弥生時代・平安時代～中世集落跡、中世館跡 |
| | | 6　久富遺跡 | ＨＣＦ | 佐賀市金立町大字久富 | 1,879㎡ | 〃 | 楠　本 | 弥生時代～古墳時代・平安時代～近世集落跡 |
| | | 7　友貞遺跡 | ＴＢＳ | 佐賀市金立町大字友貞 | 3,429㎡ | 〃 | 楠　本 | 弥生時代～古墳時代・中世～近世集落 |
| | | 8　東千布遺跡 | ＨＣＦ－４ | 佐賀市金立町大字千布 | 125㎡ | 〃 | 三　代 | 弥生時代～近世集落跡・近世～近代の墓地 |
| | | 9　牟田寄遺跡 | ＭＴＹ | 佐賀市兵庫町大字瓦町 | 4,295㎡ | 〃 | 西　田 | 弥生時代～中世集落跡 |
| | | 10　修理田遺跡 | ＳＲＤ－２・３ | 佐賀市巨勢町大字修理田 | 1,850㎡ | 〃 | 中　野 | 弥生時代～古墳時代・平安時代・中世・近世集落 |
| | | 11　川久保松原遺跡 | ＫＭＢ－４ | 佐賀市久保泉町大字川久保字宮分 | 300㎡ | 佐賀県教育委員会<br>佐賀市教育委員会 | 武谷・福田 | 中世～近世集落跡 |
| | 多　久　市 | 12　西の原西遺跡 | ＮＳＮ | 多久市多久町西の原 | 5,500㎡ | 多久市教育委員会 | 岩永・高塚 | 縄文時代集落跡 |
| 佐賀南部地区 | 江　北　町 | 13　馬場北遺跡 | ＢＢＮ | 杵島郡江北町大字上小田字馬場北 | 5,585㎡ | 江北町教育委員会 | 西　村 | 弥生時代集落・墓地、中世～近世城下集落跡 |
| | | 14　焼石遺跡 | ＹＫＳ | 杵島郡江北町大字上小田字小路 | 2,007㎡ | 〃 | 西　村 | 弥生時代集落・墓地、中世～近世城下集落跡 |
| | | 15　山中遺跡 | ＹＭＡ | 杵島郡江北町大字上小田字山中 | 460㎡ | 〃 | 西　村 | 中世～近世城下集落跡 |
| 佐賀上場地区 | 唐　津　市 | 16　八幡溜第Ⅱ遺跡 | ＨＭＤⅡ | 唐津市佐志字八幡 | 1,200㎡ | 唐津市教育委員会 | 内　田 | 旧石器時代～縄文時代遺物包含層 |
| | 肥　前　町 | 17　太田遺跡 | ＯＯＴ | 東松浦郡肥前町大字納所字太田 | 740㎡ | 肥前町教育委員会 | 藤　井 | 旧石器時代～縄文時代遺物包含層 |
| | 鎮　西　町 | 18　塩鶴遺跡 | ＳＩＯ | 東松浦郡鎮西町大字塩鶴字村田 | 4,000㎡ | 鎮西町教育委員会 | 堀苑・後藤 | 弥生時代墓地（甕棺墓）、中世集落跡 |
| 筑後川下流用水事業（東部導水事業・西部導水事業） | 佐　賀　市 | 19　薬師森遺跡 | ＹＭＲ | 佐賀市金立町大字薬師丸字薬師森 | 200㎡ | 佐賀県教育委員会 | 川　副 | 縄文時代集落 |
| | 三日月町 | 20　戊遺跡 | ＭＴＵ | 小城郡三日月町字長神田字戊 | 2,500㎡ | 三日月町教育委員会 | 西田（和） | 弥生時代集落 |

# Ⅲ．平成８年度文化財確認調査の内容

## １．佐賀東部地区の調査

図２　佐賀東部地区周辺地形図（Ｓ＝1:100,000）

１　鳥栖市（轟木・幸津工区）

①野田遺跡Ⅱ
②香田遺跡
③天神遺跡
④堤三本松遺跡

（1）鳥栖市（轟木・幸津工区）

轟木・幸津工区（図3）は、平成9年度県営担い手育成基盤整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、鳥栖市轟木町・幸津町の約21.4haを対象に行なった。

調査対象地区は、鳥栖市の南西部、安良川が大きく東に湾曲する右岸および左岸に位置する。甕棺墓や石棺墓が多く発見された幸津遺跡のある低い中位段丘が、すぐ背後にある。

調査は、対象地区に幅2mのトレンチを33ケ所設定して行なった。掘削機によりトレンチの掘り下げを行ない、また、人力による一部手掘りを行ない、確認調査を実施した。記録作成後、埋戻しを行ない旧状に復した。調査の結果、全てのトレンチで遺構及び遺物は確認できなかった。

なお、旧河床と思われる砂層が大部分のトレンチで確認されており、調査対象区一帯は安良川の河道が変化する地点と推定され、明確な遺跡が確認されなかったと考えられる。

また、今回の調査対象からは外れているが、工事計画予定の範囲に含まれる近世土木遺産の霞堤については、今後、遺跡の取扱いについて引き続き協議を要する。

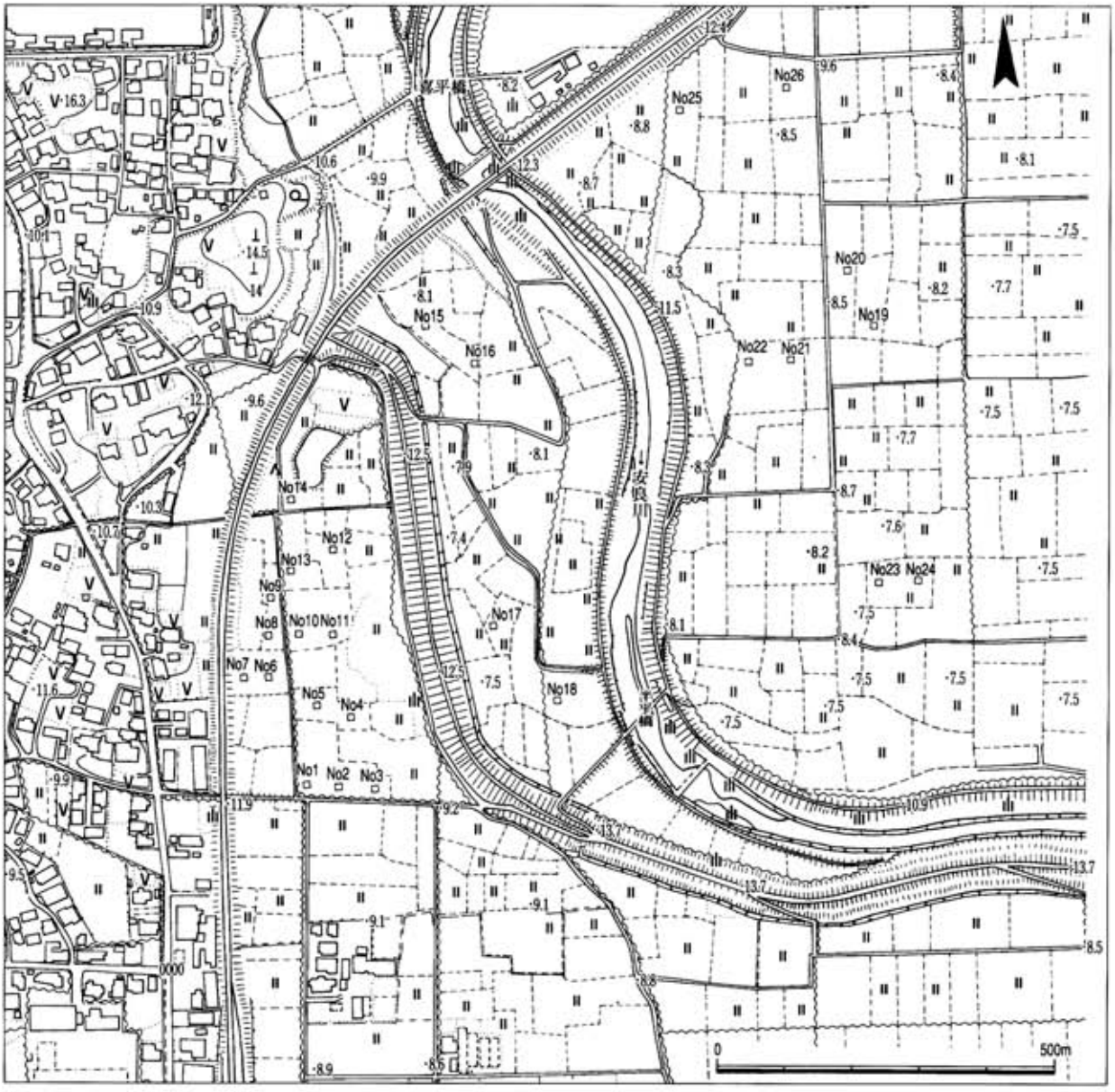



図3　鳥栖市（轟木・幸津地区）霞堤周辺地形図（S＝1／10,000）

## 2．佐賀西部地区の調査

図4　佐賀西部地区周辺地形図（S＝1:100,000）

1　佐賀市　鍋島地区
2　佐賀市　金立東部
3　佐賀市　兵庫北部
4　佐賀市　久保泉西部
5　佐賀市　幹線水路徳永線
6　多久市　八ヶ溝
7　富士町　御民田線
8　三日月町　佐賀西部導水
9　小城町　牛尾地区
10　佐賀市筑後川下流用水金立東部工区

①金立遺跡　②久富遺跡　③友貞遺跡　④東千布遺跡　⑤牟田寄遺跡
⑥修理田遺跡　⑦川久保松原遺跡　⑧西の原西遺跡　⑨薬師森遺跡　⑩戊遺跡

（1）佐賀市（鍋島地区・金立東部地区・兵庫西部地区・久保泉西部地区・幹線水路徳永線）

鍋島地区（図5）は、平成9年度県営担い手育成基盤整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀市鍋島町大字森田の約22.6haを対象に行なった。

調査対象地区は、佐賀市の西部に圃場である標高3～4mを測る低平な平野部で、対象地の西側には嘉瀬川が北から南に流路をとっている。対象地の北半分は森田遺跡の遺跡の範囲に包含されているが、南半部は周知の埋蔵文化財包蔵地外である。

調査対象地周辺は、近年の圃場整備事業の進展に伴い、遺跡の新発見が相次いでいる。対象地の南側には、江頭地区の圃場整備事業に伴い調査された12世紀後半を中心とした時期の屋敷跡である大西屋敷跡や袋田遺跡がある。

調査は、対象地のうち掘削を受ける水路、道路予定地を中心に65箇所のトレンチを設定し、掘削機（バックフォー）による表土剥ぎ・掘削を行ない、必要に応じて人力による精査を実施した。トレンチの位置は平面図に記録し、土層断面略図を作成、トレンチの状況を写真撮影により記録した。記録作成後、埋め戻しを行ない、旧状に復した。

調査の結果、№21・46・47・59トレンチで遺構を検出し、対象地の南西部にて遺跡の広がりを確認した。検出した遺構は、中世の所産と考えられる井戸・溝・土壙・小穴などであり、遺跡の性格としては集落跡と考えられる。出土した遺物には、中世の土師器・陶磁器片がある。

今回の確認調査の結果および調査対象区の立地状況から総合して考えると、調査対象地区の南西部において約8,000㎡に及ぶ遺跡の広がりを確認している。従って、掘削を免れない水路部分については、本調査が必要であると判断される。

金立東部地区（図6）は、平成9年度県営担い手育成基盤整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀市金立町大字薬師丸の約40.5haを対象に行なった。

調査対象地区は、標高3～4mを測る低平な平野部で、対象地の西側には巨勢川が南北に流路をとっている。対象地の西側には、佐賀導水事業に伴い調査された縄文早期の遺跡である東名遺跡が、また、北側には久保泉南部圃場整備事業に伴い調査された弥生時代～中世の集落跡である下和泉一本椎遺跡が存在する。

調査は、対象地のうち掘削を受ける水路、道路予定地を中心に197箇所のトレンチを設定し、掘削機（バックフォー）による表土剥ぎ・掘削を行ない、必要に応じて人力による精査を実施した。トレンチの位置は平面図に記録し、土層断面略図を作成、トレンチの状況を写真撮影により記録した。記録作成後、埋め戻しを行ない、旧状に復した。

調査の結果、№1～7・21・23・33・37・40・42・43・45・51・53・54・59・62・87トレンチで旧クリークを検出したものの、それ以外の明確な遺構は確認できなかった。

出土した遺物は、近世の陶磁器片が表土中より少量出土している。

調査の結果および調査対象区の立地状況から総合して考えると、調査対象地区内では明確な遺構は確認されなかったため、本調査の必要はないと判断される。なお、隣接する佐賀導水事業予定地区（№101・102トレンチにおいて、弥生時代初頭の遺物包含層を確認している。今回の調査対象地区に遺構の存在する可能性もあるが遺構密度が極めて希薄であると考えられる。

兵庫北部地区（図７）は、平成９年度県営担い手育成基盤整備事業・筑後川下流農業水利事業幹線水路徳永線に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀市兵庫町大字若宮字若宮の約20.5haを対象に行なった。

調査対象地区は、標高３～４ｍを測る低平な平野部で、国道34号線、市道伊賀屋線、焼原川に囲まれた地区でその大半が水田となっている。調査対象地区の南西約400ｍには平成５年度に発掘調査を実施した淵遺跡が所在する。弥生時代中期～後期の集落跡として周知されており、井戸・溝・土壙が確認され、甕・鉢・壺・高坏など大量の遺物が出土している。

また、当該地区の西隣も水路で囲まれており、地元には屋敷の伝承が残っているが、既に工場として開発されている。

調査は、対象地のうち掘削を受ける水路、道路予定地を中心に46箇所のトレンチを設定し、掘削機（バックフォー）による表土剥ぎ・掘削を行ない、必要に応じて人力による精査を実施した。トレンチの位置は平面図に記録し、土層断面略図を作成、トレンチの状況・検出遺構を写真撮影により記録した。記録作成後、埋め戻しを行ない、旧状に復した。

調査の結果、№26・27・31トレンチで溝、土壙、小穴を検出した。出土した遺物には、各遺構埋土から若干の土師器細片が出土している。

今回の試掘調査では、調査区対象地区の南端で遺構・遺物を確認し、その遺跡の規模は南北は南北約70ｍ、東西約50ｍを測る。遺跡の性格は、検出した遺構の状況及び出土遺物から、中世～近世に営まれた「屋敷」跡と考えられる。なお、今回、新たに発見された遺跡については、若宮遺跡として佐賀県遺跡地図に登録し、遺跡の周知化を行なった。

久保泉西部地区（図８）は、平成９年度県営圃場整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀市久保泉町大字川久保字上分の約0.76haを対象に行なった。

調査対象地区は、佐賀市の北部に位置し、巨勢川上流の東岸の河岸段丘にある。標高は約20ｍを測り、周辺との水田との比高差約0.5～1.2ｍを測る。現況は畑地となっている。

平成４年度に川久保遺跡・川久保松原遺跡・御手洗遺跡の発掘調査を実施し、古墳時代～奈良・平安時代の集落を確認している。これらの遺跡から検出された遺構には、竪穴住居跡・掘立柱建物・溝・土壙などがあり、出土遺物には、土師器（甕・坏・高坏・鉢・壺）・須恵器（坏）などがある。

調査は、農業基盤整備編入地区圃場（畑）に４箇所のトレンチを設定し、掘削機（バックフォー）による表土剥ぎ・掘削を行ない、必要に応じて人力による精査を実施した。トレンチの位置は平面図に記録し、土層断面略図を作成、トレンチの状況・検出遺構を写真撮影により記録した。記録作成後、埋め戻しを行ない、旧状に復した。

調査の結果、№１・２・３トレンチで溝、土壙、小穴を検出した。出土した遺物には、各トレンチから若干の土師器細片がある。

今回の確認調査では、農業基盤整備編入地区全体で遺構・遺物を確認した。なお、遺構面までの深さは地表よりマイナス0.5～0.6ｍを測り、面工事の掘削最大深は0.3ｍ程度となっているので、遺跡の保存が図られるため工事施工については支障ないと判断される。しかしながら、今回調査対象地区の北端部の工事掘削予定地につい遺跡の取扱いについて協議を要する。

図5　佐賀市鍋島トレンチ配置図（S＝1／4,000）

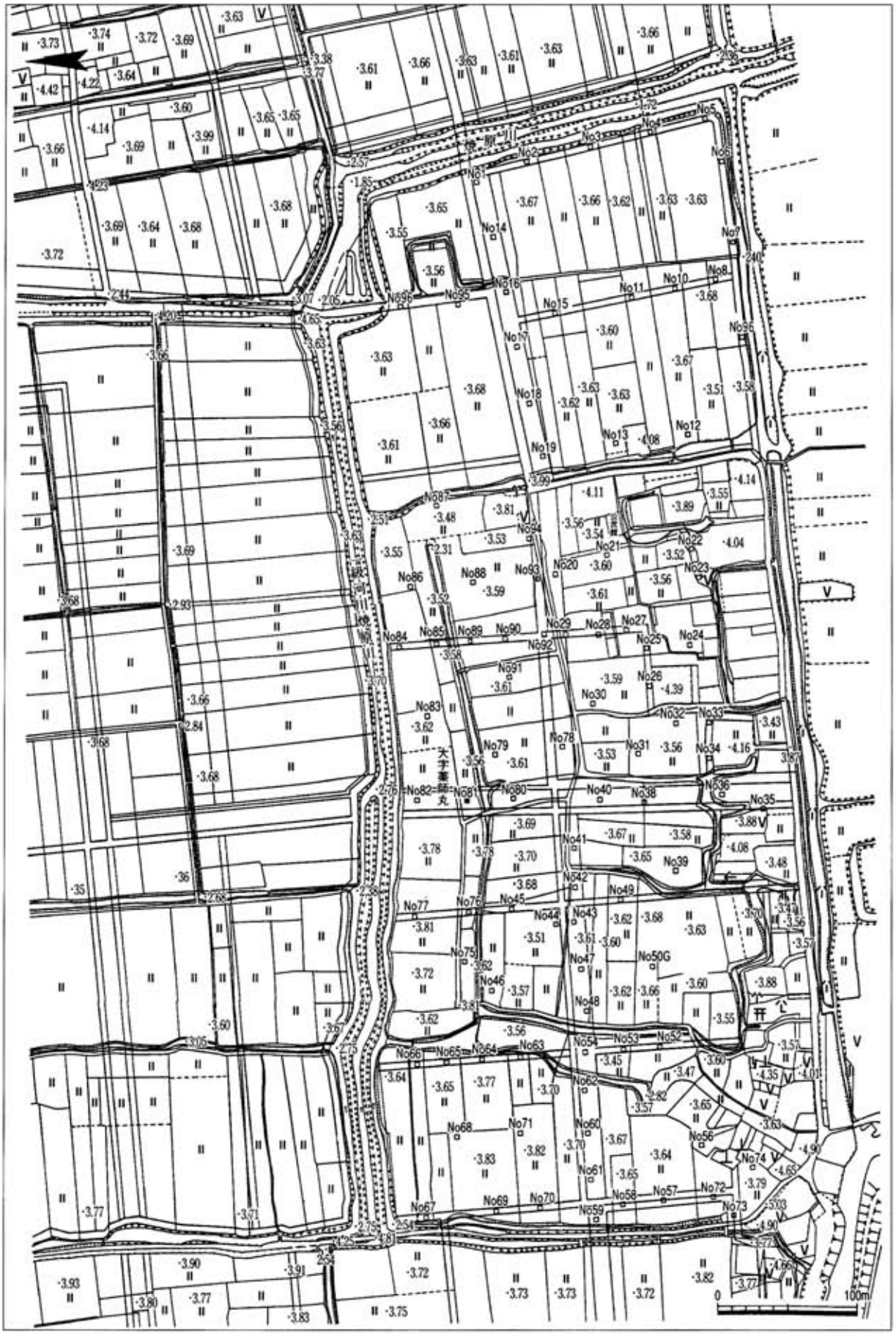



図6　佐賀市金立東部トレンチ配置図（S＝1／4,000）

図7　佐賀市兵庫北部トレンチ配置図（S＝1／4,000）

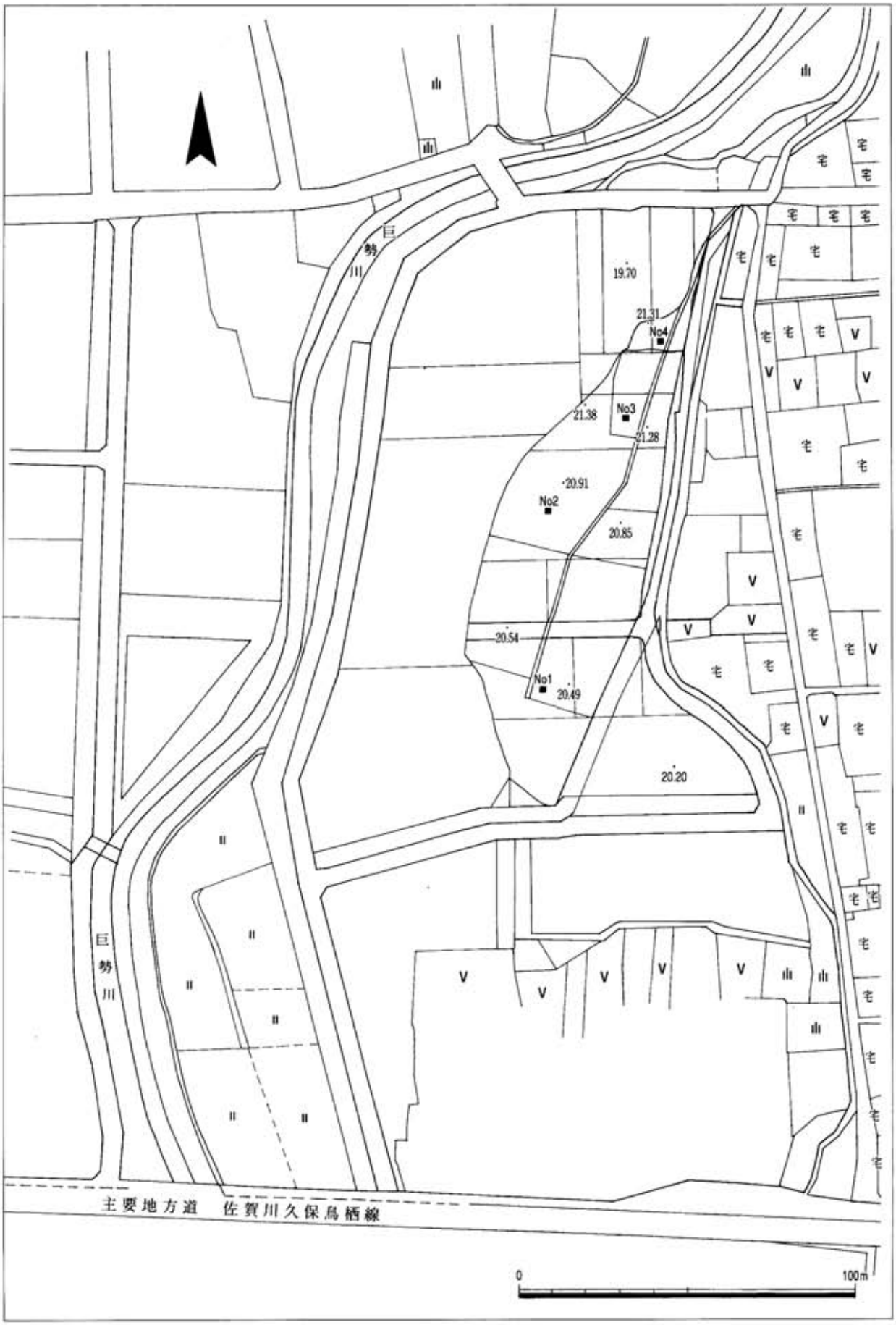



図８　佐賀市久保泉西部トレンチ配置図

（2）多久市（八ツ溝地区）

八ツ溝地区（図9～11）は、平成9年度県営担い手育成基盤整備事業に伴い確認調査を実施した。調査は、多久市多久町大字八ツ溝の40.6haを対象に行なった。

調査対象地区は、鬼の鼻山系北麓から東流する牛津川まで緩やかに傾斜する丘陵地の中ほどに位置する水田である。調査区内南端を2本の川が流れ、ほどなく合流し古野川となり牛津川へと流れ込んでいる。調査対象地周辺は、農道を挟んで西側には、平成7年度に本調査を実施し、小穴や溝から縄文時代後期の土器ど大量に出土した岡遺跡が所在している。また、500mほど南の林の中には唐人古場窯跡があり、窯道具や特殊な物が出土していおり、朝鮮人の陶工が築いた窯と推定されている。

調査は、掘削機による表土剥ぎおよび試掘を行ない、必要に応じて人力による精査を実施した。調査状況の写真撮影、平面図・土層略図等の記録作成後、埋戻しを行ない旧状に復した。トレンチの位置は縮尺S＝1/1000の平面図に記録し、土層断面図を作成、各トレンチの状況を写真撮影した。これらの記録作成後、埋め戻しを行ない、掘削機の通過した地点の畦畔等の補修を行なった。特に、遺物出土状況・検出遺構状況を写真撮影により記録した。

調査の結果、調査区南側から中央部にかけて遺構が検出された。確認された遺構は、直径約15cm～25cm小穴群が主で、その他数箇所のトレンチで溝状遺構および土壙を検出した。また、西側の岡遺跡寄りにも小穴群を認した。試掘調査では、調査区対象地区の南端で遺構・遺物を確認し、その遺跡の規模は南北約70m、東西1,100mを測る。出土した遺物は、縄文時代後期の土器片が主で、その他黒耀石・サヌカイトの剥片が数点出土した。

今回の確認調査は、対象地が岡遺跡に近いことから、遺構の存在がある程度予想されていた。調査の結果、約15,000㎡の広範囲にわたり小穴群・溝状遺構が検出され、また、出土遺物も岡遺跡と同時代の土器片が出土しており、岡跡に関連する遺跡であると推定される。以上のことから、調査区南側から中央部にかけての部分と岡遺跡寄り一部については本調査が必要と考えられる。

（3）富士町（御民田線）

御民田線（図12）は、平成9年度普通林道開設事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、佐賀郡富士町大字古湯字貝野の延長120mを対象に行なった。

調査対象地区は、標高280m前後で、北も南も500～600mの山に挟まれた谷の下部に位置する。東へ流れる谷川（貝野川）の北斜面で、現在は貝野地区の集落の下に開かれた棚田となっている。貝野遺跡（富士町1019）内で縄文時代の遺物散布として周知されている。また、東北東約500mには、標高417mの城山山頂を中心に中世山城跡である古湯城跡がある。

調査は、道路予定地を中心に　幅1.5～2m、長さ1.5～5mのトレンチを6箇所設定し、掘削機（バックフォー）および人力による表土剥ぎ・掘削を行ない、その後、人力により遺構の精査を実施した。トレンチの位置は平面図に記録し、土層断面略図を作成、トレンチの状況・検出遺構を写真撮影により記録した。調査後、埋め戻し旧状に復した。

調査の結果、№1・3・4・6トレンチで遺構・遺物を確認した。検出した遺構には、柱穴、方形土壙、小穴があり、出土遺物は、中世の土師器片、近世の染付け磁器片などがあるが、縄文時代の遺物は検出されなかった。

特に、工事予定地のうち、現在の集落に近い北側上段の棚田は、地表から－0.8ｍで遺構面に達するため、工事計画と文化財保護との調整が必要と判断された。協議の結果、平成９年度に埋蔵文化財に影響が生じる箇所について本調査を実施している。

今回の確認調査により、貝野集落に近接した南側斜面の水田より、中世の柱穴が検出され、中世の集落跡が確認された。現在の集落よりやや低い場所にも集落が広がっていたと推定される。

（４）三日月町（立物・赤司・祇園川横断・佐織・仁俣・三ケ島工区）

立物・赤司・祇園川横断・佐織・仁俣・三ケ島工区（図13～15）は、平成９～10年度国営水路佐賀西部導水事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、小城郡三日月町大字道辺字立物、大字織島字赤司ほかの20.1haを対象に行なった。

立物・赤司・祇園川横断地区は、天山から岩蔵谷を流下する祇園川の左岸、佐織・仁俣・三ケ島工区は、祇園川の右岸に位置する。調査対象地は、既に圃場整備が実施されている地区で、現況は標高10～13ｍ前後の水田となっている。

立物工区の南側の立物集落南側では、昭和50年の圃場整備事業の際に断面Ｖ字状の溝から小型の仿製鏡が出土し、弥生時代の集落跡と推定されている立物遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。立物神社北方には、弥生土器片の散布が認められ、遺構は確認されていないが甕棺墓の存在が指摘されている立物神社北方遺跡が知られている。

また、赤司工区の北方には、古墳時代の掘立柱建物跡・溝・祭司遺構などが検出された古墳時代の集落跡である赤司遺跡が所在している。

佐織工区は、平成７年度に佐賀西部導水事業に係る試掘調査が実施されたが、遺構・遺物は確認されていない。三ケ島工区は、祇園川の右岸に位置するが未周知地区である。

今回の導水路工事は、基本的に現道部分で実施されることが多いが、事前の確認調査に際しては、車両などの通行の安全を確保する必要があり、現道の調査が困難であるため、確認調査は工事対象予定地の隣接地（水田）で行なった。幅２ｍ×長さ２ｍのトレンチを基本に設定し確認調査を進めたが、遺構の検出状況および地形から判断して適宜トレンチの幅、長さについては拡張した。

表土剥ぎは掘削機を使用し、人力により精査を行なった。トレンチの写真撮影後、土層図を作成し、遺構を検出した箇所は平面略図を作成した。また、遺構の性格を把握するためにサブトレンチを設定し、部分的に掘り下げを行なった。

記録作成後は、掘削機により埋め戻しを行ない、必要に応じて転圧機（タンパプレート）により転圧を行ない旧状に復した。

調査により確認した遺構は、弥生時代の溝跡１条、中世の溝跡５条、小穴などである。出土した遺物の主なものは、弥生土器・土師器、須恵器が遺構から出土している。また、客土中に陶磁器片が混じって出土している。

調査の結果、立物工区では、立物神社の北方に位置するところで小穴および遺物の包含層を確認した。古墳時代および中世の遺構が存在し、集落跡の一部と推定される。

また、祇園川横断工区では、農道部分の確認調査が可能になったこと、更に「立坑」部分の工事が緊急に必要になったので追加確認調査を実施した結果、弥生時代、中世の溝跡を確認した。当該地は埋蔵文化財包蔵地とし

ては周知されてなかったが、北方の赤司遺跡の範囲拡大として周知を図る必要がある。さらに、地元の伝承等では「アカジショウ」の位置は特定できないがこの周辺にあった可能性もあり、今後の調査の進展のなかで、「赤自庄」または「赤司庄」との関連に留意する必要がある。

なお、佐織・仁俣・三ケ島工区については、遺構、遺物は全く確認されなかった。

（5）小城町（牛尾地区）

牛尾地区は、平成9年度農林漁業用揮発油税財源見返農道整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、小城郡小城町大字池上字中隈3911他11筆の延長750mを対象に行なった。

調査対象地区は、牛尾山から派生する丘陵上に位置し、現況は蜜柑園および梅園となっている。周辺には、中隈遺跡などが所在している。

調査は、幅2m×長さ2mのトレンチを基本に設定し確認調査を進めたが、地形から判断して適宜幅、長さについては拡張した。4箇所のトレンチを設定し、表土剥ぎは人力で行ない、人力により精査を行なった。トレンチの写真撮影後、土層図を作成した。　記録作成後は、掘削機により埋め戻しを行ない、旧状に復した。

調査の結果、遺構は確認されなかった。また、出土遺物は、表土から磁器片などが少量出土した。明確な遺構も確認されていないため、工事施工については支障ないと判断される。

1　掘削機使用状況出状況（多久市　八ツ溝地区）

2　遺構検出状況（佐賀市　鍋島地区）

3　遺構検出状況（富士町　御民田線）

4　転圧機使用状況（三日月町　西部導水地区）

図版1　確認調査状況（佐賀西部地区）

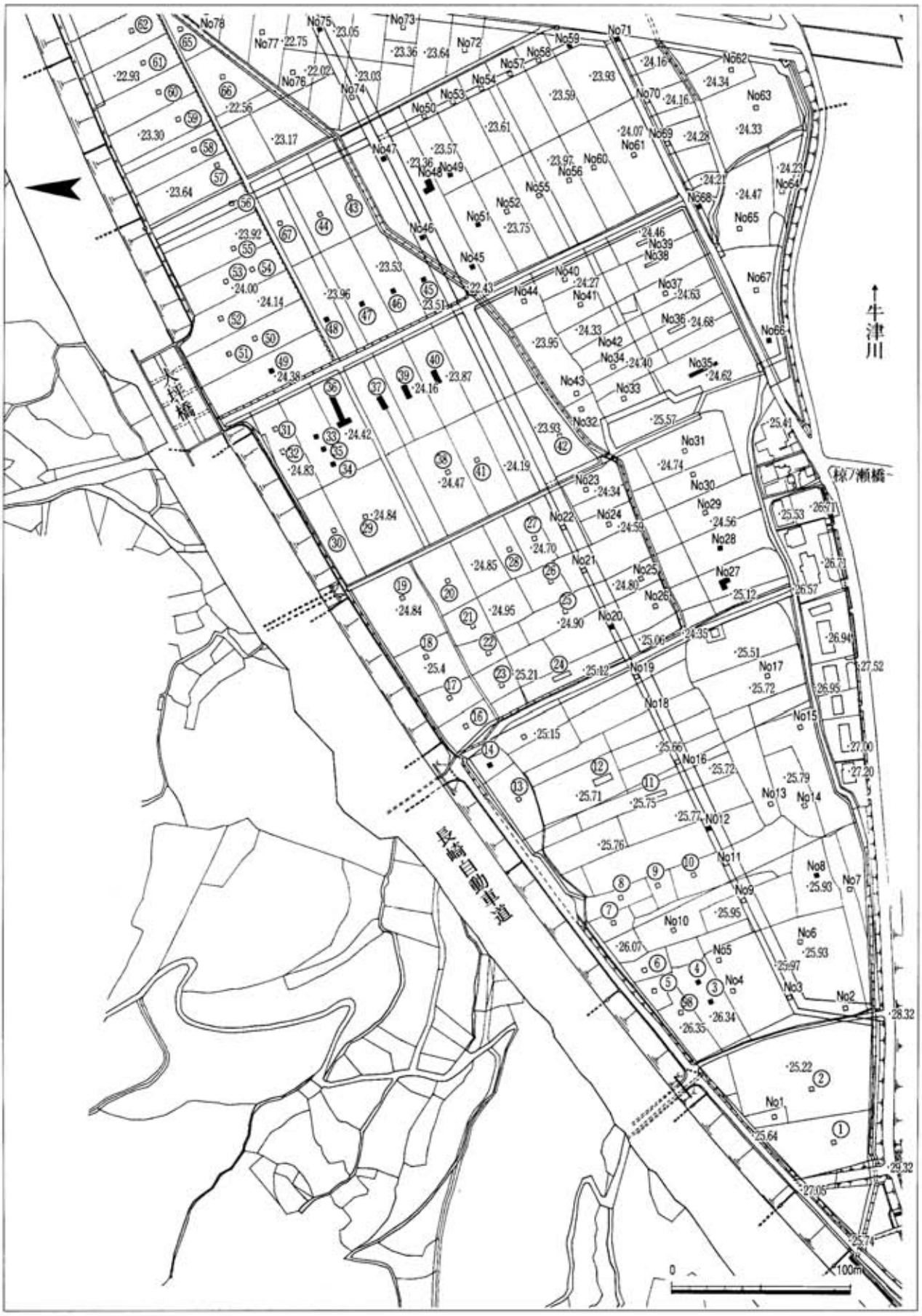



図9　多久市八ツ溝トレンチ配置図（1）　（S＝1／3,000）

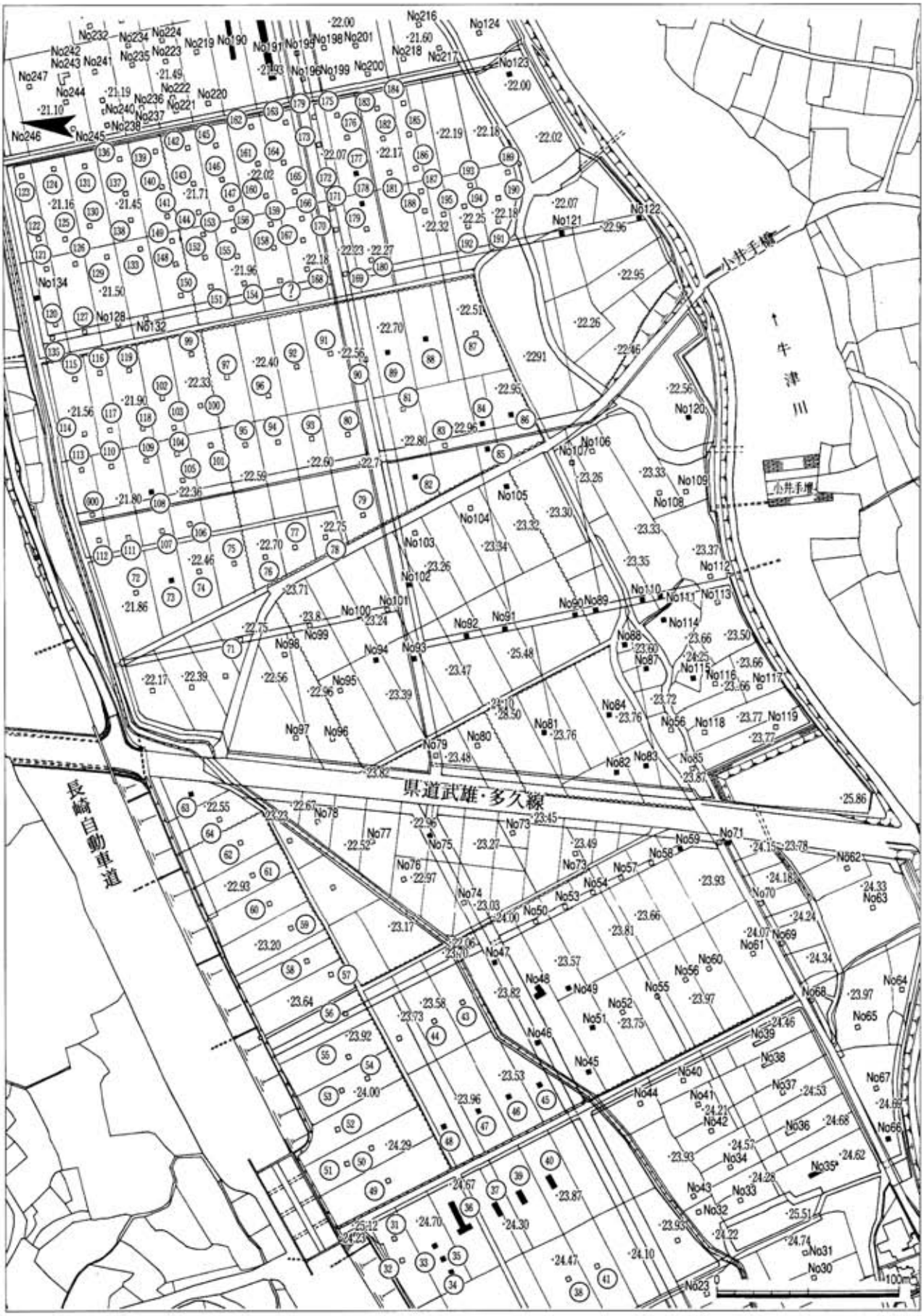



図10　多久市八ツ溝トレンチ配置図（2）　（S＝1／3,000）

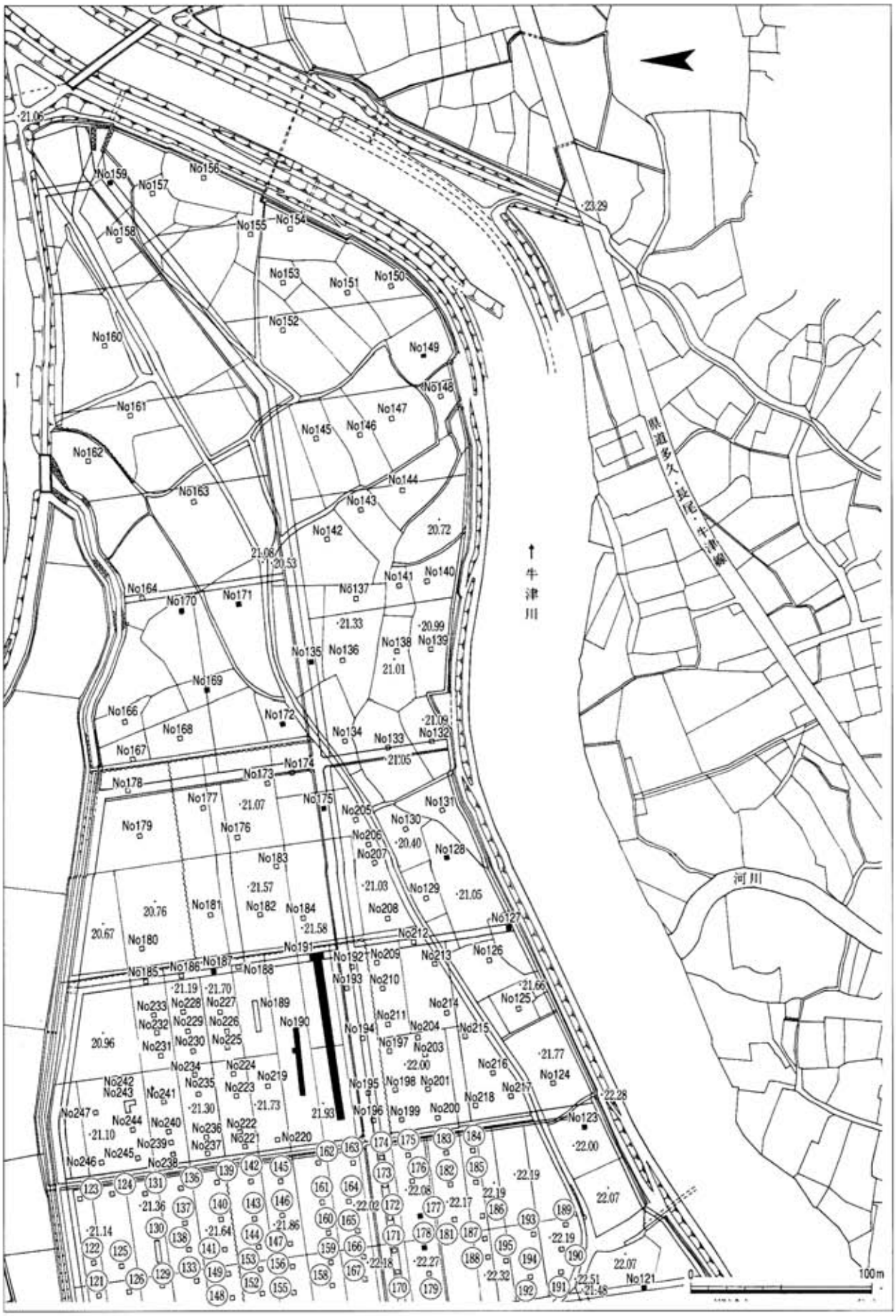



図11　多久市八ツ溝トレンチ配置図（3）　（S＝1／3,000）

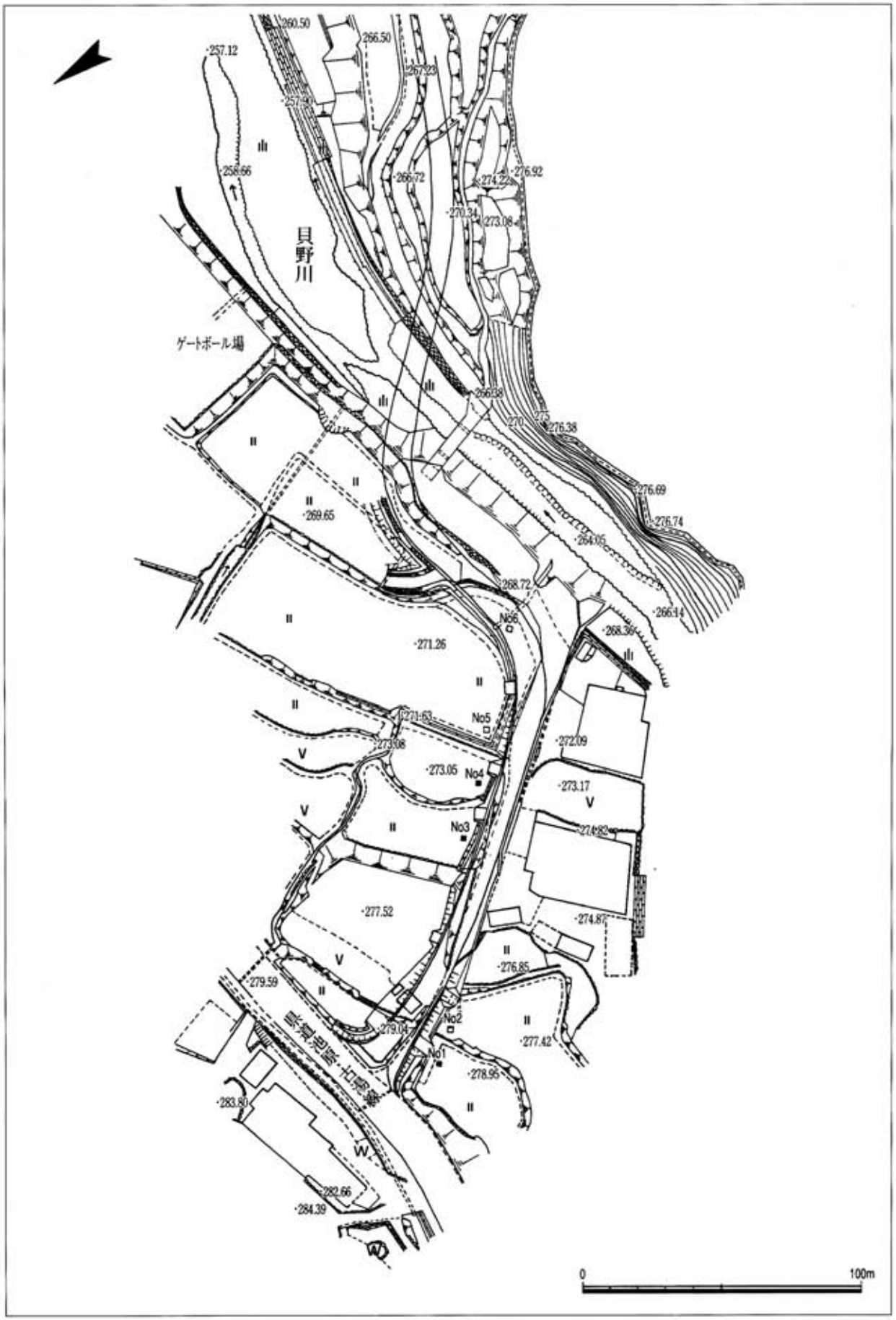



図12　富士町御民田線トレンチ配置図（S＝1／2,000）

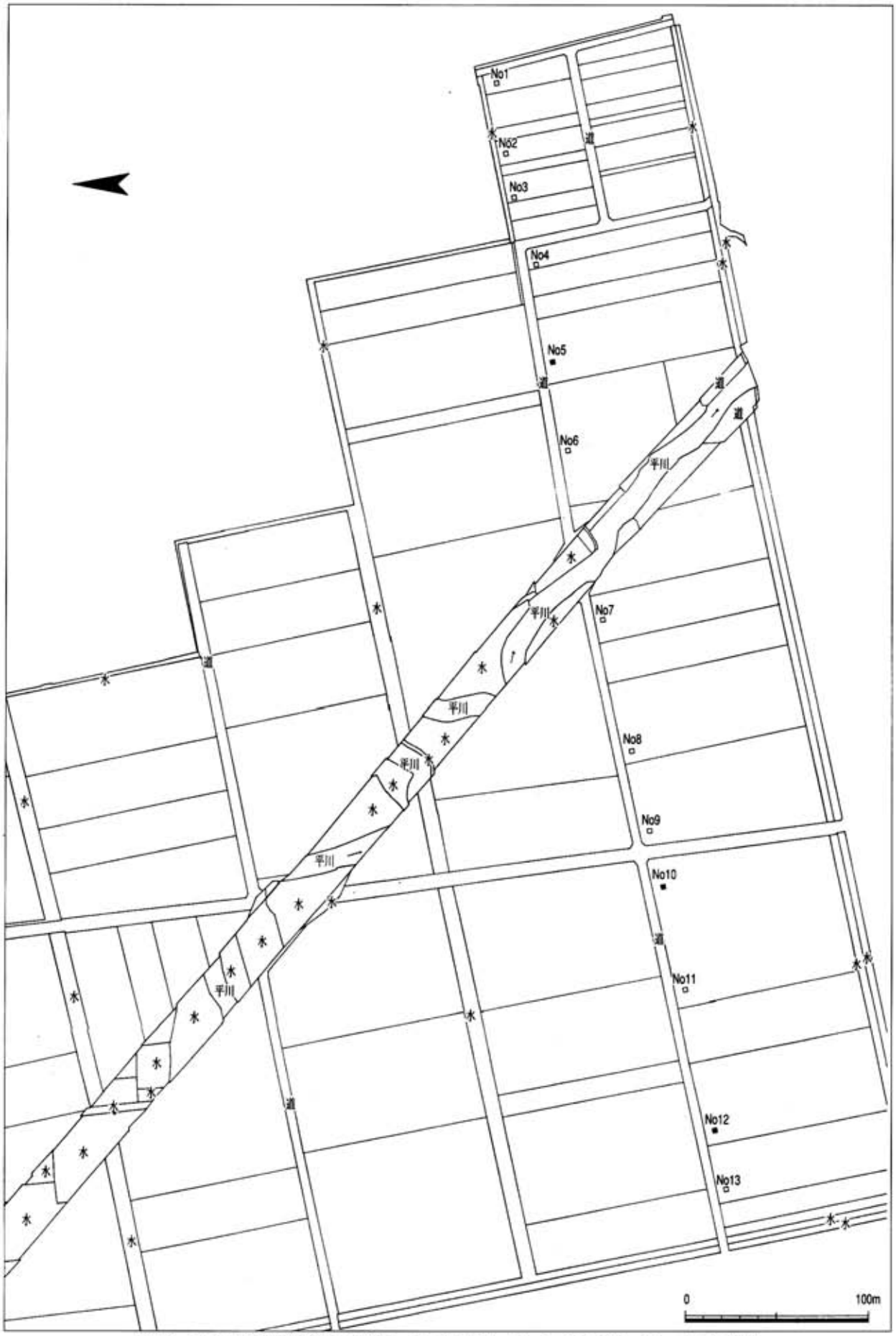



図13　三日月町西部導水（立物・赤司工区）トレンチ配置図（S＝1／3,000）

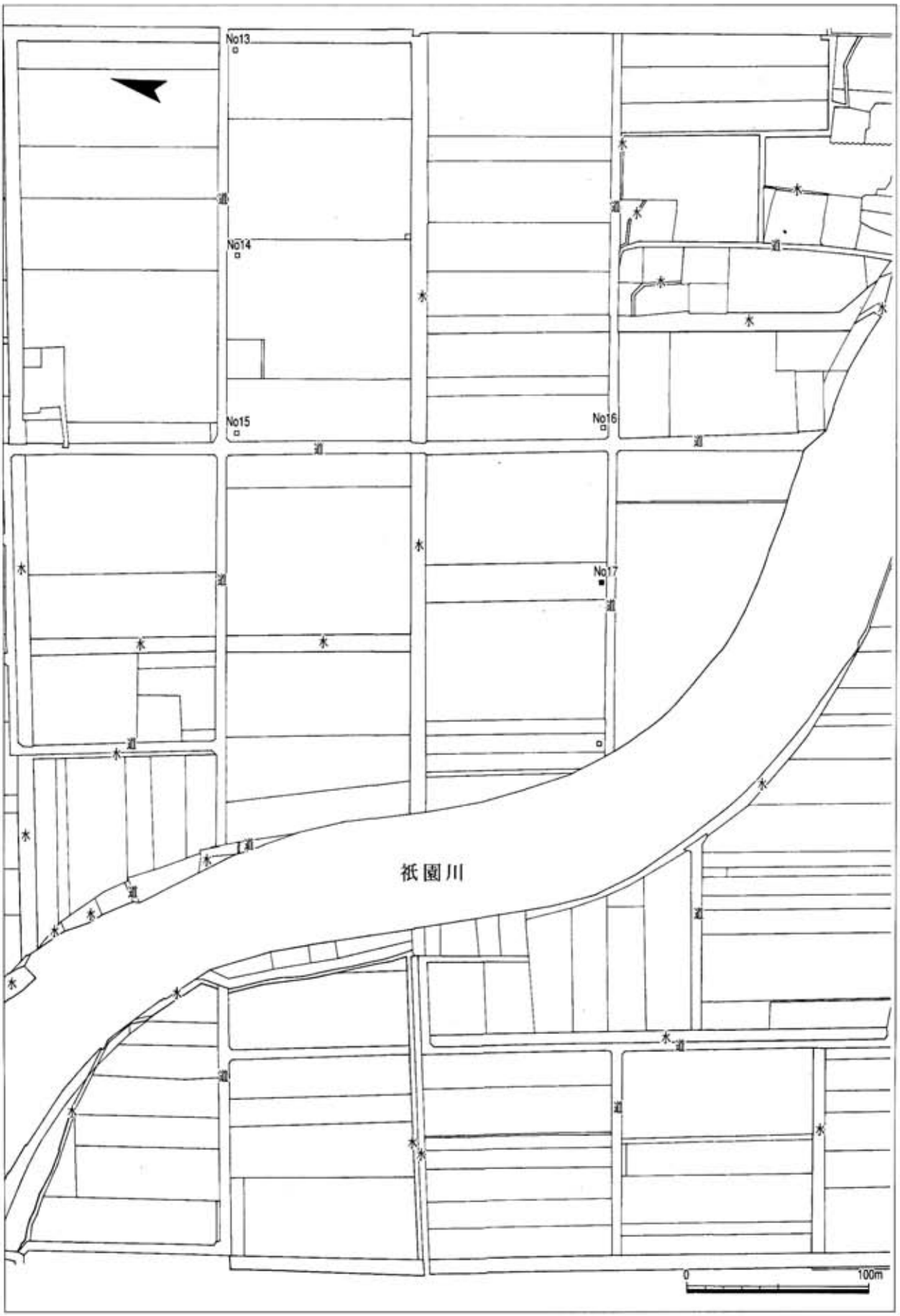



図14　三日月町西部導水（赤司・祇園川横断工区）トレンチ配置図（S＝1／3,000）

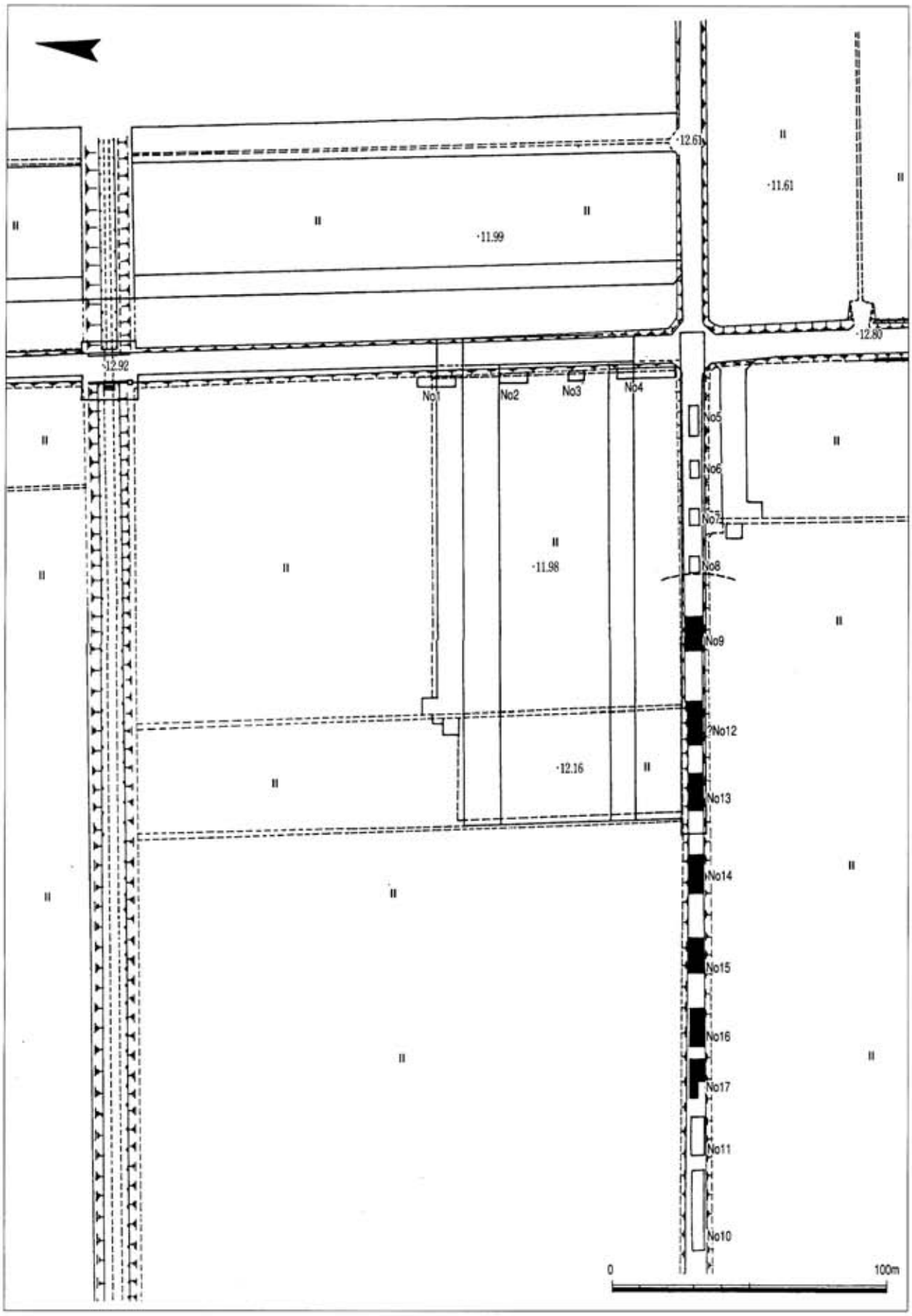



図15　三日月町西部導水（祇園川横断工区）トレンチ配置図（S＝1／2,000）

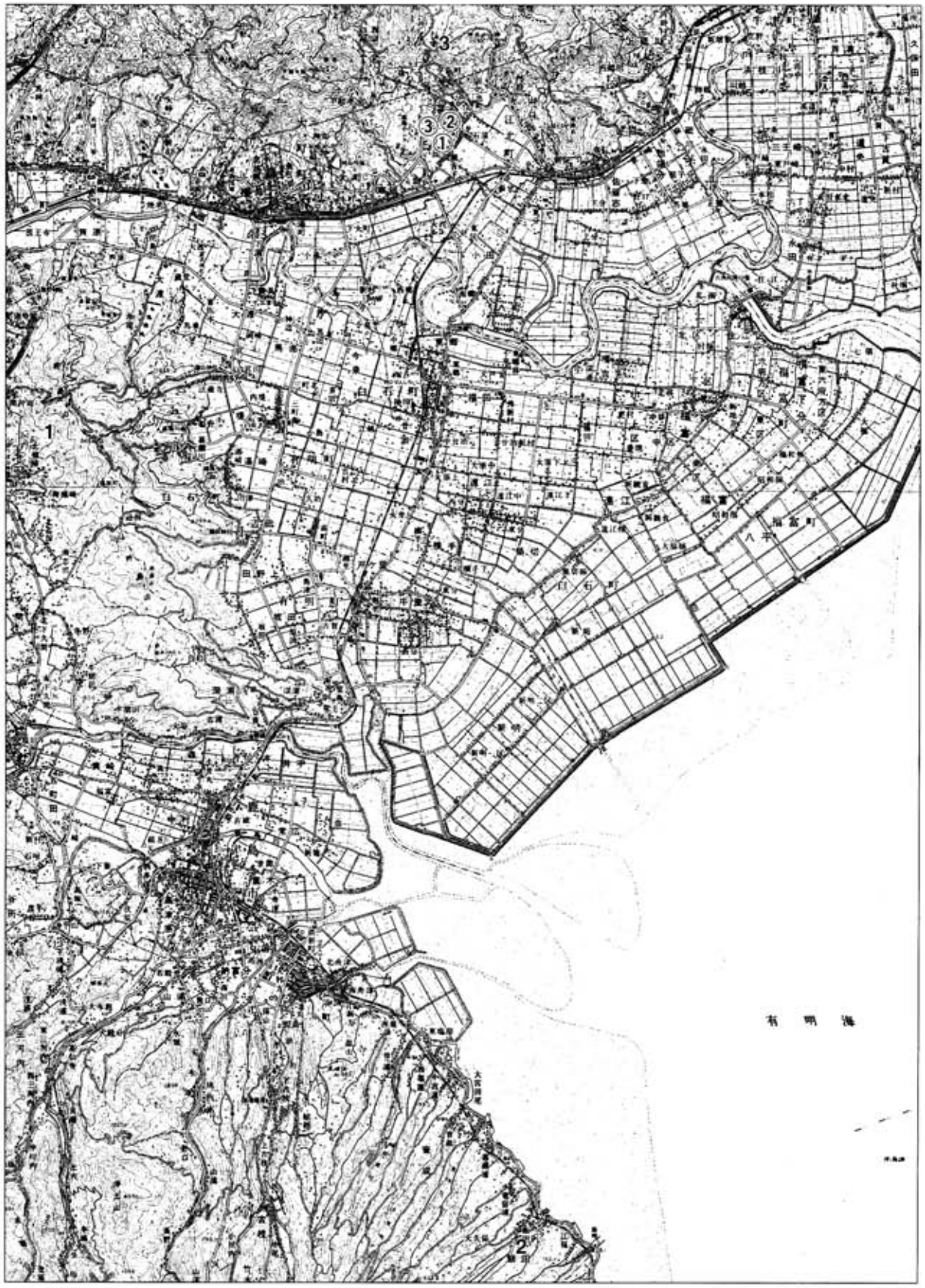



図16　佐賀南部地区周辺地形図（S＝1:100,000）

1．武雄市（杵島山線）　　①馬場北遺跡
2．鹿島市（飯田地区）　　②焼石遺跡
3．江北町（江北地区）　　③山中遺跡

（1）武雄市（杵島山線）

杵島山線（図15）は、平成9年度広域基幹林道杵島山線事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、武雄市橘町大字片白字片白9,321－1ほか1筆の延長1,600mを対象に行なった。

調査対象地区は、杵島山（連山）の南西部中腹の標高130m付近で、近くには角閃安山岩質凝灰角礫岩の大露頭である立岩が存在する。一帯には、この岩石が多数散在している。調査対象地の周辺には、北側800mに国史跡おつぼ山神籠石があり、また、片白古墳群や楢崎古墳群が埋蔵文化財包蔵地として周知されている。

調査は、岩陰部を対象に巨岩の露頭した下部に0.5m×4mのトレンチを1箇所設定し、人力にて、遺構・遺物の有無を確認した。

調査の結果、厚めに堆積した黒色土（1層）の下に明黄褐色土（2層）があり、その下は岩盤（3層）となっていた。なお、2層上面において、径0.3m程度の焼土と瓦器・土師器を確認した。

試掘した地点は、巨岩がオーバーハングしたところであり、旧石器時代、縄文時代の岩陰遺跡の可能性があったため試掘調査を実施したが、3層は岩盤となっており旧石器～縄文時代の遺構・遺物は確認されなかった。また、当該地はおつぼ山神籠石の石材の採集加工地と推定されている地区であるが、露頭している岩石は風化しており、剥離痕は確認されず、さらに現況では急傾斜の地形であり工人のキャンプ跡などを確認することは困難であると考えられる。よって、今回の調査では平安時代末期の遺物が5点出土しており、当該地は巨岩を対象とする信仰遺跡の存在が考えられる。

これらの調査結果を基に、林道計画と遺跡の保存について協議を重ね、当該地を迂回する形で設計変更がなされ、遺跡の保存が図られることになった。

（2）鹿島市（飯田地区）

飯田地区は、平成9年度県営担い手育成基盤整備事業に伴い試掘調査を実施した。

調査は、鹿島市大字飯田の5.0haを対象に行なった。

調査対象地区は、多良岳火山の造山活動によってできた山地の末端部にあたり、長年の河川の削平によって造られた谷に位置する。谷の両岸は造山当時の山の斜面を残し、緩やかにまっすぐ海の方向に傾斜している。谷は当該地から急に広がり、末端では2つの谷が合流して300mほどの幅になっている。

調査対象地区の周辺には、遺跡は特に知られていないが、七浦地区では当該地と同様な地形を呈し、丘陵の末端部のほぼ海岸沿いに西塩屋遺跡、西塩屋古墳が立地している。

調査は、2m×2mのトレンチを基本に59箇所設定し、掘削機（バックフォー）により表土剥ぎを行ない、その後、人力で精査を行なった。トレンチの状況を写真撮影し、土層略図などの記録作成を行ない、掘削機により埋め戻し旧状に復した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。

今回の試掘調査により、当該地は飯田日当川および飯田川の氾濫原と考えられ、基盤層である黄褐色礫混じり粘性土の崩壊土および流失土を中心とする堆積が広がっているのを確認した。また、部分的には旧河道と考えられる礫層なども認められた。良好な遺物包含層は確認されず、遺構・遺物も検出されなかったため、当該地には、遺跡は存在しない、あるいは遺跡が存在したとしても極めて遺構密度が低く残存状況が悪いものと考えられる。

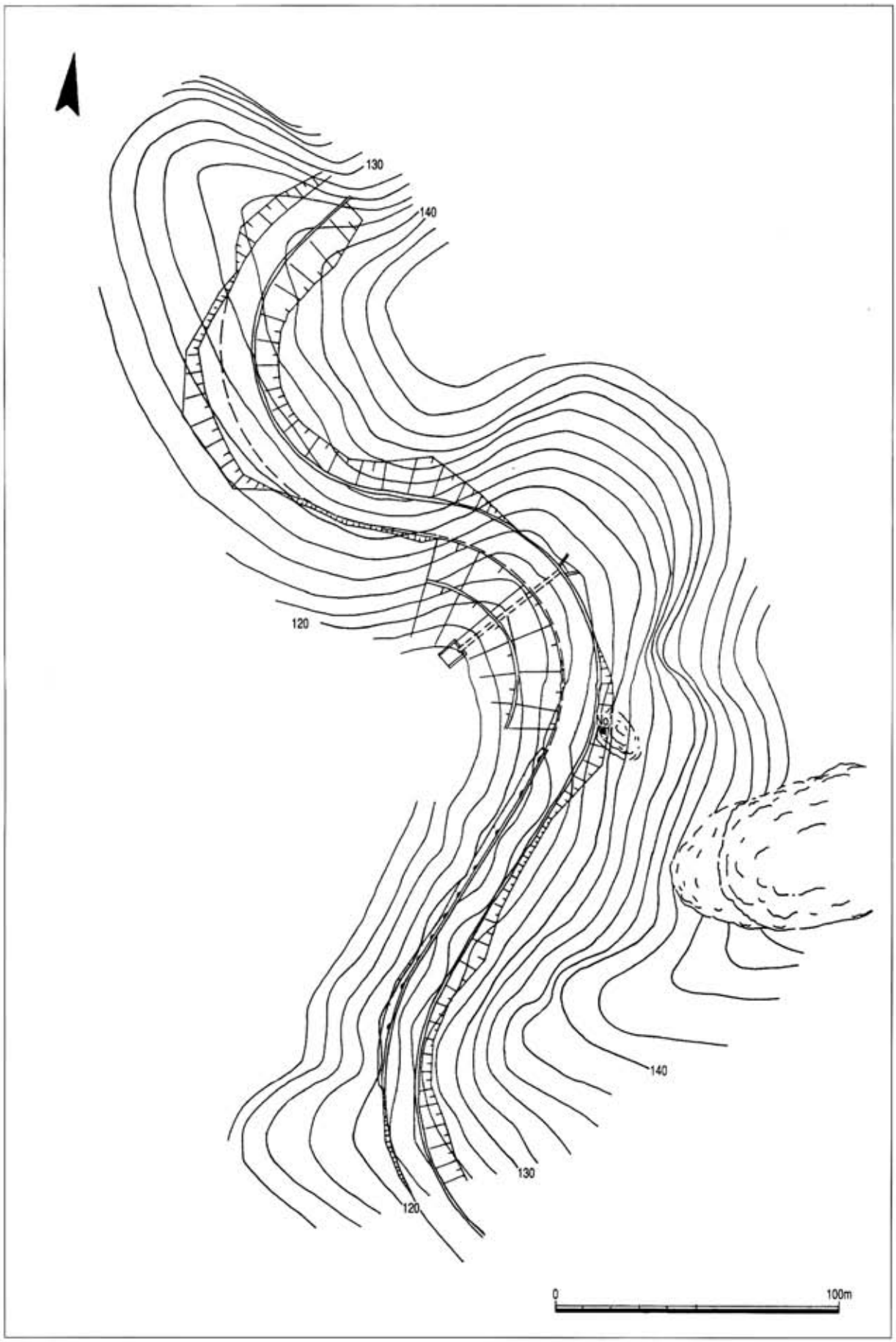



図17　武雄市杵島山線トレンチ配置図（S＝1／2,000）

（3）江北町（江北地区・5号農道・8～9号農道）

江北地区（図18）は、平成9年度中山間地域総合整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、杵島郡江北町大字上小田字畑分・楢原の5.0haを対象に行なった。

調査対象地区は、六角川の支流である祇園川がつくる扇状地一帯に広がる水田地帯である。周辺には、近代に栄えた炭坑関係の施設・ボタ山などが存在する。対象地区内には、畑分遺跡・楢崎遺跡などの遺物散布地があり、北側500mのところには弥生時代・中世の集落跡である馬場北遺跡や焼石遺跡などがある。

調査は、1.5m×3.0mのトレンチを基本に5箇所設定し、掘削機（バックフォー）により表土剥ぎを行ない、その後、人力で精査を行ない遺跡の有無および性格について調査した。トレンチの状況を写真撮影し、土層略図などの記録作成を行ない、掘削機により埋め戻し旧状に復した。

調査の結果、№3トレンチで幅約0.7mの溝状の落ち込みを確認したが、その他のトレンチでは遺構は確認できなかった。また、遺物も確認されなかった。

今回の調査では、明瞭な遺構は確認されなかった。周辺の馬場北遺跡や馬場南遺跡などに近接していることから遺構の存在が想定されたが、当該事業地区内では遺構の存在する可能性は低いと考えられる。

5号・8号・9号農道は、平成9年度中山間地域総合整備事業に伴い確認調査を実施した。

5号農道（図18）の調査は、杵島郡江北町大字上小田字団子前の延長250mを対象に行なった。

調査対象地区は、周知の埋蔵文化財包蔵地である団子前遺跡の中、緩斜面上に位置する。現況は蜜柑園となっている。南側斜面に鞍部があり、そこから多数の黒曜石剥片や黒曜石の石鏃が表面採集されている。周辺には、岳遺跡などの遺物散布地が所在している。

調査は、人力により2.0m×2.0mを基本とするトレンチ4箇所を設け、遺跡有無・性格などを精査した。

トレンチの状況を写真撮影し、土層略図などの記録作成を行ない、人力により埋め戻し旧状に復した。

調査の結果、遺構は確認されなかったが、南側鞍部に設定した№17・18・19トレンチで、縄文晩期の土器片および黒曜石の剥片を確認した。

今回の調査では、明瞭な遺構は確認されなかったが縄文晩期の遺物包含層が№17・18トレンチを中心に広がるものと考えられ、遺構が存在する可能性があり今後留意する必要がある。

8号・9号農道の調査は、杵島郡江北町大字山口字白木・前久保の延長760mを対象に行なった。

調査対象地区は、緩斜面上に位置し、現況は蜜柑園・キウイ畑となっているが、削平はほとんどなく旧地形を比較的良好に残している。周知の埋蔵文化財包蔵地である白木遺跡内にある。

調査は、人力により2.0m×2.0mを基本とするトレンチ10箇所を設け、遺跡有無・性格などを精査した。トレンチの状況を写真撮影し、土層略図などの記録作成を行ない、人力により埋め戻し旧状に復した。

調査の結果、遺構および遺物包含層は確認されなかった。なお、表面採集および検出中に黒曜石剥片・黒曜石石核、中近世陶磁器を確認している。

図18　江北町江北地区５号農道トレンチ配置図（S＝1／3,000）

## 4．佐賀北部地区の調査

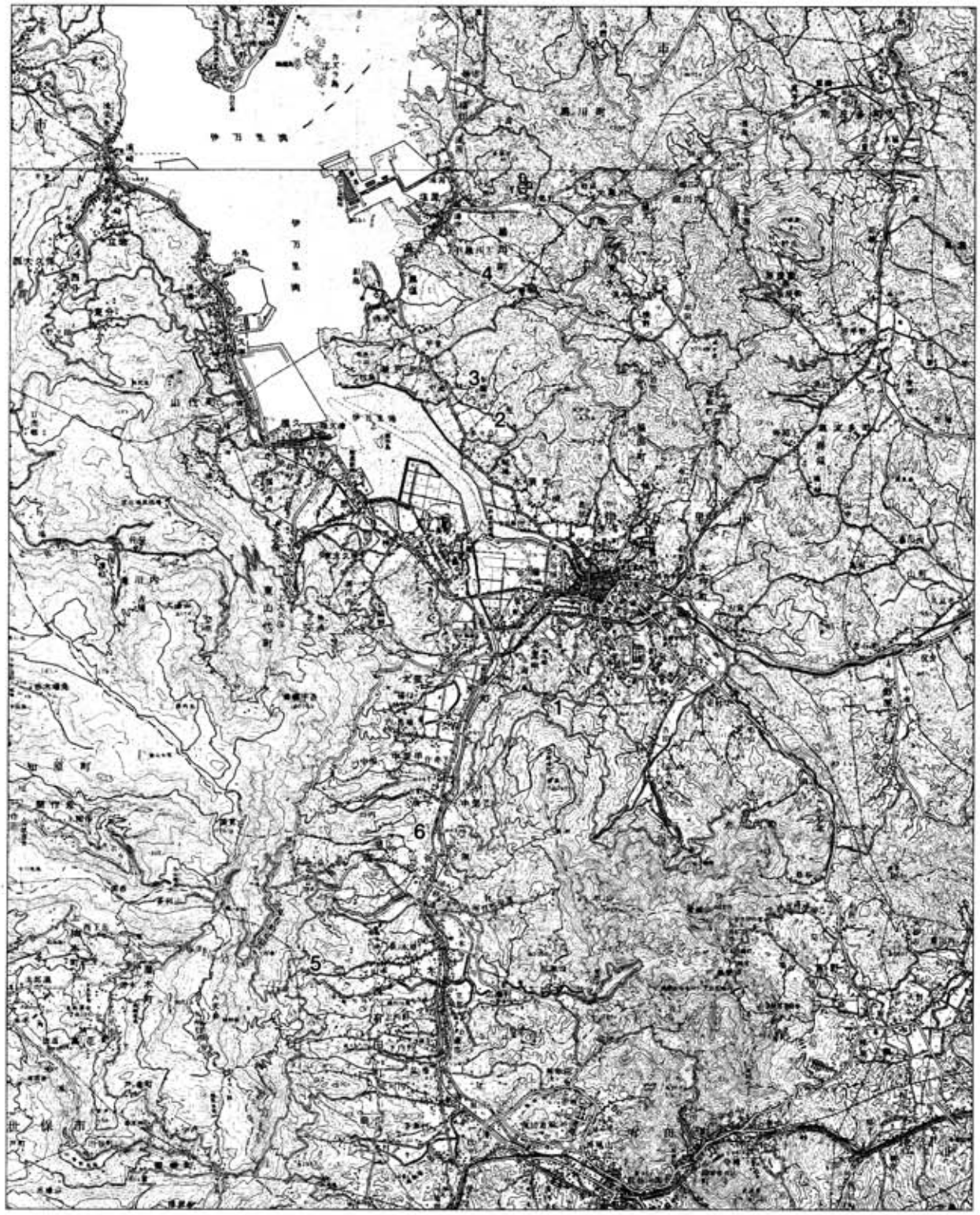



図19　佐賀北部地区周辺地形図（S＝1:100,000）

1　伊万里市　渚線
2　伊万里市　木須里団地
3　伊万里市　本瀬戸幹線
4　伊万里市（小黒川幹線）
5　西有田町　西有田西部地区
　　山谷・椎の木線

（1）伊万里市（渚線・国営総合農地開発　木須団地・本瀬戸幹線・小黒川幹線）

渚線（図20）は、平成８・９年度ふるさと農道緊急整備事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、伊万里市立花町字鈴桶ほかの延長300ｍを対象に実施した。

調査対象地区は、腰岳の北側斜面の中腹に位置し、現状は果樹園・道路で標高127～173ｍを測る。腰岳遺跡群（伊万里市1216）および鈴桶遺跡（伊万里市1179）に含まれている。腰岳は有数の黒曜石の産地あり、昭和59年に二里町の鈴桶遺跡、平成４年に立花町の鈴桶遺跡が伊万里市教育委員会によって調査されている。

調査は、蜜柑が植えてあるため幅0.5ｍのトレンチを基本に平成８年度工事予定地では17箇所、平成９年度工事予定地では11箇所設定し、人力により調査を実施した。

調査の結果、両工区とも遺構は確認されなかったが、表土および蜜柑園造成の客土中に多量の黒曜石の剥片を確認した。

出土遺物は、平成８年度工区のNo.15～17トレンチにおいて、表土および客土中から縦長剥片を含む黒曜石の剥片が数十点出土した。

さらに、平成８年度工区のNo.15～17トレンチを含む果樹園の造成土中に黒曜石の剥片が含まれているので、工事予定地の現道部分と法面を除く約50㎡の７箇所に幅0.5ｍのトレンチを設定し遺物の採集を行なった。その結果、コンテナ３箱分の黒曜石の剥片資料が得られた。

また、平成９年度工区のNo.１～５トレンチにおいて表土および客土中から黒曜石の剥片が数十点出土した。なお、平成９年度工区においても、法面を除く約100㎡の範囲において果樹伐採後に同様の方法で遺物の採集を行なった。

木須団地（見上工区・戸渡島工区）は、平成９年度国営総合農地開発事業に伴い試掘調査を実施した。

調査は、伊万里市木須町字見上、戸渡島の13.0haを対象に実施した。

調査対象地区は、大平山から南西方向へ派生した丘陵が平野部に接する場所に位置する。旧地形は平野部から干潟に続く海岸全体と思われる。見上工区で標高0.5～５ｍ、戸渡島工区で標高０ｍを測る。現状はいずれも水田である。

周辺の丘陵上を中心に駄道遺跡（伊万里市1083）、宮ノ前遺跡（伊万里市1085）、鳥越遺跡（伊万里市1086）などが確認されているが、本調査は実施されておらず、詳細は不明である。また、丘陵を越えた場所に宮ノ前北遺跡（伊万里市1355）があり、標高約５ｍの場所で縄文時代の包含層を確認している。

調査は、圃場整備の範囲および道路予定地に見上工区では71箇所、戸渡島工区では14箇設定し、掘削機と人力により実施した。トレンチは２×２ｍを基本に設定し、トレンチの状況を写真および土層略図などで記録作成を行なった後、埋め戻し旧状に復した。

調査の結果、両工区とも遺構は確認されなかった。平野部範囲の地山は明黄褐色粘性土であるが、旧干潟部には貝層が認められた。

今回の調査では、前回の宮ノ前北遺跡調査で縄文時代の遺構を確認しており、同様の遺構の検出を想定したが、遺構・遺物は確認されなかった。

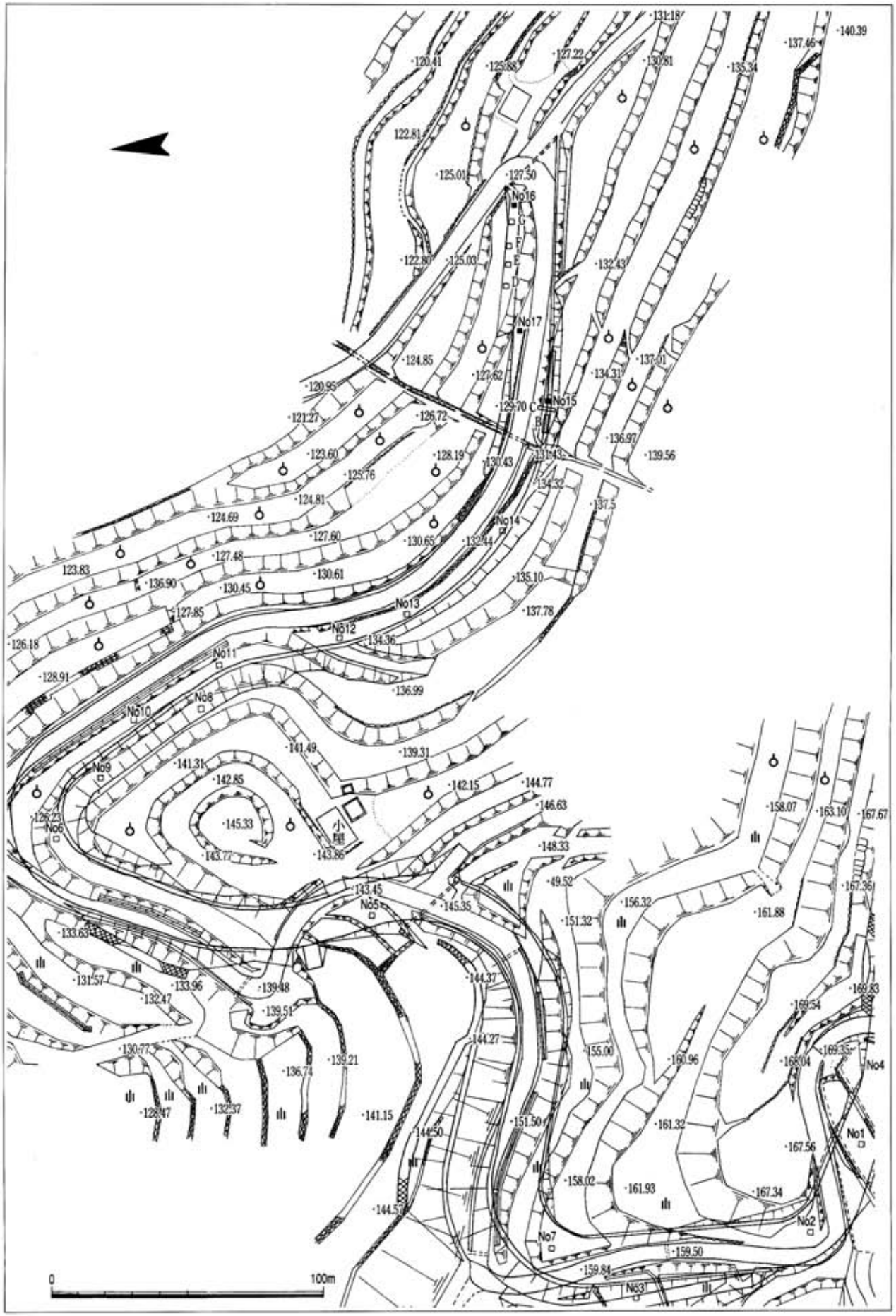



図20　伊万里市渚線トレンチ配置図（S＝1／2,000）

本瀬戸幹線（図21）は、平成９年度国営総合農地開発事業に伴い試掘調査を実施した。

調査は、伊万里市瀬戸町字樽浦の延長1,000ｍを対象に実施した。

調査対象地区は、南東方向に開けた丘陵の先端部に位置し、目前には矢竹川の支流が流れている。矢竹川によって形成された丘陵から旧氾濫原を中心としている。標高は丘陵部分が約31～34ｍ、旧氾濫原部分が約1.5ｍである。現状は、丘陵部分は畑、旧氾濫原部分が水田である。

周辺の丘陵上に真中遺跡（伊万里市1354・6085）が確認されている。真中遺跡からは旧石器時代から縄文時代にかけての石器が出土している。また、南方向、約1.5㎞には宮ノ前北遺跡（伊万里市1355）があり、標高約５ｍの場所で縄文時代の包含層を確認している。

調査は、道路予定地に８箇所設定し、掘削機と人力により実施した。トレンチは２×２ｍを基本に設定し、トレンチの状況を写真および土層略図などで記録作成を行なった後、埋め戻し旧状に復した。

調査の結果、遺構は確認されなかったが、縄文時代の遺物包含層を検出した。出土遺物には、黒曜石とサヌカイトの石器がある。

今回の調査では、厚さ約20㎝の縄文時代前期の遺物包含層を確認した。遺物の集中率は１㎡当たり約23点程度で包含層の広がりから360㎡の遺跡を確認した。今回は試掘調査を実施していないが、遺跡はさらに北方向に広がる可能性が高い思われる。

また、新発見の遺跡であったので、樽浦遺跡（伊万里市1536，散布地）として佐賀県遺跡地図に登録し周知を行なった。

なお、工事計画と文化財保護との調整を図った結果、開発に係る337㎡については、平成９年度に伊万里市と九州農政局伊万里開拓事業所の間で調査委託契約を結び、本調査を行なうことになった。

小黒川幹線（図22）は、平成９年度国営総合農地開発事業に伴い試掘調査を実施した。

調査は、伊万里市黒川町字人辻の延長1,266ｍを対象に実施した。

調査対象地区は、丘陵先端部と立川の氾濫原が接する場所である。標高は約１ｍ、現状は水田である。

周辺には、北から南に伸びる丘陵先端部分が立川の旧氾濫原に接する場所に白水（土井頭）遺跡（伊万里市2001）・前田遺跡（伊万里市2002）が確認されている。なお、白水遺跡では甕棺19基が出土している。

調査は、道路予定地に５箇所設定し、掘削機と人力により実施した。トレンチは２×２ｍを基本に設定し、トレンチの状況を写真および土層略図などで記録作成を行なった後、埋め戻し旧状に復した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。

今回の調査により、当該地が立川の旧氾濫原と考えられ、遺跡は確認されなかった。

### （２）西有田町（西有田西部～大石地区・北岳地区・岩谷地区、山谷・椎の木線）

西有田西部地区は、平成９年度中山間地域総合整備事業に伴い試掘調査を実施した。

調査は、西松浦郡西有田町曲川丙字大石ほかの20.8haを対象に実施した。

調査対象地区は、国見山東麓の東西に延びる台地端部上および谷部に位置する水田である。周辺には、縄文時代晩期の横久保遺跡などある。

調査の結果、遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は確認されなかった。

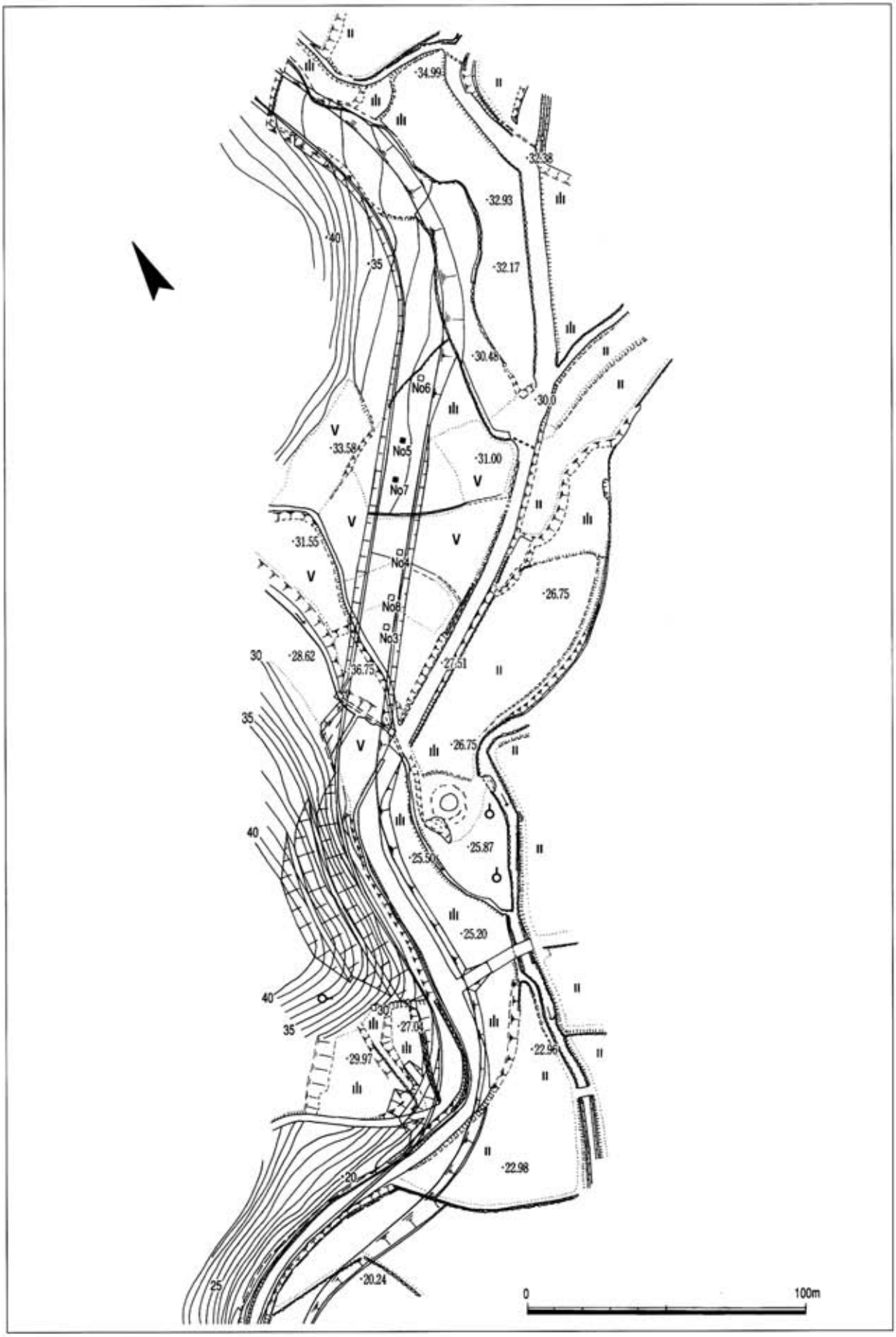



図21　伊万里市国営本瀬戸幹線道路トレンチ配置図（S＝1／2,000）

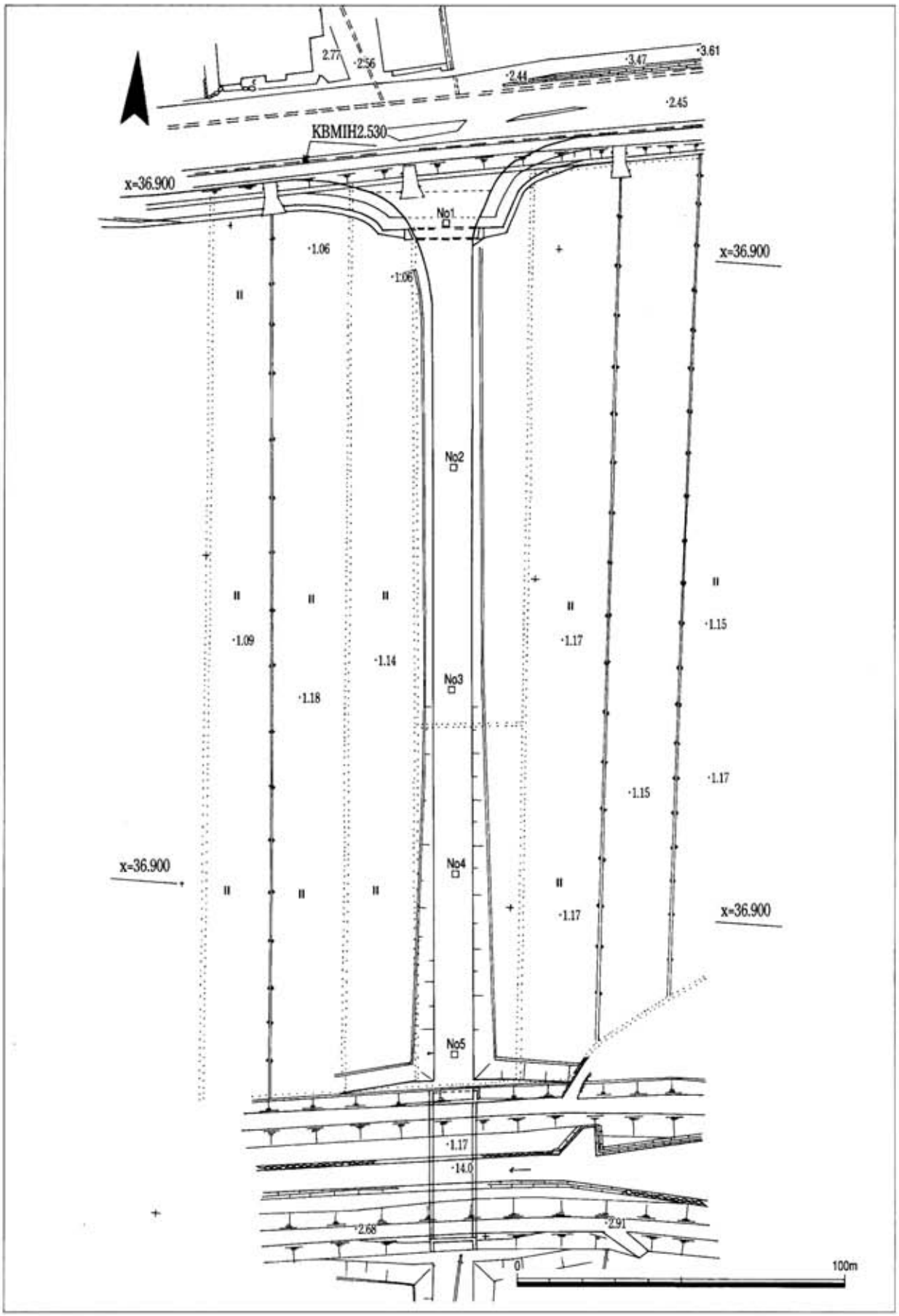



図22　伊万里市国営小黒川幹線道路トレンチ配置図

大石地区の調査は、西松浦郡西有田町曲川丙字大石ほかの2.14haを対象に実施した。調査は、20m間隔に2m×2mのトレンチを設定し、人力で実施した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。また、周辺の踏査を実施したが遺物は確認されなかった。

北岳地区の調査は、西松浦郡西有田町曲川丙字幸ノ上・貝立の5.42haを対象に実施した。調査対象地区は、国見山東麓の東西に伸びる台地に挟まれた谷部に位置する。現況は水田となっている。周辺には、東300mに神の前遺跡がある。

調査は、急傾斜地を除き20m間隔に2m×2mのトレンチを10箇所設定し、人力で実施した。各トレンチともに谷あいに設定したため調査途中、水が湧いてきた。トレンチ状況を写真撮影後、土層図などの記録作成を行ない旧状に復した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。また、周辺にも遺物の散布は認められなかった。

岩谷地区の調査は、西松浦郡西有田町曲川丙字岩谷・南川原の2.2haを対象に実施した。調査対象地区は、国見山東麓の東西に伸びる台地の東端に位置する。当該地は台地東端の谷部にあたる水田である。眺望が開けたなだらかな傾斜地で遺跡の存在が予察された。周辺には北450mに岩山遺跡、南600mに谷頭遺跡がある。

調査は、ほぼ20m間隔に2m×2mのトレンチを9箇所設定し、人力で実施した。トレンチ状況を写真撮影後、土層図などの記録作成後、人力で埋め戻し旧状に復した。

調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。また、周辺の踏査を実施したが遺物は確認されなかった。

山谷・椎の木線は、ふるさと農道緊急整備事業に伴い、確認調査を実施した。調査は、西松浦郡西有田町山谷乙字柳谷の2,312mを対象に実施した。調査対象地区は、国見山東麓の東西に延びる台地上に位置する。周知の埋蔵文化財包蔵地、野瀬原遺跡に含まれている。遺跡は台地の最高所あり、東に向かってなだらかに傾斜する。南北は急傾斜の崖となっている。現況は未舗装の農道で、工事は畑・山林を取り込んで計画されている。

調査は、工事計画道路のセンターに、ほぼ20m間隔で2m×2mのトレンチを16箇所設定し、人力に掘削を行なった。トレンチ状況を写真撮影後、土層図などの記録作成後、人力で埋め戻し旧状に復した。

調査の結果、遺構は確認されなかった。

また、出土遺物は、攪乱層から数点の黒曜石フレイクを検出したのみである。今回の調査により、遺跡の中心は計画路線の北側の台地縁辺に広がっていると考えられる。

1　伊万里市　本瀬戸幹線

2　伊万里市　渚線

3　西有田町　ふるさと農道

図版2　確認調査状況（佐賀北部地区）

## 5．佐賀上場地区の調査

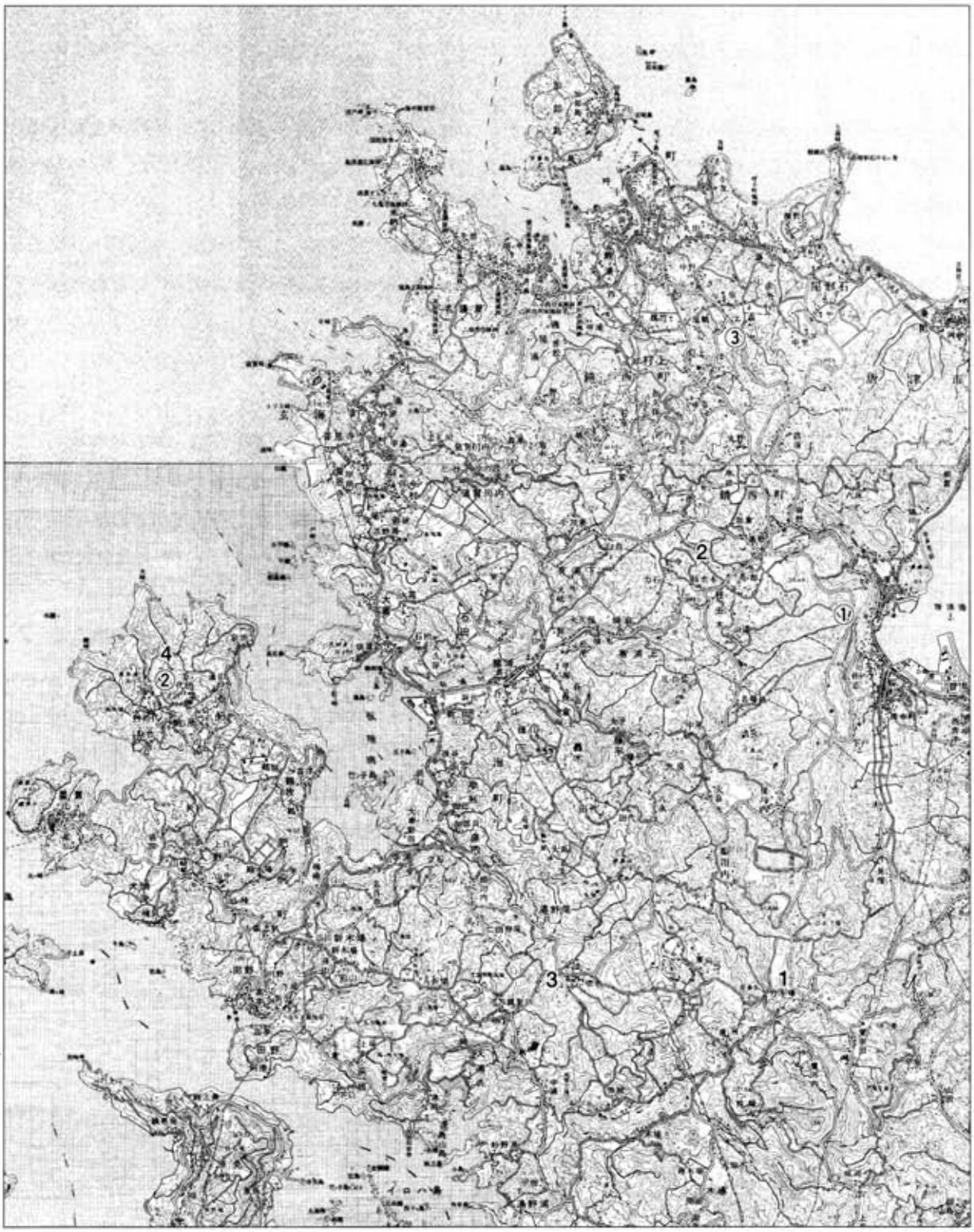



図23　佐賀上場地区周辺地形図（S＝1:100,000）

1　唐津市　竹木場（上場Ⅱ期）
2　唐津市　枝去木（上場Ⅱ期）
3　肥前町　万賀里川第２号
4　肥前町　納所支線第２号

①八幡溜第Ⅱ遺跡
②太田遺跡
③塩鶴遺跡

（1）唐津市　（竹木場地区・枝去木地区）

竹木場（上場Ⅱ期）地区（図24）は、平成９年度県営畑地帯総合土地改良事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、唐津市竹木場字丹ノ木・岩野の3.0haを対象に実施した。

調査対象地区は、唐津市の西に広がる標高約220ｍ前後の通称「上場台地」の南部に位置する。竹木場地区を流れる松浦川支流のひとつ田中川の源流付近にあたる。この竹木場地区は旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が多く見られる。調査対象地区を南西部に少し下ると縄文時代の貯蔵穴が検出され多くの遺物が出土した高峰遺跡や唐ノ川丸尾遺跡・唐ノ川西ノ吹遺跡が所在しており、また南東には竹木場前田遺跡・菅牟田黒龍遺跡など多くの遺跡が存在する。

調査は、２ｍ×２ｍのトレンチを基本に17箇所設定したが、状況に応じてその都度設定を変えた。今回の調査対象地は、全体的に狭小な谷に営まれた水田耕作地であるが、田中川に接する高峰遺跡の上流にあたる。このため、遺跡が立地する可能性の高い丘陵端を中心にトレンチを設定した。

掘り下げは人力で行ない調査員が遺構・遺物の有無を確認し、写真撮影・略測を行なった。埋め戻しは填圧用具などを使用して行なった。

調査の結果、遺構は確認されなかった。なお、現水田面の下の嵩上げ部分と見られる層（粘質土層や礫層など）から陶磁器片や黒曜石・安山岩などの石鏃片・剥片などが出土している。

今回の調査では、現水田面の下は嵩上げなどにより造成されたもので、さらに下層には川底に見られる礫が広がっていた。礫層などに認められる遺物は、流れ込みと造成時のものと考えられる。

枝去木（上場Ⅱ期）地区（図25）は、平成９年度県営畑地帯総合土地改良事業に伴い確認調査を実施した。

調査は、唐津市枝去木の延長1,100ｍを対象に実施した。

調査対象地区は、唐津市の西側に広がる標高約140ｍの通称「上場台地」の中央部に位置する。この枝去木地区には旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が多く見られる。

今回の調査対象地区には、枝去木分校入口遺跡が一部含まれている。また、周辺には枝去木山中遺跡、馬部甚蔵山遺跡、原遺跡など著名な遺跡がある。さらに、調査区東の鎮西町側には前田Ⅱ遺跡が所在する。

調査は、２ｍ×２ｍのトレンチを基本に30箇所設定したが、樹木などによる制約があり状況に応じてその都度設定を変え、計23箇所のトレンチ調査を実施した。掘り下げは人力で行ない、調査員が遺構・遺物の有無を確認し、写真撮影・略測を行なった。埋め戻しは填圧用具などを使用して行なった。

調査の結果、遺構は確認されなかったが、旧石器時代から縄文時代の遺物包含層を確認した。出土遺物には、トレンチから黒曜石片や陶磁器片が出土している。なお、黒曜石片は、枝去木分校入遺跡と前田Ⅱ遺跡のほぼ中間地点から出土している。

今回の調査を行なった№16～20トレンチは、丘陵のピークに近く枝去木分校入口遺跡の北側にあたる。この付近はなだらかな傾斜をもち近接する鎮西町の前田Ⅱ遺跡も尾根伝いに続いている。これらのことから、２つの遺跡の範囲が広がっている可能性が高い。

№23～28トレンチは、かつて多量の遺物が出土した枝去木分校入口遺跡に近接する部分である。既設道路の整備時および果樹園造成時に削平を受けた部分もあるが、遺物包含層の遺存状況は良好であると考えられる。

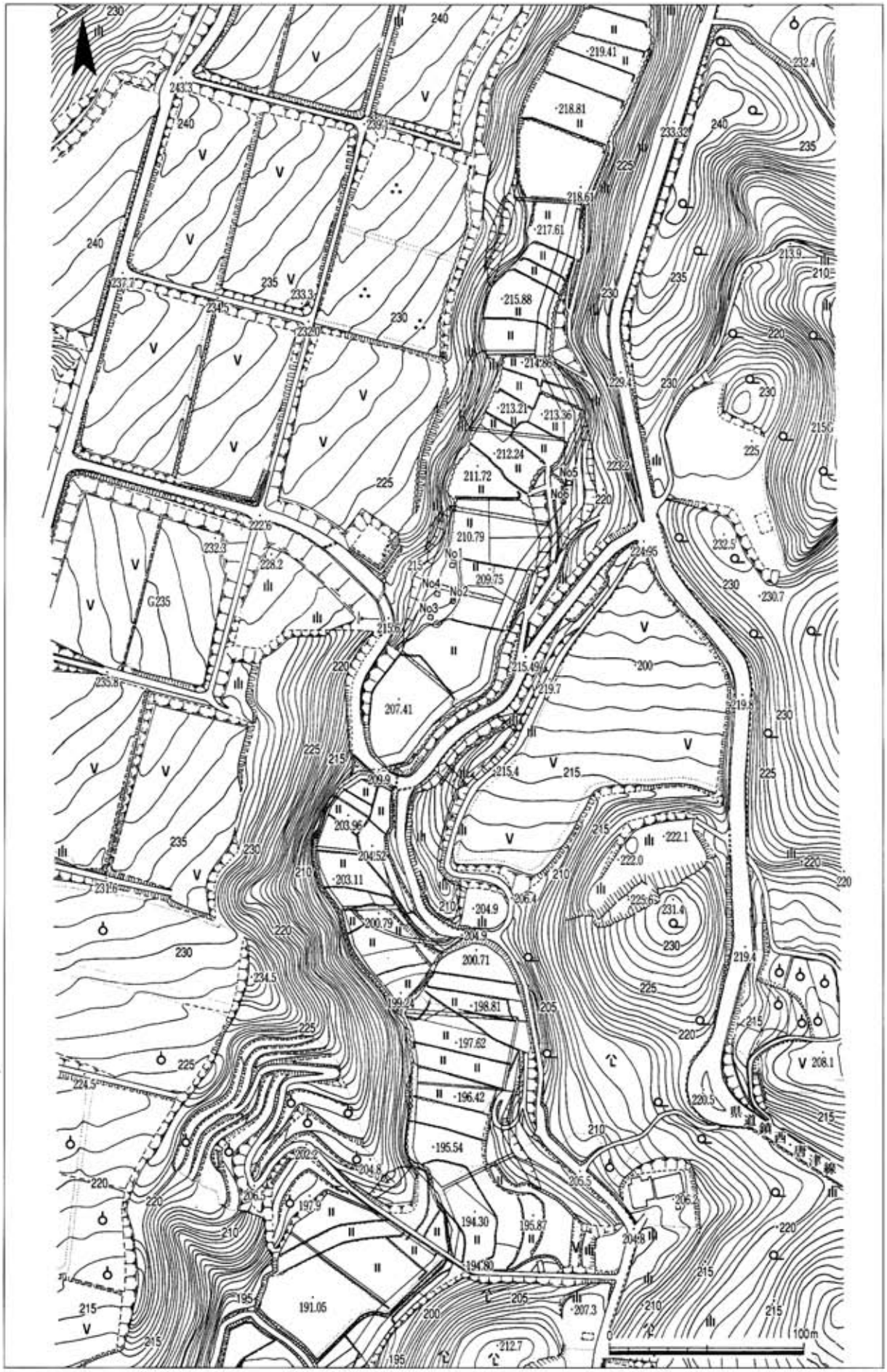



図24　唐津市竹木場（上場Ⅱ期）トレンチ配置図（S＝1／3,000）

図25　唐津市枝去木（上場Ⅱ期）トレンチ配置図

（2）肥前町（万賀里川第2号・納所支線第2号）

万賀里川第2号（上場Ⅲ期）地区（図26）は、平成9年度県営畑地帯総合土地改良事業農道整備に伴い試掘調査を実施した。

調査は、東松浦郡肥前町大字万賀里川字下長谷の0.2haを対象に実施した。

調査対象地区は、標高150m前後の丘陵地であるが、町内では起伏の激しい地区である。現況は谷部を利用した水田である。

調査対象地区及びその周辺には、周知の埋蔵文化財包蔵地が希薄である。

調査は、2m×2mのトレンチを基本に5箇所設定した。掘り下げは、すべて人力で行い、調査員が遺構・遺物の有無を確認し、写真撮影・略測を行なった。記録作成後、人力で埋め戻しを行ない旧状に復した。調査の結果、遺構は確認されなかった。出土遺物は、撹乱層から石鏃などが出土した。その内訳は、№2トレンチから石鏃1点、№4トレンチから砕片1点のみである。

今回の調査では、遺物は撹乱層からの出土で、良好な遺物包含層は確認されなかった。

納所支線第2号（上場Ⅲ期）地区（図27）は、平成9年度県営畑地帯総合土地改良事業農道整備に伴い試掘調査を実施した。

調査は、東松浦郡肥前町大字納所字笹山・石久保の700mを対象に実施した。

調査対象地区は、標高90m前後の丘陵地で緩やかな尾根を利用した畑地が広がっている。調査対象地区周辺の丘陵地には、旧石器時代から縄文時代の遺跡が数多く分布している。荒崎遺跡・池ノ田Ⅰ遺跡・太田遺跡が発掘されている。

調査は、2m×2mのトレンチを基本に10箇所設定した。掘り下げは、すべて人力で行ない調査員が遺構・遺物の有無を確認し、写真撮影・略測を行なった。記録作成後、人力で埋め戻しを行ない旧状に復した。

調査の結果、№8トレンチで土壙1基・柱穴1個を確認した。出土遺物には、№8トレンチから砕片3点、」10トレンチから彫器1点・砕片1点、表採資料として石鏃1点がある。

今回の調査で、遺物包含層が確認されたのは№8・10トレンチの2箇所であるが、遺物包含層の上部はやや削平されている。また、№10トレンチから彫器が出土しているため、開発計画と文化財の保護について調整が必要と思われる。

なお、新発見の遺跡であったので、納所笹山遺跡（肥前町0111，包含層）として佐賀県遺跡地図に記載・登録し周知を行なった。

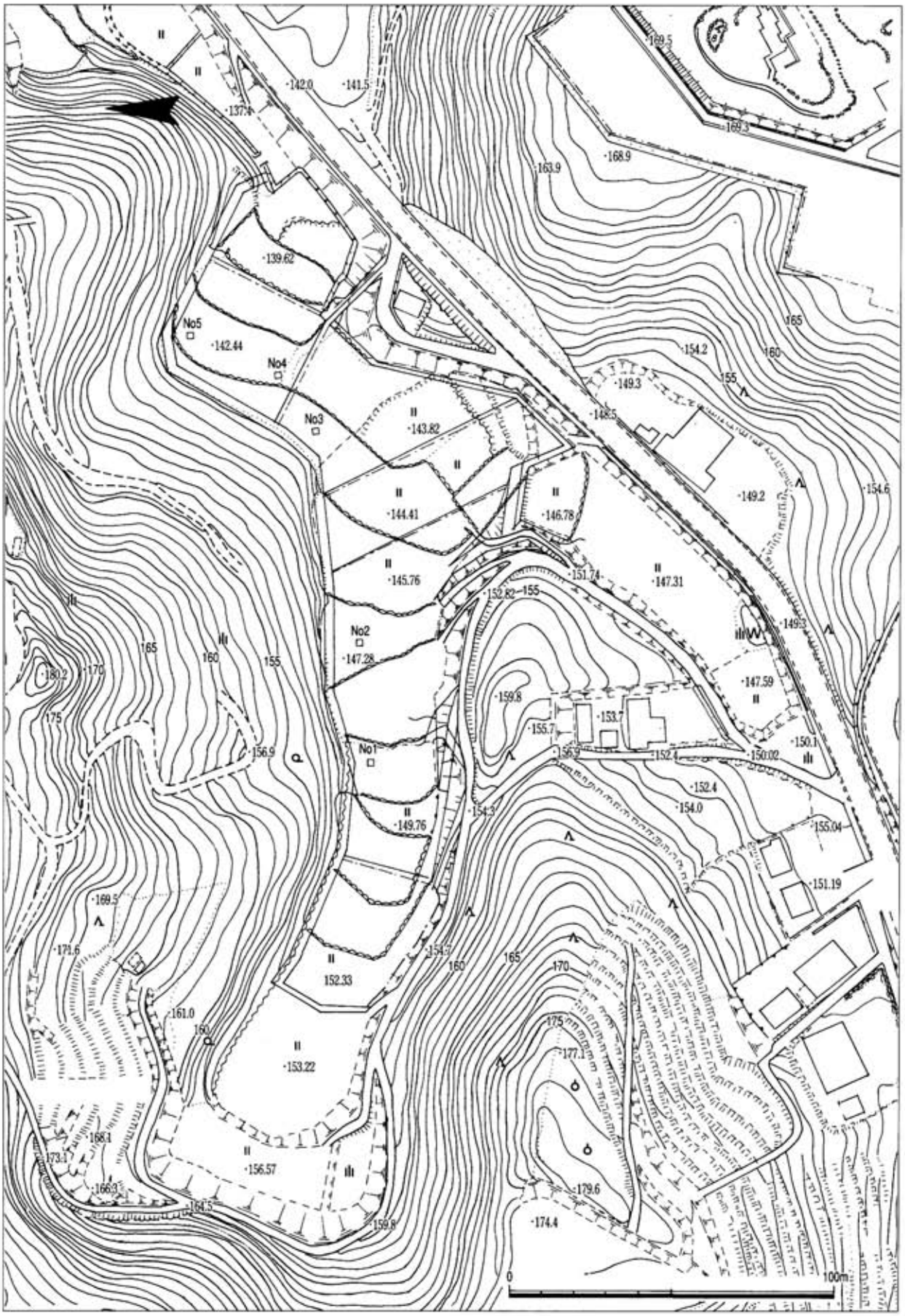



図26　肥前町万賀里川第２号トレンチ配置図

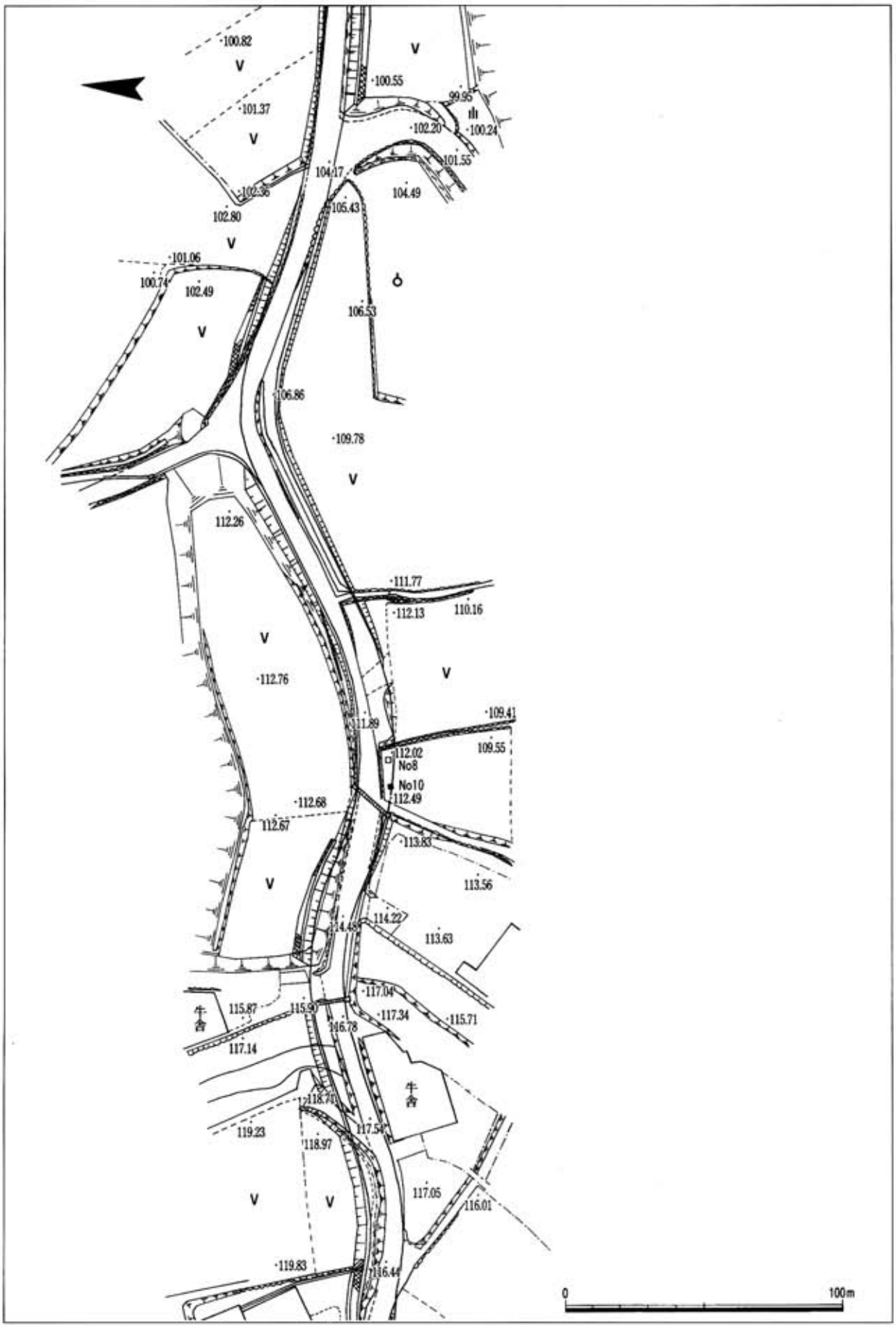



図27　肥前町納所支線第２トレンチ配置図（Ｓ＝1／2,000）

## 6　筑後川下流用水事業

### （1）佐賀東部導水（城原川以西）

#### 1　金立東部第1工・第2工区

調査は、佐賀市金立町大字薬師丸字薬師森の1.8haを対象に、平成8年11月5日～11月15日・平成9年1月24日に確認調査を実施した。

調査対象地区は、巨勢川の左岸、標高4.0～4.3ｍの水田部である。

当該地の北側には、村徳永遺跡等の弥生時代～古墳時代を中心とした多くの遺跡が存在する。

調査は、55箇所のトレンチ（試掘坑）を設定し、掘削機（バックフォー）により試掘を行った。

調査の結果、No10トレンチにおいて遺物包含層を確認した。トレンチ内の青灰色粘質土層が遺物包含層であり、縄文時代晩期のものと考えられる土器片を検出した。その他No10・13・14トレンチ内の黄灰色粘土層より炭化物を検出した。

工事対象地区内における遺物包含層の広がりは、約200㎡である。全体の遺跡の範囲は不明確であるが、同時期に行った農業基盤整備事業に伴う確認調査の結果から判断すると、遺物包含層は、南側にはあまり広がらず、北側に遺跡の主体が存在すると考えられる

なお、今回、遺跡が確認された工事対象地区については、やむを得ず水路工事により掘削が予定されるため、協議の結果、発掘調査（本調査）を実施した。

#### 2　金立西部

調査は、佐賀市金立町大字薬師丸0.3haを対象に、平成9年1月7日～1月14日・3月7日に確認調査を実施した。

周辺には、調査対象地の北側集落付近に、村徳永遺跡・下和泉遺跡などがあり、また、巨勢川を挟んだ西側に東名遺跡・千布遺跡が所在している。

今回の調査対象地区は、巨勢川の左岸、標高4.0～4.3ｍの水田部および焼原川南岸の堤防部・水田部である。

工事予定地内の4箇所のトレンチ（試掘坑）を設定し、掘削機（バックフォー）により試掘を行った。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても遺構・遺物ともに確認されなかった。

図28　佐賀東部導水路金立東部工区トレンチ配置図（S＝1／2,000）

# Ⅳ．平成８年度発掘調査の概要

## 1．野田遺跡Ⅱ（略号：ＮＤＡⅡ）

遺跡の所在地

三養基郡中原町大字養原字野田

調査主体者

中原町教育委員会

調査期間

平成８年９月～平成８年12月

調査面積

2,200㎡

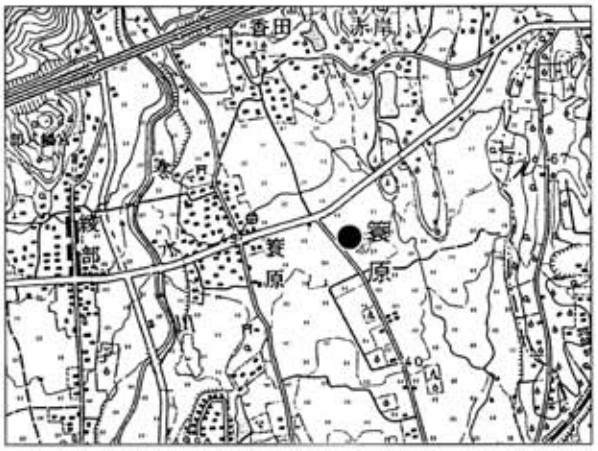



図29　野田遺跡Ⅱ位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

野田Ⅱ遺跡は、脊振山系の石谷山から南に伸びる台地上に位置し、標高約45ｍを計る。遺跡のある台地の東側には山内川が流れており、調査区は台地の西側端部付近にあたり平成７年度に調査を実施した野田遺跡の南側である。本遺跡の北側山麓には古墳時代後期の群集墳や中世山城が築かれ、南面した斜面上には香田遺跡や前田原遺跡、木の本遺跡といった縄文時代から中世の遺跡が営まれている。遺跡周辺の台地上には本村遺跡、植松遺跡、若宮八幡神社遺跡、北浦遺跡など縄文時代から中世の集落や古墳群が密集して存在しており、このあたり一帯はほぼ全域が周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。ただ地元の人の話によると大正時代から昭和の初期に実施された区画整理事業により削平や埋め立てが行なわれており、現在ほぼ平坦な部分は地形がかなり変わっているということである。

調査は、面工事で削平を受ける部分および水路により掘削を受ける部分の2,200㎡について実施した。

野田Ⅱ遺跡で検出された遺構は、掘立柱建物・土壙・小穴がある。全体的に遺存状況が悪く、やはりかなりの削平を受けているものと思われる。また、遺構は調査区の北側に集中して見られ、調査区の南側の水路予定部分については落ち込みとなっており、表土剥ぎを行なったが遺構・遺物は検出できなかった。

掘立柱建物は、２間×３間以上の規模をもつもので、東西に主軸をとる。柱穴から土器などが出土していないため時期は不詳であるが、周辺の土壙などの出土遺物から古代に属するものと考えられる。土壙は縄文時代後期のものと古代のものがある。このほか遺物が出土していないため時期は不詳であるが土の堆積状況から倒木痕と見られる土壙が多数検出された。

遺物は、遺構から縄文土器、古代の土師器が出土したほか、表土中から中世の龍泉窯系青磁椀の破片が出土している。遺物の出土量は、調査区南側の土壙から縄文土器がややまとまって出土した程度で、全体に散発的で出土量が少なかった。

今回の調査では、町内では検出例の少ない縄文時代の遺構や最近、官衙遺構や鍛冶遺構など重要な調査が相次いでいる古代の遺跡の広がりが確認され、町内遺跡の分布状況を知るうえで重要な成果を上げることができた。なお、平成７年度の調査では南北に 180ｍ以上にわたって伸びる溝や竪穴住居跡などが検出されたが、今回の調査ではそれらの遺構は確認されなかった。このことから、溝は調査区の北側で角度を変えて東の谷に繋がるものと思われ、竪穴住居跡など古代集落の生活遺構は削平されて失われたか、あるいは西側の台地上に広がっているものと推定される。

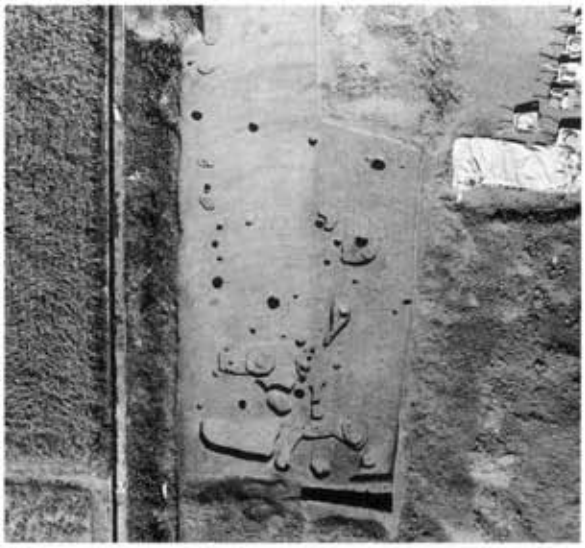
1　調査区遠景（南から）

2　調査区遠景（北から）

3　調査区全景（上から）

4　調査区北側（上から）

5　調査区南側（上から）



6　掘立柱建物跡ＳＢ004（上から）

図版３　野田Ⅱ遺跡

## 2．香田遺跡（略号：ＫＯＤ）

遺跡の所在地

三養基郡中原町大字養原字香田

調査主体者

中原町教育委員会

調査期間

平成８年11月～平成９年３月

調査面積

5,700㎡

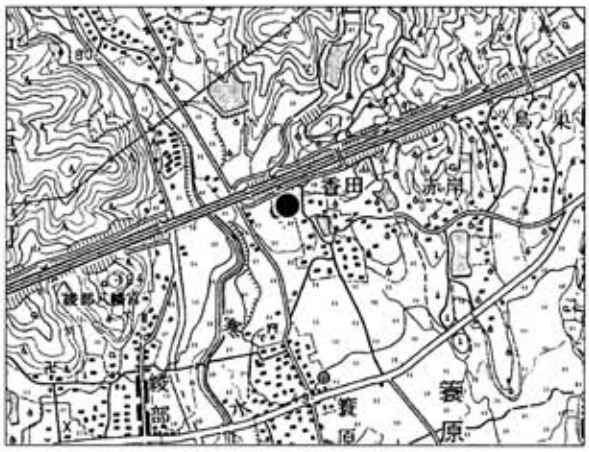



図30　香田遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

香田遺跡は、脊振山系の石谷山から南に伸びる丘陵上の南斜面部に位置し、標高約55～66ｍを計る。昭和54年度に高速道路の事前調査が行なわれ、縄文時代晩期の支石墓や古墳時代前期の竪穴住居跡、群集墳などが検出された調査地区の南側に位置する。調査対象地の周辺には、山麓部に古墳時代の群集墳や中世の山城が築かれており、丘陵の南側には、縄文時代から古代の遺跡である前田原遺跡や木の本遺跡が営まれてる。台地上には本村遺跡、植松遺跡、若宮八幡神社遺跡、北浦遺跡などの縄文時代から中世の集落や古墳群が密集して存在しており、このあたり一帯の台地上はほぼ全域が周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。

調査は削平を受ける部分および水路により掘削を受ける部分の5,700㎡について実施した。調査区は全部で５区に分かれており、過去の調査区がＡ－２～４区、Ｂ－１区となっていることから、今回の調査区は、Ｃ－１～５区とした。

検出された遺構は、竪穴住居跡、土壙、小穴、溝、鍛冶遺構がある。また、調査区全面に５～15㎝の遺物包含層が認められた。竪穴住居跡は平面形が３～４ｍほどの方形のもので、北側に竈を持っている。出土遺物から６世紀後半～７世紀頃と判断される。土壙は、縄文時代晩期、古墳時代および古代のものがある。土壙内からの遺物の出土量はあまり多くない。溝は調査区が狭いこともあって全体の形状など不明な点が多いが古墳の周溝とみられるような溝は検出されなかった。鍛冶遺構は長さ0.8ｍ、幅0.5ｍほどの楕円形を呈する。また、隣接して直径0.5ｍ程度の円形の土壙が検出された。楕円形の土壙は、底面が焼けて締まっているが、周囲が白く変色ほどの熱は受けていない。遺構の内部からは、土師器、鞴の羽口、炉壁片、鉄滓が出土したほか、内部の土を洗浄してふるいにかけたところ鍛冶に伴う鍛造薄片・粒状滓などが検出され、本遺構を鍛冶遺構とする決め手となった。遺構の時期は出土した土師器から８世紀頃のものと推定される。

遺物は遺構から石器・縄文土器・土師器・須恵器・鉄滓が出土したほか、包含層から６世紀～９世紀にかけての土師器・須恵器・鉄滓・中世の陶磁器片などが大量に出土している。また、溝内から長さ20㎝程度のサヌカイトの原石が出土しているが風化の程度から旧石器時代に属する可能性もある。今回の資料は、旧石器時代・縄文時代の当時の交流や石器製作についての重要な資料である。

今回の調査では、支石墓や古墳は検出されなかったが、造墓集団との関わりが推定される縄文時代および古墳時代から古代にかけての集落跡が検出されるなど重要な成果をあげることができました。特に、県内でも検出の少ない鍛冶遺構の検出は肥前風土記に記された「漢部郷」に於ける兵器製造所との関係や原古賀六本黒木遺跡で確認された官衙的建物との関係など古代の鉄生産と鉄器制作について重要な資料を得ることができた。

1　調査区全景（南から）

2　香田遺跡Ⅰ・Ⅱ区全景（上から）

3　香田遺跡Ⅰ区全景（上から）

4　香田遺跡Ⅳ区・Ⅴ区北側（上から）

5　香田遺跡Ⅲ区・Ⅴ区南側（上から）

6　香田遺跡Ⅳ区鍛冶遺構（南から）

図版4　香田遺跡

## 3．天神遺跡（略号：ＴＪＮ）

遺跡の所在地

三養基郡中原町大字原古賀字天神

調査主体者

中原町教育委員会

調査期間

平成９年３月

調査面積

300㎡

図31　天神遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

天神遺跡は、上峰町鎮西山から南に伸びる船石丘陵の南端部の東側、台地との境付近に位置し、標高14～15ｍを計る。調査区の東側には浅い谷が入っており、西側の台地との比高差は約１ｍである。本遺跡の周辺には西寒水一本柳遺跡や西寒水四本柳遺跡、西寒水七本柳遺跡などの弥生時代～近世の集落、甕棺墓地が広がっているがこれまでの周辺の調査からは遺跡の主体を占めるのは弥生時代から古墳時代前期および中世である。また、遺跡の北側の谷底平野部には原古賀三本谷遺跡等の弥生時代の大規模集落が広がっている。なお、天神遺跡では過去に甕棺内から小型彷製鏡が出土している。

調査は、水路工事で掘削される300㎡について実施した。

検出された遺構には、溝・土壙・小穴がある。溝は調査区が限定されているため長さは不明だが現状では約30ｍほどを検出した。幅10ｍ、深さ 0.8ｍを測り、西側の台地に沿って南北に伸びているものと思われる。堆積土に砂や小石が混じっていることから水路であった可能性が高く、調査区東側の浅い谷部には水田が広がっていることが予想される。溝の中からは大量の弥生時代中期から後期の土器が出土した。溝の状況は平成元年度に調査した原古賀三本谷遺跡Ⅲ区で検出した溝と似ているが直線距離で約500ｍほど離れており、繋がるかどうか不明である。土壙は弥生時代中期の方形の貯蔵穴と見られるものや奈良時代のものがある。この他竪穴住居跡と見られる土壙があるが大半は調査区外であり確実なものどうか不明である。小穴は調査区が狭いこともあって掘立柱建物になるようなものは検出されなかった。

遺物は、大量の弥生土器（中期～後期）の甕・壺・高坏・椀などが出土した。出土状況は、溝の内部に砂や小石に混じってぎっしりと詰まっており、破片が多いが完形に近いものも含まれている。また、貯蔵穴と見られる土壙からも復元すると完形に近いものが出土している。この他、土壙から８世紀代の須恵器の坏・蓋、土師器の坏等が出土した。

今回の調査では、弥生時代の遺跡の広がりが確認され、溝内から大量の土器が出土したことは調査区の西側の台地上に弥生時代の集落が広がっていることが推定されるなど重要な成果を挙げることができた。また、これまで周辺では確認されていなかった古代の遺構が検出され、古代の遺跡の分布状況を知る上で重要な成果を挙げることができた。

なお、溝内から土器に混じって少量の鉄滓が出土しているがこれまで周辺の調査で出土した鉄滓はすべて中世のものであり、弥生時代のものかどうか判断し兼ねている。もし、弥生時代のものなら弥生時代の鉄器生産について貴重な資料となるので、今後の周辺の調査に期待したい。

1　調査区北側（北から）

2　方形貯蔵穴　ＳＫ003（東から）

3　溝跡　ＳＤ006（北から）

4　溝跡　ＳＤ006土層（北から）

5　遺物出土状況（溝跡　ＳＤ006，北から）

6　遺物出土状況（溝跡　ＳＤ006，西から）

図版５　天神遺跡

## 4．堤三本松遺跡（略号：ＴＳＭ）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤字一本黒木

調査主体者

上峰町教育委員会

調査期間

平成８年７月～平成８年12月

調査面積

2,500㎡

図32　堤三本松遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

堤三本松遺跡は、上峰町の北部、県道鳥栖・川久保線以北、長崎自動車道以南の切通川西岸にあり、脊振山系から派生する36～38ｍの低位段丘上に立地する。遺跡周辺は、水田および畑として利用されている。

本遺跡の周辺には、山麓部に青柳・新立・谷渡・鎮西山南麓古墳群が分布し、古墳時代後期の小円墳が点在する。南に隣接する屋形原遺跡の昭和53年度発掘調査では、古墳時代後期の集落跡が確認されている。その南方には縄文時代から平安時代にわたる集落を中心とした複合遺跡である堤六本谷遺跡や八藤遺跡、舶載鏡など貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡がある。また、二塚山丘陵と八藤丘陵を遮断する形で築かれている堤土塁跡が所在する。さらにその南方には弥生時代の集落と墓地を中心とした船石遺跡、船石南遺跡が所在する。近年、県営圃場整備事業に伴う発掘調査で比較的希薄であった縄文時代の集落跡が確認され、佐賀東部の縄文時代集落の解明や変遷を考察するうえで貴重な資料が得られている。

調査は、「県営圃場整備事業上峰北部地区」に伴い、面工事で削平される部分2,500㎡を１区（625㎡）と２区（1,825㎡）の小区に分けて実施した。

１区の調査では、明確な遺構は検出されず、流れ込みに起因すると考えられる土器片・中世土器片・近世磁器片が出土したにすぎなかった。しかし、一部に検出面の下層に遺物包含層の存在が想定されたので、トレンチおよびグリッドを設定し掘り下げた。

２区の調査では、掘立柱建物跡・土壙・小穴が検出された。また、１区と同様にトレンチおよびグリッドを設定し、慎重に掘り下げた。

今回の調査によって、弥生時代から奈良時代にかけての集落跡の周辺部に相当することが判明したが、遺跡の性格を決定付けるまでには至らなかった。また、下層においても明確な遺構を検出できなかったが、断片的ではあるが縄文時代以前のものである可能性があり、今後の調査例の増加を待って判断しなければならないと思われる。

1　調査区全景

図版6　堤三本松遺跡

## 5．金立遺跡（略号：ＫＩＲ）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字金立

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成８年７月～平成９年３月

調査面積

5,100㎡

図33　金立遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

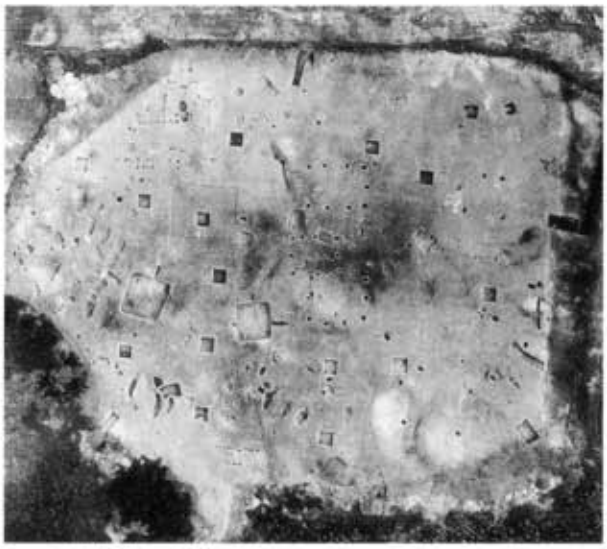
金立町周辺は洪積台地が発達し、遺跡の宝庫として知られる地域である。周辺は農地として利用されていたため、比較的旧地形を良く留めた地域であったが、近年の農業基盤整備事業などの進展に伴い、その様相は一変しつつある。なお、周辺には、金立開拓遺跡・丸山遺跡・村徳永遺跡・琵琶原遺跡・大野原遺跡・大日遺跡・古村遺跡・上揚遺跡など縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く分布し、発掘調査が行われている。

今回の調査は、６地点に分割して調査を行った。60～70㎝の表土下で明褐色砂質土～黒褐色砂質土の遺構検出面を確認した。また、６～９区における遺構検出面は同時に縄文時代中期～後期にかけての遺物包含層でもあり、この包含層に弥生時代～近世に遺構が切り込む形で遺構を確認している。なお、弥生時代～近世の遺構埋土は暗灰褐色～黒褐色を基調としていた。

調査の結果は、狭小な６地点分割された調査であったため、遺跡の全体像を捉えるまでは至らなかったが、特に弥生時代と奈良時代の集落跡の遺構を多数検出し、多大な成果を収めた。

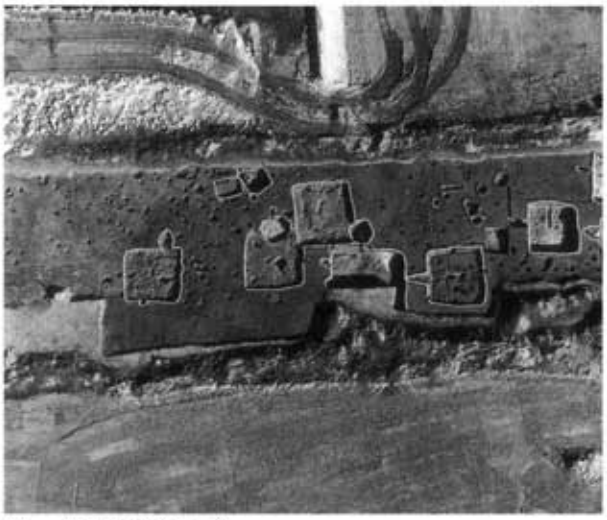
弥生時代前期末～中期初頭の住居は、平面円形プランの竪穴住居であった。出土遺物から見ると、小型の竪穴住居から大型の竪穴住居への変遷が想定できる。また、大型の竪穴住居では、建替えまたは拡張が行われているものが多かった。弥生時代後期初頭～後期前半の住居は、平面隅丸方形プラン（5ｍ×3.5ｍ前後）で２本主柱を基調とした竪穴住居であった。いずれの住居も長辺壁際中央に屋内土壙を設けており、特にＳＨ8016・ＳＨ8017で検出したものには土壙両端に杭を打ち込んだような小穴状掘り込みが確認された。屋内土壙の敷設目的を考察する上で興味深い資料である。

奈良時代の住居は広範囲に広がっており、東西の丘陵全体におよぶ可能性が高い。検出した竪穴住居はいずれも竈を敷設した平面方形プランを基調としており、主柱は確認できたものについては４本であった。また、検出した住居の大半には弥生時代の竪穴住居に見られた貼床敷設前掘込みが観察され、仮にこれが弥生時代から脈々と受け継がれた貼床敷設時の伝統的技法であるならば非常に興味深い資料である。竈付設位置北側にとる住居の一群は、一辺3.5ｍ～4.0ｍ程度の当時の居住目的住居としては標準サイズと考えられる住居と一辺2.0ｍ～2.5ｍ程度の小型住居で構成される。検出された小型住居はその規模から居住空間としては考えづらく、居住空間としての掘立柱建物に付随した台所等の炊事空間として位置づけた方が良いと思われる。調査区内にこの住居群と共存すると思われる掘立柱建物は確認されなかったが、周辺に掘立柱建物が存在する可能性は高く、またＳＨ7003・ＳＨ8003からは布目瓦が出土していることから瓦葺き建物の存在も考えられ、掘立柱建物と竪穴住居に居住していた人との間にはある程度の格差が想定できるものと考えられる。



1　調査区（6区）全景

2　調査区（7区）全景



3　8区竪穴住居群

4　SB6005掘立建物跡（南から）

5　SH8005竪穴住居跡

6　SH8024竪穴住居跡（南から）

図版7　金立遺跡

## 6．久富遺跡（略号：ＨＤＭ）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字友貞

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成８年７月～平成９年１月

調査面積

1,879㎡

図34　久富遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

久富遺跡は、標高６～７ｍの山麓低地に位置する。

本遺跡の周辺には、千布二本黒木遺跡・友貞遺跡・東千布遺跡などが分布している。千布二本黒木遺跡では、弥生時代中期、中世～近世の集落跡が確認された。弥生時代中期の遺構としては掘立柱建物跡・土壙・溝・不明遺構などが検出された。２条の溝は、規模・形状・遺物の出土量から、環濠の可能性が指摘されている。なお、巨勢川の対岸には弥生時代後期の拠点集落である村徳永遺跡が存在し、溝が環壕であるならば、この周辺に村徳永遺跡に先行する拠点遺跡が存在する可能性が指摘されている。また、中世～近世の遺構は、掘立柱建物跡・井戸・土壙・溝が検出された。掘立柱建物跡の密度・配置から屋敷地の一部であると考えられている。友貞遺跡では、５区で中世の屋敷地の一部、７区で中世の館跡が調査された。東千布遺跡では、２区で中世の集落跡、３区で弥生時代の集団墓地・中世の集落が調査された。

調査は、面工事で削平される部分と水路工事で削平される1,879㎡（２区）について実施した。

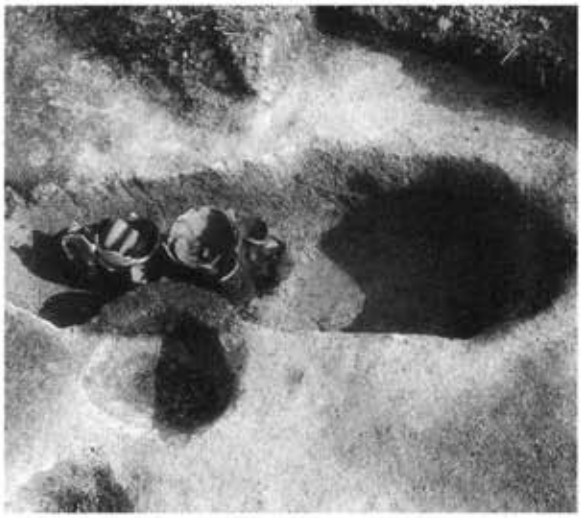
弥生時代前期末～古墳時代前期、平安時代～近世初頭の集落跡を調査した。弥生時代の遺構は竪穴住居・井戸・土壙・土器棺墓・溝・小穴である。竪穴住居は調査区北側で１軒検出し、中期初頭～中期前半の所産で残存状況が悪く、不明な点が多いが平面形は方形～長方形で、主柱は２本であると考えられる。井戸は調査区北側を中心として数基検出し、中期初頭～終末の所産で、その中の１基から擬朝鮮系無文土器が出土した。土壙は調査区全体で多数検出し、前期末～後期の所産で、その中の数基から擬朝鮮系無文土器が出土した。溝は調査区中央で１条検出し、中期初頭～中期前半の所産で、大型である。古墳時代の遺構は土壙である。調査区北側で１基、調査区南側で１条検出し、前期の所産で、調査区南側で検出した１基から完形に近い土師器二重口縁壺を含む土師器がまとまって出土した。平安時代の遺構は土壙である。調査区北側で１基検出し、９世紀の所産であると考えられ、墓の可能性がある。中世～近世の遺構は掘立柱建物、溝跡である。掘立柱建物は調査区南側を中心として４棟検出し、中世末～近世初頭の所産で、その中の１棟は梁行１間、桁行５間で大型である。溝は調査区全域で数条検出し、中世末～近世初頭の所産でその中の４条は調査区ではＬ字形で、区画溝である。

今回の調査によって、弥生時代前期末～古墳時代前期、平安時代～近世初頭の集落であることが判明したが、弥生時代前期末～弥生時代後期後半、中世末～近世初頭の集落が主体で、弥生時代前期末～弥生時代後期後半の集落は密度・遺物の出土量から、集落の中心に近い集落であると考えられる。擬朝鮮系無文土器は佐賀市では現在までのところ鍋島町、兵庫町で出土したのみで、金立町では初めて出土した。

1　調査区中央部北側（南から）

2　調査区南部（南から）

3　ＳＫ2037土壙（東から）



4　ＳＫ2047土壙（北から）

5　ＳＫ2269土壙（東から）

6　ＳＫ2367土壙（東から）

図版８　久富遺跡

## 7．友貞（ともさだ）遺跡（略号：ＴＢＳ）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字千布字友貞

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成８年７月～平成９年１月

調査面積

3,429㎡

図35 友貞遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

友貞遺跡は、標高６～７ｍの山麓低地に立地する。

本遺跡の周辺には、千布二本黒木遺跡・東千布遺跡・久富遺跡などが分布している。千布二本黒木遺跡では弥生時代中期・中世～近世の集落が調査された。弥生時代中期の遺構には、掘立柱建物跡・土壙・溝・不明遺構などが検出された。２条の溝は、規模・形状・遺物の出土量から、環壕の可能性が指摘されている。巨勢川の対岸には、弥生時代後期の拠点集落である村徳永遺跡が存在し、溝が環壕であるならば、周辺に村徳永遺跡に先行する拠点集落が存在する可能性が指摘されている。中世～近世の遺構は、掘立柱建物跡・井戸・土壙・溝が検出された。掘立柱建物の密度、配置から、屋敷地の一部であると考えられている。東千布遺跡では２区で中世の集落、３区では弥生時代の集団墓地、中世の集落が調査された。久富遺跡では１区で弥生時代中期・古墳時代前期の集落が調査された。

調査は、面工事で削平される部分と水路工事で掘削される3,429㎡（13区～17区）について実施した。

13区では、弥生時代中期初頭～古墳時代前期、中世～近世初頭の集落を調査した。弥生時代の遺構は井戸・土壙・小穴である。井戸は調査区全体で数基検出し、中期初頭～終末の所産でその中の１基から完形に近い弥生土器がまとまって出土した。土壙は調査区全体で多数検出し、中期初頭～後期の所産で、その中の１基から擬朝鮮系無文土器が出土した。古墳時代の遺構は土壙・溝である。土壙は調査区全体で多数検出し、前期の所産で、その中の１基から完形に近い土師器甕、土師器小型丸底壺が出土し、出土状況から祭祀土壙であると考えられる。中世～近世の遺構は掘立柱建物、土壙、溝である。掘立柱建物は調査区中央で１棟は梁行１間、桁行２間で柱穴は大型である。土壙は調査区南側で１基検出し、鎌倉時代の所産である。溝は調査区全体で数条検出し、中世末～近世初頭の所産でその中の１条は調査区ではＬ字形で、土師器、陶器等が出土し、区画溝であると考えられる。

14～17区では、弥生時代中期、中世末～近世の集落を調査した。中世末～近世の集落が主体で、中世末～近世の遺構は掘立柱建物、土壙、溝等である。

今回の調査によって、弥生時代中期初頭～古墳時代前期、中世～近世の集落であることが判明したが、弥生時代中期初頭～弥生時代後期後半、中世末～近世の集落が主体で、弥生時代中期初頭～弥生時代後期後半の集落は、久富遺跡に繋がる集落であると考えられる。

1　調査区全景（西から）

2　ＳＢ13129掘立柱建物（西から）

3　ＳＥ13110井戸（南から）

4　ＳＫ13014土壙（南から）

5　ＳＫ13026土壙（北から）

6　ＳＤ13123溝（西から）

図版９　友貞遺跡

## 8．東千布遺跡（略号：ＨＣＦ－４Ａ・４Ｂ）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字千布

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成８年11月～平成９年３月

調査面積

４Ａ区　110㎡、４Ｂ区　15㎡

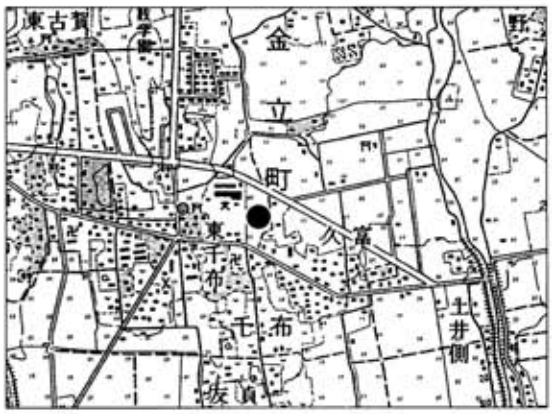



図36　東千布遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

４Ａ区・４Ｂ区ともに高畑部分に位置し、面で削平されるため調査を実施した。

４Ａ区では弥生時代中期後半～中世前半の集落遺跡を検出した。弥生時代の遺構は中期前半の大きな溝１条と土壙のほか、中期後半の土壙、中世の遺構は大型不整形の土壙・溝等である。弥生時代の溝は北～南南東方向に延びている。上幅は1.9～2.3ｍあり、断面は擂り鉢状もしくは下張り出しにやや丸みのあるＶ字形の掘込みの中央に更に断面コ字状の細い溝を掘削している。吉野ヶ里遺跡の環壕のように大型でしっかりとした断面Ｖ字型の溝ではないが環壕のような性格を持つような性格をもつと考えられる。埋土から弥生時代中期初頭～前半主体の土器が多く出土している。中期後半の土壙は不整楕円形で二段掘り状をなしている。遺構の性格についてはよくわからないが、埋土上層部から甕・壺・鉢などの土器がまとまって出土している。

中世の溝は一部分しか検出していないが、幅は1.2ｍ以上ある大きな溝である。時期は出土遺物から13～14世紀ころと推定される。また、このすぐ南に南北5.1ｍ、東西3.5ｍ以上の大きな土壙が検出された。埋土から中国製の青磁Ⅲ・足鍋・瓦器碗・土師器坏・土師器小皿等が出土している。13～14世紀ころと推定する。

４Ｂ区では、塚を検出した。塚は、周溝を掘削したのちその内側を地山面まで削って盛土している。塚の大きさは盛り土南北4.44ｍ、東西3.5ｍ、地山面からの高さ約1.0ｍ。周溝を含めた規模は南北5.6ｍ、東西3.15ｍである。盛土中から近世～明治中期の年代幅で考えられる陶磁器類の破片資料・種別不明の骨片１点を検出した。従って、周溝を含めた塚の構築年代は近世後期～明治中期頃と推測する。なお、塚盛り土上には1,764個（１トン弱）の礫が盛られていたが、出土遺物からこれは近代の所産である。地元の方の話では、戦前、塚頂部に高さ約0.4ｍ、幅0.3ｍの石碑状の石が存在したといい、礫はこの石碑状の石と関係があるのかもしれない。

遺跡の性格は、まず、４Ａ区検出の弥生時代中期前半の溝が注目される。似たような幅・深さのある大きな溝は久冨遺跡２区と友貞遺跡14区(弥生中期前半)・友貞遺跡16区(弥生中期後半)東千布遺跡３区(弥生中期後半)でも検出されている。これらの溝は断片的な検出によるものであるが、友貞～東千布にまたがる丘陵を囲むような配置をとっており、環壕的な性格が考えられる。４Ｂ区の塚は盛土により骨片を検出したが、盛土の状況から墓である可能性は低い。地元では塚は畏敬の対象であり、10月に催される浮立では『ナナテイジン（＝七天神＝菅原道真を祀る石祠)』などと同様に、塚に対して楽が奏されていた。むしろ、宗教的な色彩が濃い遺構であると考えられる。今後は民俗的見地からの考察も必要である。

1　4A区全景（南から）

2　4A区東半部（南から）

3　SD4A01溝（南から）

4　SD4A02溝（南から）

5　4B区塚の礫層（北から）

6　4B区塚（北から）

図版10　東千布遺跡

## 9．牟田寄遺跡（略号：ＭＴＹ）

遺跡の所在地

佐賀市兵庫町大字瓦町字牟田寄

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成８年８月～平成９年３月

調査面積

4,295㎡

図37　牟田寄遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

牟田寄遺跡は、標高３ｍほどの沖積低地に立地する。兵庫町の北部は近年、土地区画整理事業が実施され急激に市街地化が進んでいるが、遺跡周辺は、隣接する巨勢町との境界にあって都市化がほとんど進んでおらず、田園風景の広がる農村地帯である。農業基盤整備事業に伴い、平成元年度から発掘調査を進めている。

今回の調査対象地はいずれも幹線水路予定地で３箇所に分断されたため調査区の名称を15・16・17区とした。厚さ30㎝程の耕作土直下には黄灰色粘質土～青灰色粘質土の基盤面を検出し、地形的にやや低くなる部分（表土下30～50㎝）については、基盤面直上に黒褐色の遺物包含層が堆積していた。遺構埋土は、暗黄褐色～黒褐色を基調とし、基盤面の色調と同色に近く、特に柱穴など検出困難なものも多く含まれていた。

調査の結果、概ね弥生時代後期から古墳時代前期を中心とする集落跡であることが明らかになった。

15区では、弥生時代後期から古墳時代前期の集落が主体を占め、掘立柱建物27棟・井戸66基・土壙17基・周溝状遺構１基・埋納遺構１基・柱穴などを確認した。掘立柱建物は１間×１間もしくは２間×１間を基調とし、そのほとんどの柱穴には沈下防止のために樹皮敷きと横木が設置されていた。なお、ＳＢ15160掘立柱建物の柱穴埋土中からは、鏡背面に赤色顔料を塗布した小型仿製鏡（内行花文鏡）が出土している。さらにＳＸ15005流路では弥生時代後期後半から古墳時代前期の所産と考えられる砲弾型の土器が出土し、その用途等については類例を探している。

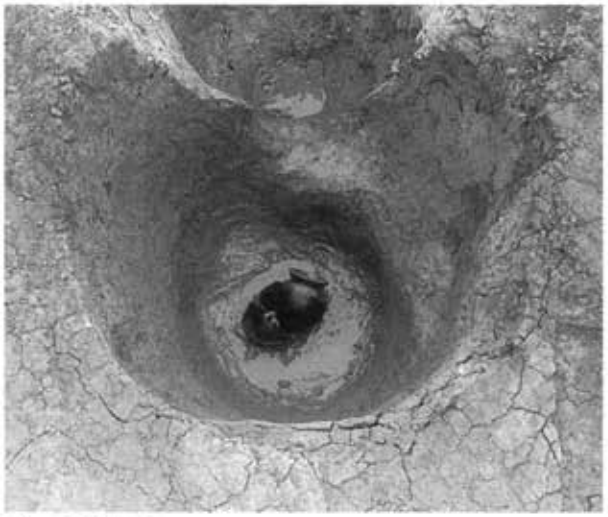
16区では、遺構密度が高く、弥生時代後期から江戸時代におよぶ遺構を確認した。なかでも、弥生時代後～終末期の集落が主体を占め、多数の柱穴群と井戸・土壙・埋納遺構を検出した。この他ＳＫ15004土壙からは残存状況はよくなかったが、古墳時代中期中頃の木製馬鞍が出土し、周辺で乗馬が行われていた可能性が高くなった。

17区では、弥生時代後期から室町時代におよぶ遺構群を検出した。なかでも弥生時代後期から古墳時代前期の集落が主体をなし、掘立柱建物18棟・井戸34基・土壙29基,溝２条、埋納遺構１基・柱穴多数を検出した。このほか、古代前期の井戸２基・土壙１基・埋納遺構１基、古代後期の井戸２基・溝２条、中世前期の井戸８基、土壙１基、中世後期以降の堀３条を検出している。

このように牟田寄遺跡は、有明海北岸低地に所在する拠点的集落であり、丘陵地の集落で見られないような特異な集落構造を呈し、当時の社会状況を知る上で非常に興味深い資料を提供した。

1　15区全景

2　16区遺構配置状況



3　15区井戸

4　15区井戸

5　15区井戸

6　17区柱穴

図版11　牟田寄遺跡

10. 修理田遺跡（略号：ＳＲＤ－２・３）

遺跡の所在地

佐賀市巨勢町大字修理田

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成７年12月～平成８年３月

調査面積

1,850㎡

図38　修理田遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

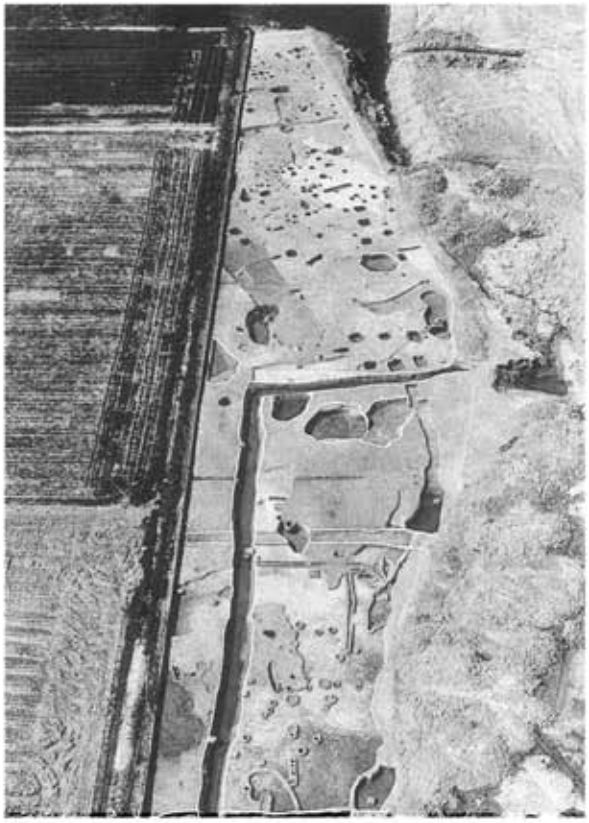
遺跡の概要

修理田遺跡は、佐賀市南部の標高約３ｍの低平な沖積平野に立地する。周辺は、佐賀市北部の山麓に対して遺跡数が少ない地域ではあるが、弥生時代後半以降に点的ではあるが遺跡数が増加していく。特に本遺跡に隣接する牟田寄遺跡では弥生時代後期後半から古墳時代初頭の掘立柱建物と井戸からなる集落及び奈良時代・平安時代の墨書土器、越州窯系青磁片、銅製の印章等の遺物が確認されており今回の調査成果を考える上興味深い。

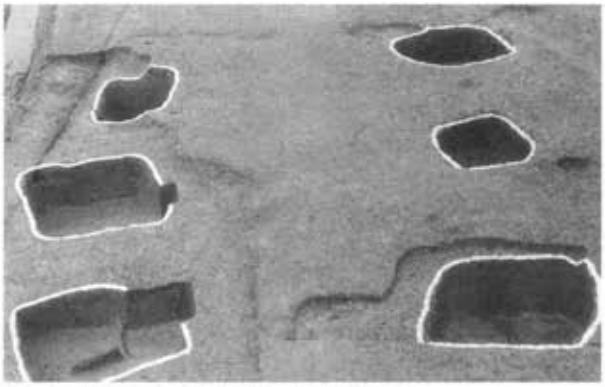
調査は工事により削平が免れない水路部分1,850㎡（２・３区）について実施した。

２区の調査では、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の掘立柱建物・井戸・溝及び中世の井戸・溝と近世の溝を検出した。弥生時代～古墳時代の遺構は竪穴住居を伴わない掘立柱建物のみで構成される集落と考えられ、検出状況が類似し調査区の北で隣接している牟田寄遺跡で確認された集落の一部である可能性が高い。また、弥生時代後期後半の溝からは、廃棄されたと考えられる大量の土器片と共伴して、中国鏡と思われる破鏡が出土している。

３区の調査では、弥生時代後期後半の掘立柱建物・井戸・溝と平安時代の掘立柱建物・井戸・土壙、中世の溝を検出した。弥生時代に属する遺構は北に広がる牟田寄遺跡から続く当該期の集落の南端部に位置し、遺構密度は比較的薄く、調査区東半分は浅い谷地形であったであろうことが調査区の土層観察の結果から推察される。平安時代の遺構は、牟田寄遺跡で確認できなかった掘立柱建物を検出したほか、ほぼ同じ時期の井戸や土壙から墨書土器が出土している。これらは、土師器の坏・碗及び須恵器の坏蓋に「東」・「中山」と記されている。ものが複数確認されるが、現段階ではこれらが何を対象として記されたのか不明である。ただ、牟田寄遺跡出土の土器にも同様の文字を記した墨書土器や銅製の印章が出土しているほかウマ、ウシなどの獣骨が確認されており、律令制下の「牧」の存在の可能性が想定されている。（前田：1994　千住遺跡・牟田寄遺跡　佐賀市文化財調査報告書第51集　佐賀市教育委員会）ことも考慮して、今後周辺の調査例の増加により集落の様相が明らかになるを待って、再び本遺跡の性格について検討してみたい。



1　3区全景（東から）



2　ＳＢ3016　掘立柱建物（北から）

3　ＳＥ2004井戸（南から）

4　ＳＥ2031井戸

5　ＳＥ2031井戸（南から）

6　ＳＫ3015土壙（西から）

図版12　修理田遺跡

11．川久保松原遺跡（略号：ＫＢＭ－４）

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字宮分

調査主体者

佐賀県教育委員会・佐賀市教育委員会（協力）

調査期間

平成９年３月３日～平成９年３月12日

調査面積

300㎡

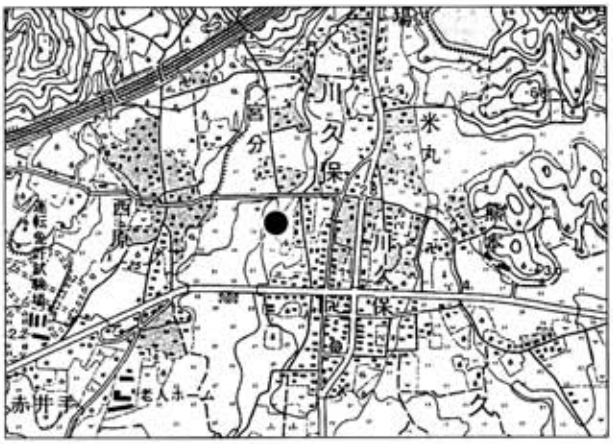



図39　川久保松原遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要（調査区位置　図39）

川久保松原遺跡４区は、佐賀市の北部に位置し、洪積台地周縁部の巨勢川によって形成された標高約20ｍの河岸段丘に立地する。調査対象地区は、調査前までは畑として利用されていた。周辺には、巨勢川の西岸対岸に御手洗遺跡が存在し、調査対象地区と同じ台地上に関行丸古墳や川久保遺跡等の多くの遺跡が存在する。川久保松原遺跡においては、平成４年度に農業基盤整備事業に関して、佐賀市教育委員会が４区の南や約200ｍにおいて、１～３区の本調査を実施しており（1)、弥生時代～中世を中心とした集落跡を確認している。

４区における遺構検出面までの深さは30～50㎝程度を測り、基盤層は調査区の大半において黄褐色砂質土・砂礫で調査区南東側では明褐色土となる。遺構埋土は黒色土・黒褐色土・褐色土・明褐色土を主体とする。調査区西側は、削平による落ち込みが認められ、部分的に近世期包含層（黒色土・黒褐色土）が遺存している。落ち込みは、人為的なものと河川による浸食作用によって形成された段位と考えられるものが存在する。

４区で検出した遺構は溝５条（図40・図41）、土壙５基（図42)、小穴約100基である。(表４)。遺構は、出土遺物が少なく、小破片が大半を占めるため明瞭な時期的把握は困難なものが多いが、出土遺物、遺構重複関係、遺構埋土・質等から、中世期（13～14世紀？）の遺構と考えられる溝跡３条と小穴数基を除き、遺構の大半が近世期（18～19世紀）に位置づけられるものと推定される。小穴のなかには明瞭に柱痕跡を確認したものは存在しない。一部有機性を有する小穴もあり掘立柱建物に関係する柱穴の可能性があるものが存在するが、調査範囲等の制限により明確には捉えていない。

遺物は、コンテナ１箱分の出土があり、中世・近世期の土師器皿・鍋・火鉢・瓦器火鉢、龍泉窯系青磁椀、染付皿・坏・椀・陶器椀・擂鉢等が出土しているが小破片が多い。近世期の出土遺物の中には、調査区東側約700ｍの熊本山周辺に存在する近世窯跡（皿山窯・尾形山窯跡）のものと考えられる陶器（図43）があり、窯道具であるハマ（図43－10）の出土と併せて興味深い資料である。また、縄文時代・奈良時代・平安時代の明瞭な遺構は検出していないが、ＳＫ410土壙埋土から縄文時代の押型文土器片（図43－11)、ＳＤ401溝跡埋土から須恵器甕片、ＳＤ403溝跡埋土から黒色土器Ａ類椀片、須恵器片（８世紀代？)、包含層から須恵器高台坏（８世紀前半、図43－12）が出土している。その他、ＳＤ403溝跡埋土からサヌカイト剥片が、ＳＤ404溝跡埋土から黒曜石剥片がまた、小破片でもあり断定はしがたいが、ＳＤ403溝埋土・表土中から弥生土器片と考えられるもの数点と、古墳時代の須恵器坏と考えられるもの数点が出土している。４区では押型文土器が出土しているが、縄文時代の遺跡は当該遺跡周辺の山麓部一帯に多く分布しており、早期の遺跡としては金立開拓遺跡（2）等が知られている。

以上から、４区は若干不明瞭な部分は存在するものの中世・近世期集落の一部と考えられる。特徴的遺構は少ないが、調査区東側で検出した南北に延長する北から南に向かう近世期のＳＤ403溝跡は、詳細は不明であるが、用水・排水的水路や集落区画等の機能が想定される。今後の周辺調査には注意が必要である。また、出土遺物については、前述の近世窯跡産陶器の出土報告例は、現状では少ないが今後増加するものと考えられる。また、出土遺物やこれまでの周辺調査事例から、当遺跡周辺には縄文時代～中世の多時期に渡る遺跡の存在が予想される。今回の調査は、調査区等の制限により遺跡の位置づけに若干の不透明さは残すものの、未解明部分の多い近世期集落等を考える上で貴重な資料である。

(1) 佐賀市教育委員会　1994　「御手水遺跡・琵琶原遺跡・川久保松原・川久保遺跡Ⅰ」 佐賀市文化財調査報告書第55集

(2) 佐賀市教育委員会　1984　「金立開拓遺跡」　佐賀県文化財調査報告書第77集

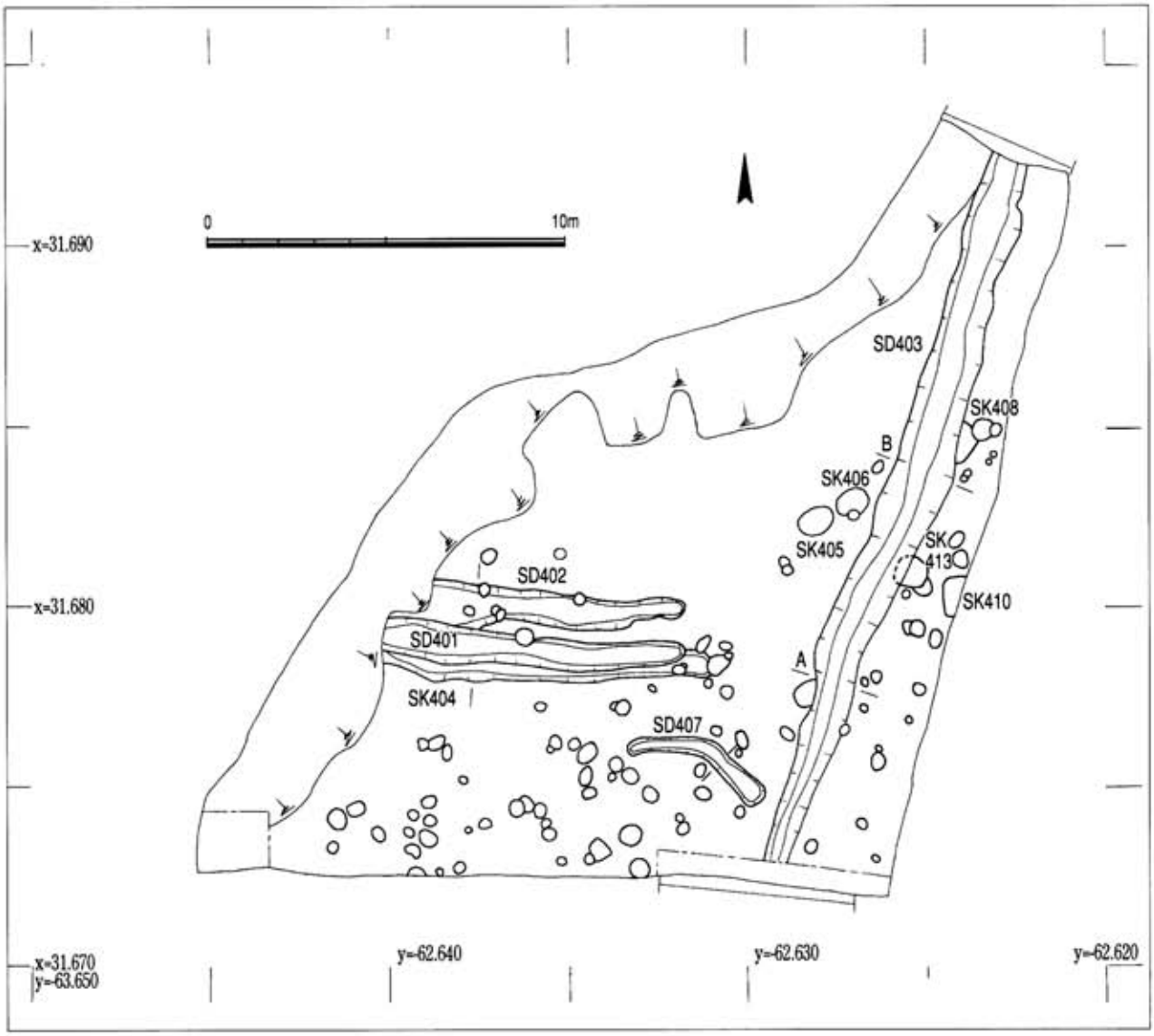
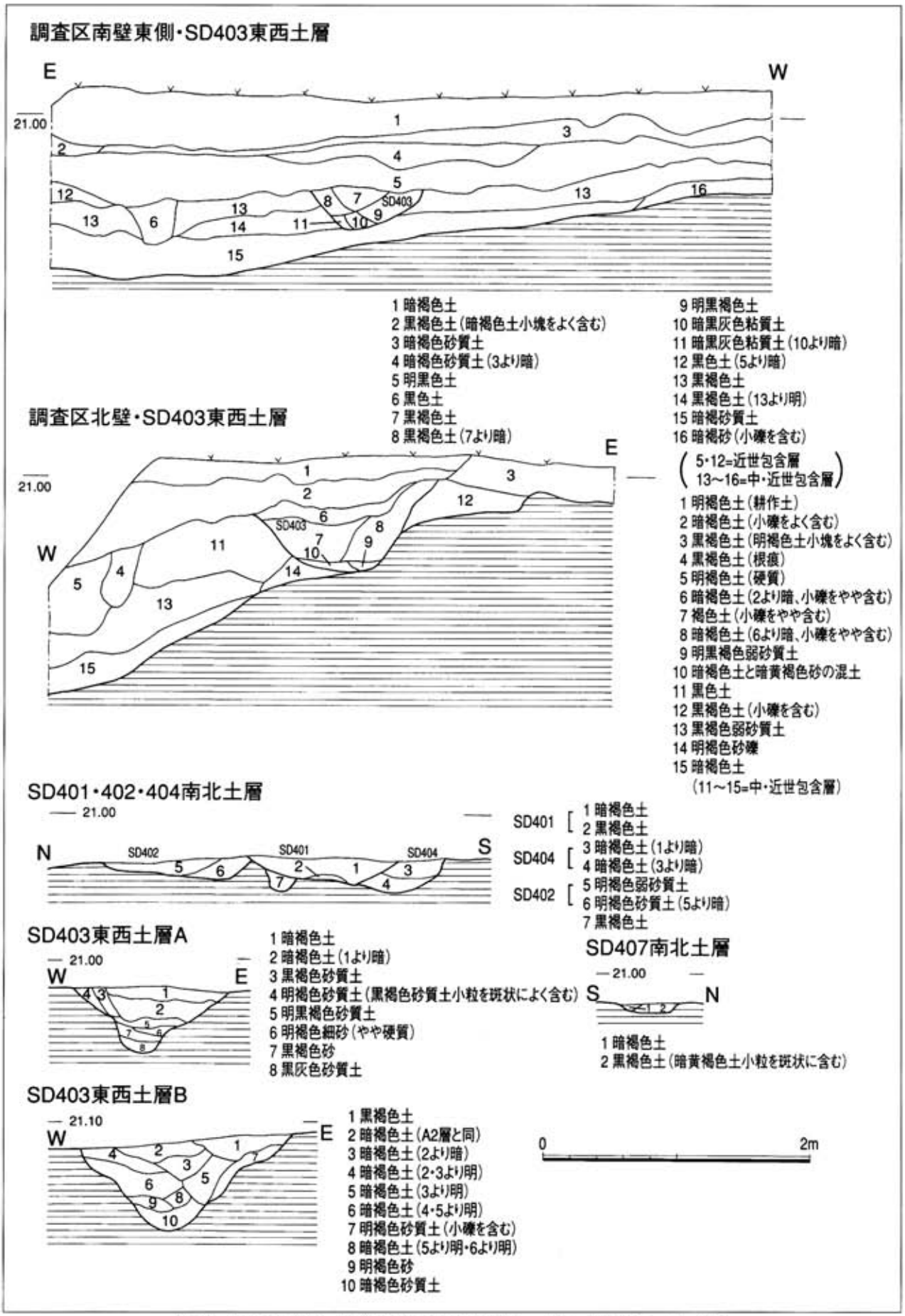



図40　川久保松原遺跡４区遺構配置図（Ｓ＝１／200）




1 暗褐色土
2 黒褐色土(暗褐色土小塊をよく含む)
3 暗褐色砂質土
4 暗褐色砂質土(3より暗)
5 明黒色土
6 黒色土
7 黒褐色土
8 黒褐色土(7より暗)
9 明黒褐色土
10 暗黒灰色粘質土
11 暗黒灰色粘質土(10より暗)
12 黒色土(5より暗)
13 黒褐色土
14 黒褐色土(13より明)
15 暗褐砂質土
16 暗褐砂(小礫を含む)

(5・12=近世包含層
13～16=中・近世包含層)

1 明褐色土(耕作土)
2 暗褐色土(小礫をよく含む)
3 黒褐色土(明褐色土小塊をよく含む)
4 黒褐色土(根痕)
5 明褐色土(硬質)
6 暗褐色土(2より暗、小礫をやや含む)
7 褐色土(小礫をやや含む)
8 暗褐色土(6より暗、小礫をやや含む)
9 明黒褐色弱砂質土
10 暗褐色土と暗黄褐色砂の混土
11 黒色土
12 黒褐色土(小礫を含む)
13 黒褐色弱砂質土
14 明褐色砂礫
15 暗褐色土
(11～15=中・近世包含層)

SD401 [ 1 暗褐色土
2 黒褐色土
SD404 [ 3 暗褐色土(1より暗)
4 暗褐色土(3より暗)
SD402 [ 5 明褐色弱砂質土
6 明褐色砂質土(5より暗)
7 黒褐色土

1 暗褐色土
2 暗褐色土(1より暗)
3 黒褐色砂質土
4 明褐色砂質土(黒褐色砂質土小粒を斑状によく含む)
5 明黒褐色砂質土
6 明褐色細砂(やや硬質)
7 黒褐色砂
8 黒灰色砂質土

1 暗褐色土
2 黒褐色土(暗黄褐色土小粒を斑状に含む)

1 黒褐色土
2 暗褐色土(A2層と同)
3 暗褐色土(2より暗)
4 暗褐色土(2・3より明)
5 暗褐色土(3より明)
6 暗褐色土(4・5より明)
7 明褐色砂質土(小礫を含む)
8 暗褐色土(5より明・6より明)
9 明褐色砂
10 暗褐色砂質土

図41　調査区壁面・溝跡土層実測図ＳＤ401～404・407（Ｓ＝１／40）

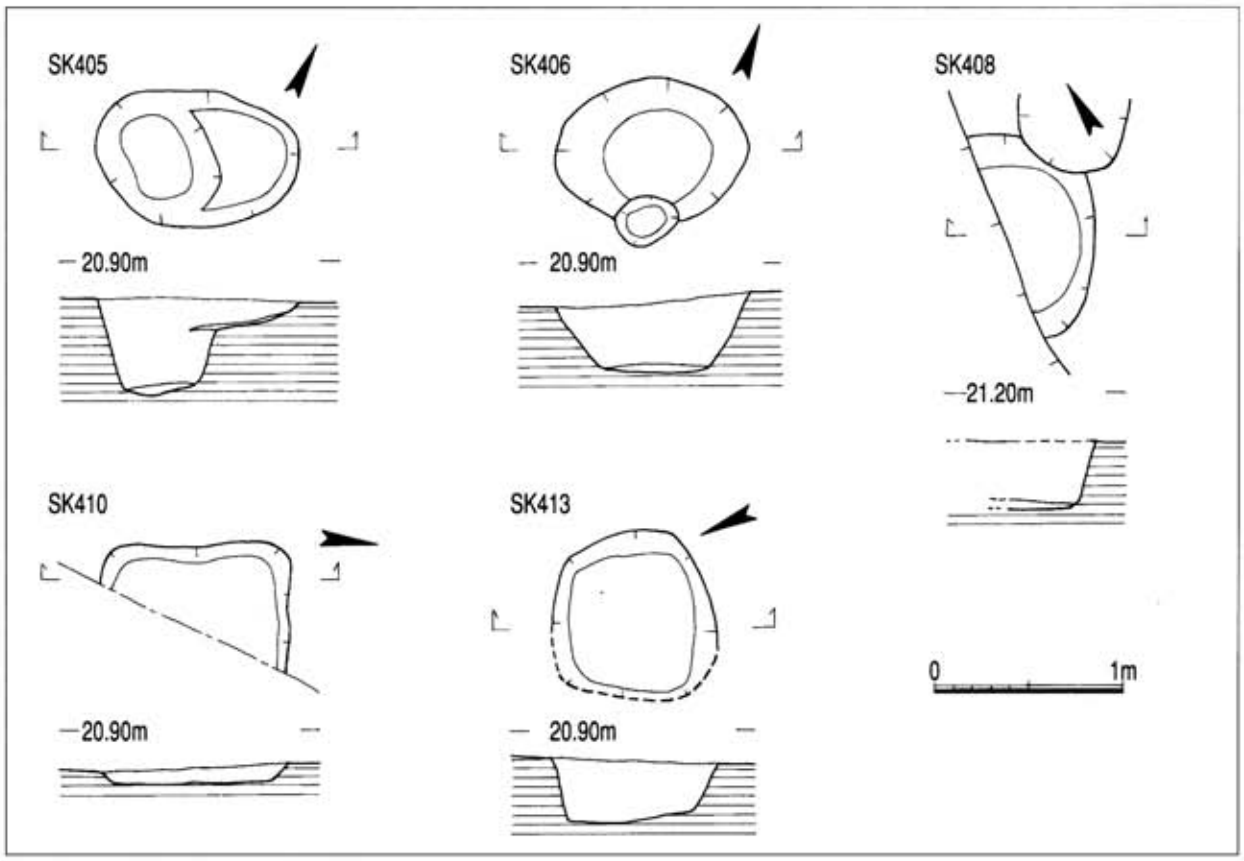



図42　川久保松原遺跡４区　土壙実測図（S＝1／40）

表４　川久保松原遺跡４区　主要遺構一覧表

溝跡一覧表　　※［ ］内は残存値

| 遺構番号 | 幅×深さ m | 時期 | 出　土　遺　物 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| ＳＤ401 | 1.12×0.18 | 中　世 | 土師器皿・鍋・須恵器甕 | 西側削平。ＳＤ402・404より新。 |
| ＳＤ402 | 1.27×0.16 | 中　世 | 土師器皿 | 西側削平。ＳＤ401より旧。 |
| ＳＤ403 | 1.66×0.69 | 近　世 | 土師器皿、鉢、瓦器火鉢、龍泉系青磁椀、染付椀・坏、陶器椀、擂鉢、瓦、須恵器坏・甕、黒色A椀（奈良～平安）、サヌカイト剥片 | 南・北側調査区外延長。ＳＤ408・ＳＤ413より新。 |
| ＳＤ404 | [0.89]×0.24 | 中　世 | 土師器皿・黒曜石剥片 | 西側削平。ＳＤ401より旧。 |
| ＳＤ407 | 0.65×0.08 | 近世？ | なし | |

土壙一覧表　　※［ ］内は残存値

| 遺構番号 | 平面形 | 長径×短径×深さ m | 時期 | 出土遺物 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ＳＫ405 | 不整楕円形 | 1.09×0.72×0.52 | 近世？ | な　し | |
| ＳＫ406 | 不整楕円形 | 1.02×0.78×0.45 | 近世？ | な　し | |
| ＳＫ408 | 楕円形？ | [1.1]×[0.6]×0.34 | 近世？ | 土師器 | ＳＤ403より旧。 |
| ＳＫ410 | 長方形？ | 1.02×[0.68]×0.11 | 近世？ | 土師器・縄文土器 | 東側調査区外延長。 |
| ＳＫ413 | 不整楕円形 | 0.92×0.87×0.35 | 近世？ | な　し | ＳＤ403より旧。 |

（註）遺構番号は百の位に調査区番号の「４」を冠し、その後に２桁の一連番号を付けた。

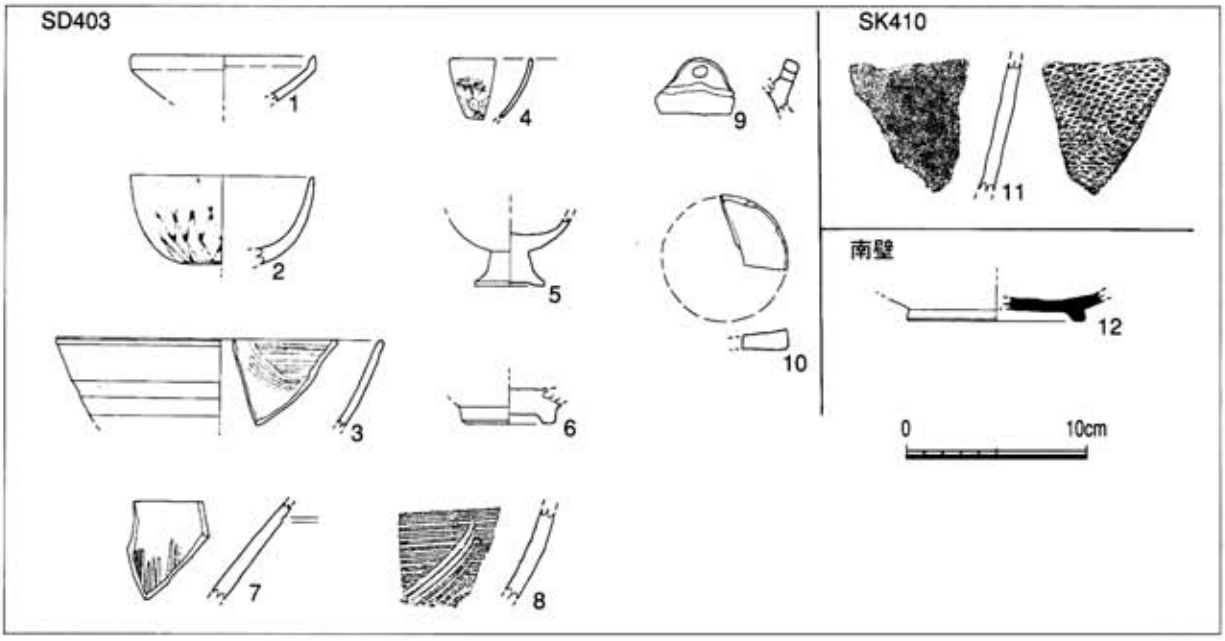



図43　川久保松原遺跡４区出土遺物実測図（S＝1／4）

表５　川久保松原遺跡４区遺物観察表

| 遺物番号 | 出土遺構 | 器種 | 法量 cm 口径 | 底径 | 器高 | 調整等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ＳＤ403 | 陶器 坏 | (10.0) | — | [2.5] | 内外面施釉。浅黄色釉。<br>胎土灰白色。上部1/3残。 |
| 2 | ＳＤ403 | 磁器 椀 | (10.0) | — | [4.9] | 網目文染付。内外面施釉。<br>白色釉。胎土灰白色。上部1/4残。 |
| 3 | ＳＤ403 | 陶器 椀 | (17.7) | — | [4.7] | 内面ハケ目文。内外面施釉。<br>暗黄色釉。胎土灰黄色。上部一部残。 |
| 4 | ＳＤ403 | 磁器 椀 | — | — | [3.3] | 草花文染付。内外面施釉。<br>白色釉。胎土白色。上部一部残。 |
| 5 | ＳＤ403 | 磁器 仏飯器 | — | 脚部3.8 | [3.9] | 内外面施釉。白色釉。胎土白色。<br>畳付・外底部露胎。坏部上部欠損。 |
| 6 | ＳＤ403 | 磁器 椀 | — | (5.2) | [1.9] | 龍泉窯系青磁。内外面施釉。オリーブ黄色釉。<br>胎土灰白色。外底部一部露胎。底部1/2残。 |
| 7 | ＳＤ403 | 磁器 擂鉢 | — | — | [5.5] | 灰褐色。内面縦位擂目。<br>体部一部残。 |
| 8 | ＳＤ403 | 陶器 擂鉢 | — | — | [5.2] | 灰褐色。内面縦・横位擂目。砂粒を含む。<br>体部一部残。 |
| 9 | ＳＤ403 | 陶器 土瓶 | — | — | — | 内外面施釉。<br>黒褐色釉。細砂粒をやや含む。外耳部一部残。 |
| 10 | ＳＤ403 | 土製品 ハマ | 復元径 7.0<br>高 1.2 | | | 暗赤褐色。細砂粒をよく含む。<br>1/4残。 |
| 11 | ＳＫ410 | 縄文土器 | — | — | [7.1] | 外面楕円押型文。内面ナデ。暗橙色。<br>細砂粒を含む。体部一部残。 |
| 12 | 南壁土層 13層 | 須恵器 坏 | — | (9.7) | [1.6] | 内面ナデ・ヨコナデ。外面ヨコナデ。<br>橙色。底部1/6残。 |

※（　）内は復元値。［　］内は残存値。

1　調査区遠景　北から

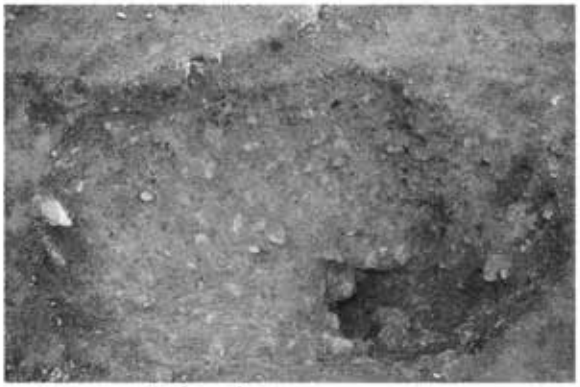
2　調査状況　北から

3　調査区全景　北から

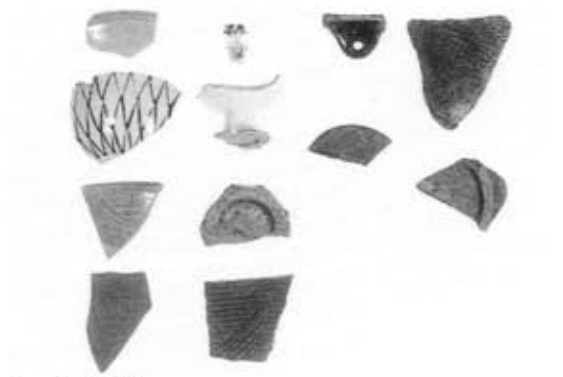
4　調査区近景　南から

5　ＳＤ401・402・404溝跡土層　西から

6　ＳＤ403溝跡土層Ｂ　南から



7　ＳＫ405土壙　西から



8　出土遺物

図版13　川久保松原遺跡４区

## 12. 西の原西遺跡（略号：ＮＳＮ）

遺跡の所在地

多久市多久町西の原

調査主体者

多久市教育委員会

調査期間

平成８年４月25日～平成９年３月31日

調査面積

5,500㎡

図44　西の原西遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

多久市多久町西の原地区は、市南部、鬼の鼻山系北麓の稜間から北へ伸びる丘陵に位置し、同地区は西部から西多久町方面にまで広がる水田地帯となっている。その中を流れる同山系を源流とする古野川は、多久町岡地区を流れる用水路と合流し東流する牛津川へと流れ込んでいる。西の原西遺跡はちょうど古野川と用水路が合流する近くの水田、標高31ｍ～36ｍを測る地点に所在している。

遺跡の周辺は、東に多久町を中心とする鬼の鼻山北麓一帯に広がる多久石器遺跡群と茶園原遺跡・三年山遺跡といったサヌカイト製石器工房跡が点在しており、また、調査区西側の農道を挟んで向かいの水田には、平成７年度の調査で縄文晩期の遺物が多量に出土した岡遺跡が接している。丘陵の環境は緩やかな傾斜が続く遺跡の立地に適した地形だが、過去の圃場整備の削平でほとんど失われており、確認調査の結果、開発総面積40.5haに対して約8,000㎡で遺構および遺物を検出し、工事計画の変更ができず削平を受ける部分5,500㎡についてⅠ・Ⅱ・Ⅲ区と呼称し発掘調査を実施した。

本遺跡の内容はⅠ区で中世の柱穴と小穴、溝状遺構など生活跡を検出した。

柱穴は一部連なっており掘立柱建物が存在したと思われるが全体像は確認できなかった。

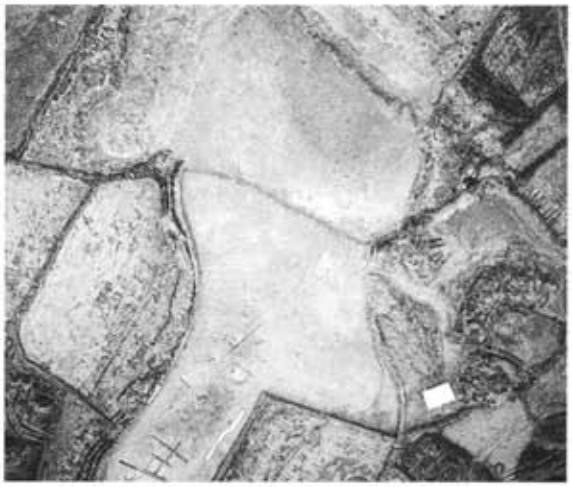
遺物は遺構に伴う出土は少なく、表採により椀・甕・擂鉢・注口土器等や打製石斧・石鏃・石錘が多量に含まれていた。遺物包含層の下には砂を含む弱粘性の土が厚く堆積しており、ここがかつて河川だったろうことが窺える。当時の支流か、また、古野川本流が流れを変えた際の凹みを利用した廃棄層と考えられる。遺物は磨滅もなく、接合する同一個体の散らばりもまとまりがあり、廃棄後から移動は少なかったものと予想されるが、若干の遺物の集中は認められるものの廃棄の単位を判別することはできなかった。

他に流路跡の東岸から土壙墓と思われる遺構を１基検出した。長径120㎝、短径80㎝、深さ29㎝を測り、遺構内より石材は不明だが白色の脆い材質の玉２点と土器の小片が出土した。

また、土壙及び小穴が流路内に数基と調査区北側に多数見られたがこちらも遺物も僅かで保存状態の良好なものはなく性格は不明である。

西の原西遺跡は、現在、多久市内で１例のみ発見されている長尾蔵富遺跡の廃棄層に近い遺物包含層を検出したことで、若干時期や立地環境に差があるものの比較検討の貴重な材料を得られたことが最大の成果である。

1　第Ⅰ区全景



2　第Ⅱ・Ⅲ区全景

3　検出状況

4　遺物出土状況

図版14　西の原西遺跡

## 13. 馬場北遺跡（略号：ＢＢＮ）

遺跡の所在地

杵島郡江北町大字上小田字馬場北

調査主体者

江北町教育委員会

調査期間

平成８年５月10日～平成８年11月18日

調査面積

5,585㎡

図45　馬場北遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

遺跡は、聖岳から南東に派生した支脈が標高を減じ丘陵地形となって沖積地となって移行する地形の変換点に位置している。丘陵と丘陵の間には祇園川が流れ、その川を隔てて焼石遺跡と接地している。

遺跡は弥生時代と中世から近世にかけての集落跡で、特に、弥生中期中頃から後半にかけての遺構を多く検出した。

弥生時代の遺構は甕棺墓４基、土壙１基・溝跡３条、小穴多数を検出した。甕棺墓はいずれも小児棺で合口棺３基、石蓋単棺１基を確認した。このうち合口棺１基は、牛津町以西でみられる特徴的な甕であった。

遺物は、弥生時代中期中頃のものが大半を占め中期末から後期初頭のものもみられた。この時期の遺物としては甕・壺・高坏・器台・土錘・砥石などが出土した。また、数点であるが成人甕棺の口縁部破片を表面採集した。

中世の遺構は、掘立柱建物跡２棟、土壙10基、溝跡９条、小穴等を検出した。このほか、近世の埋甕２基と時期不明の井戸跡１基を検出した。

これらの遺構からは、土師器大皿・小皿・坏、須恵器、唐津焼陶器、擂鉢、瓦器椀、白磁、龍泉窯青磁などが出土した。

馬場北遺跡は平成７・８年度調査の焼石遺跡と祇園川を隔てて隣接しており、遺跡の時期もほぼ同時期であることから両遺跡は同時期に一つの遺跡として営まれていたと考えられる。

また、天正３年に龍造寺氏支配下の馬場鑑周がこの地から約600ｍの東の乙宮山に山城を築いている。中世の遺構・遺物は16世紀後半から17世紀初頭ものが大半を占めることから、この地は馬場氏の城下町の可能性を示しているといえよう。

1　調査区全景

2　6区全景

図版15　馬場北遺跡

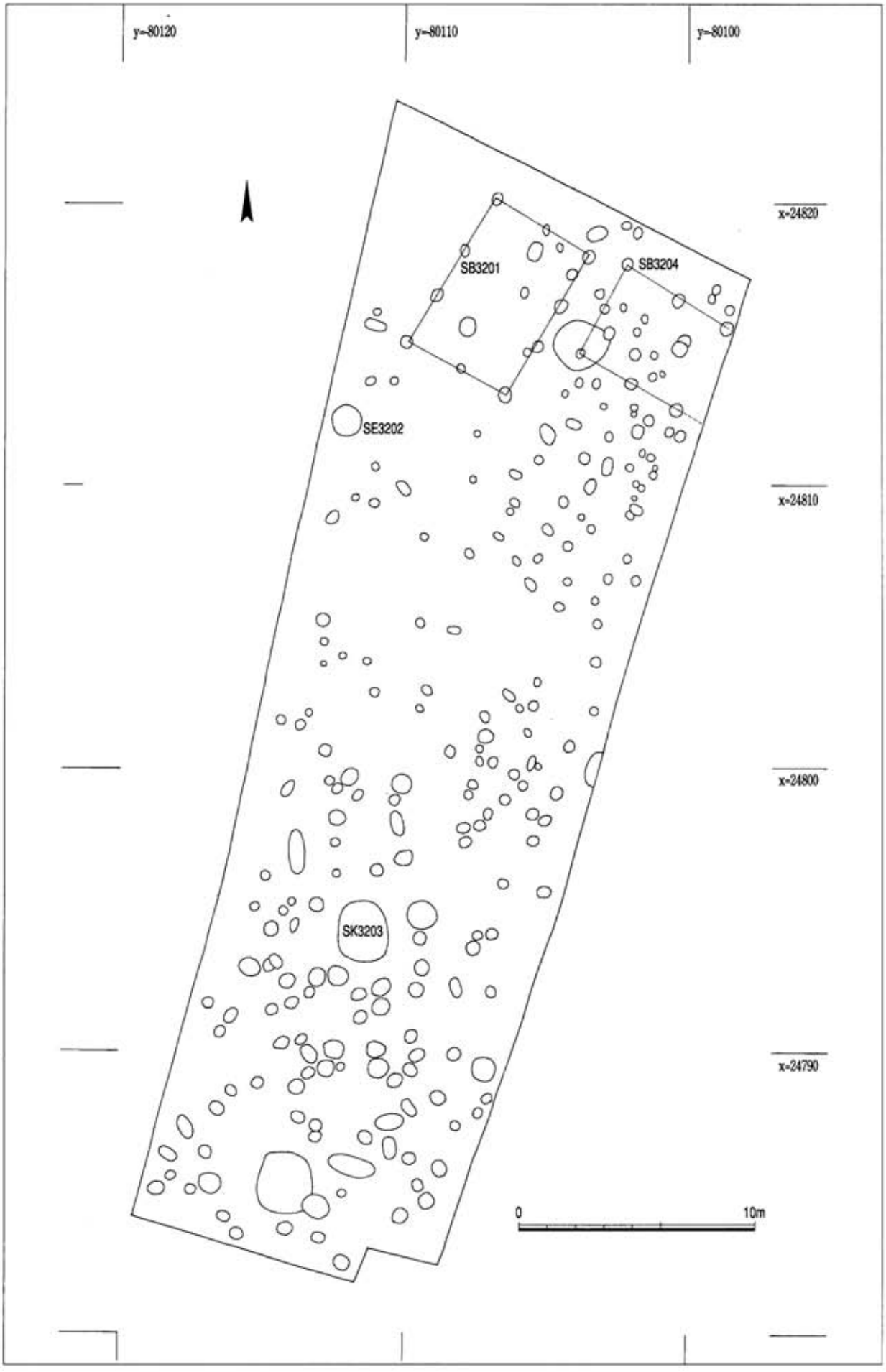



図46　馬場北遺跡遺構配置図（1）３C区

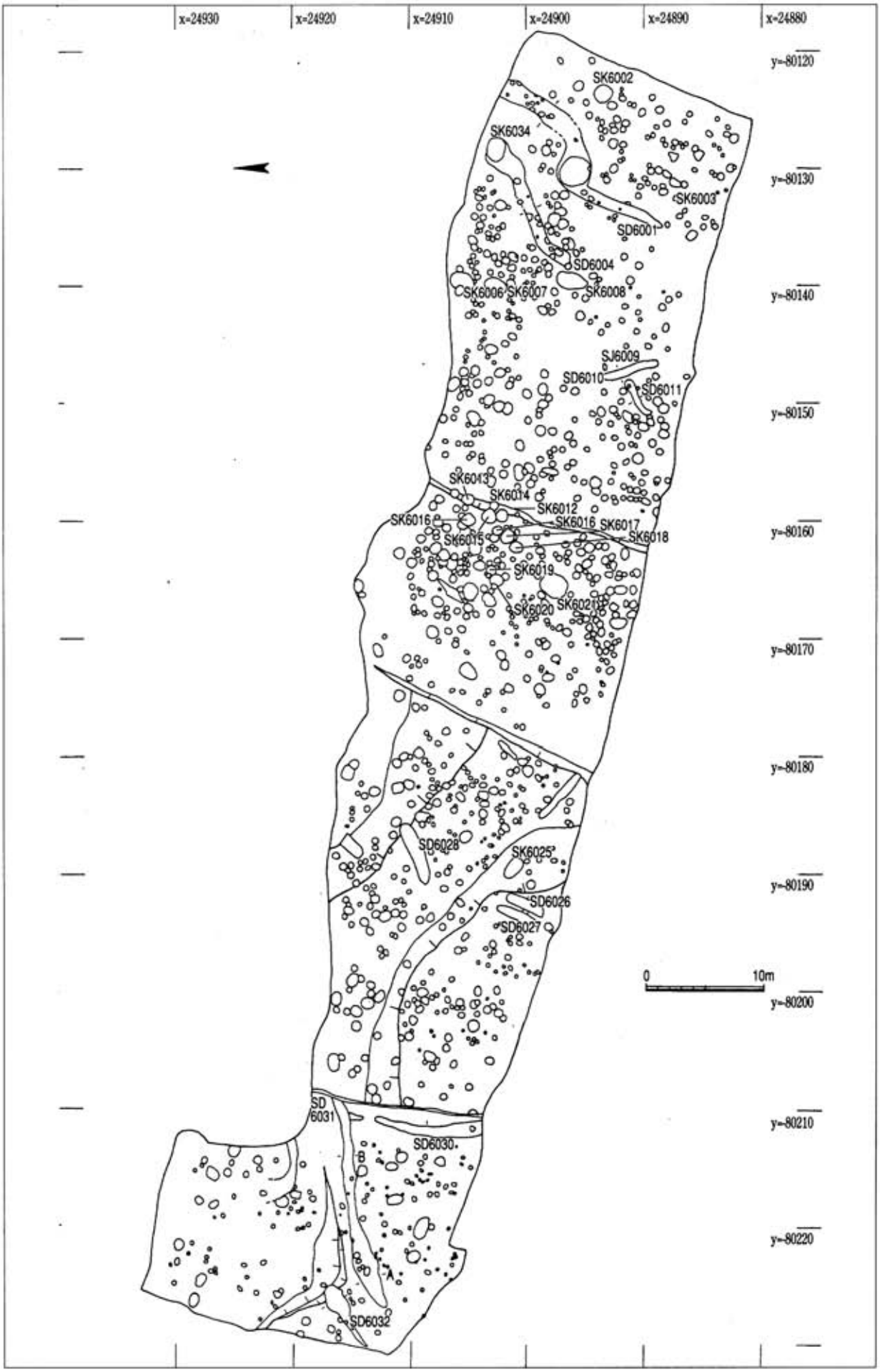



図47　馬場北遺跡遺構配置図（２）６区

## 14. 焼石遺跡（略号：ＹＫＳ）

遺跡の所在地

杵島郡江北町大字上小田字小路

調査主体者

江北町教育委員会

調査期間

平成９年４月15日～平成９年５月25日

調査面積

2,007㎡

図48　焼石遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

遺跡は江北町の西北部、聖岳から南東に派生した支脈が標高を減じ丘陵地形となって沖積地となって移行する地形の変換点に位置している。丘陵と丘陵の間には小規模な河川が流れており、谷を土砂で埋めた扇状地を形成している。

遺跡は弥生時代と中世から近世にかけての集落跡で、中世から近世にかけての遺構が主体を占めている。

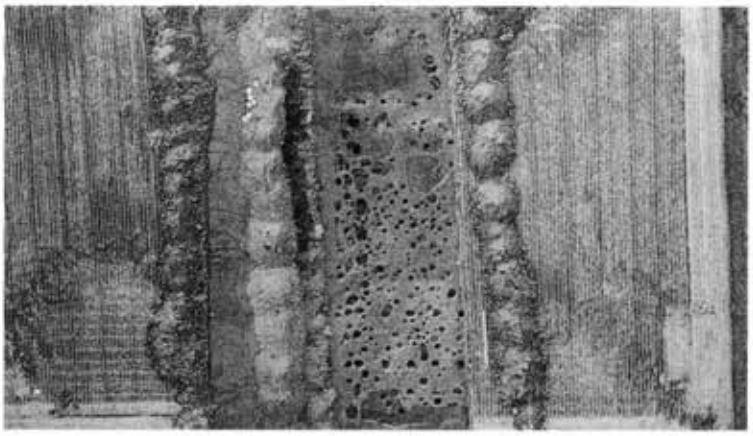
弥生時代の遺構は、小児棺墓１基、土壙１基、小穴多数を検出した。小児甕棺墓棺は合口で牛津町以西でみられる特徴的な甕であった。遺物は弥生中期中頃から中期後半にかけての甕、壺、高坏、器台、石包丁等が出土した。

中世から近世にかけての遺構は、掘立柱建物跡６棟、溝跡１条、土壙６基、小穴多数を検出した。特に６区では遺構密度や遺物量が多かった。６区では掘立柱建物跡が５棟確認され複雑に切り合っているが、出土遺物からほぼ同時期と考えられ、拡張や建て替えを示すものと推測できる。

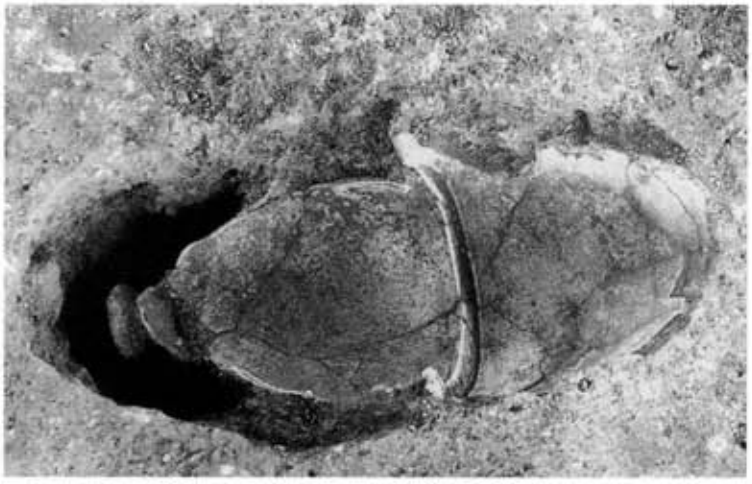
出土遺物は、在地産陶磁器以外の出土も目立ち、景徳鎮系の染付皿、龍泉窯青磁、李氏朝鮮王朝と思われる白磁椀、福建省系の染付皿、瀬戸美濃系の陶器等が出土した。

焼石遺跡は、馬場北遺跡と祇園川を隔てた北側にあり、出土遺物からほぼ同時期と推測されることから、同時期に営まれた一つの集落であると考えられる。また、同時期の天正３年に龍造寺氏配下の馬場肥前守鑑周が南東約800ｍの乙宮山に山城を築いていることから、同時期に営まれた馬場氏の城下町の様相を示していると考えられる。

1　6区全景（西から）



2　7区全景（上から）



3　6区　ＳＪ611甕棺出土状況

図版16　焼石遺跡

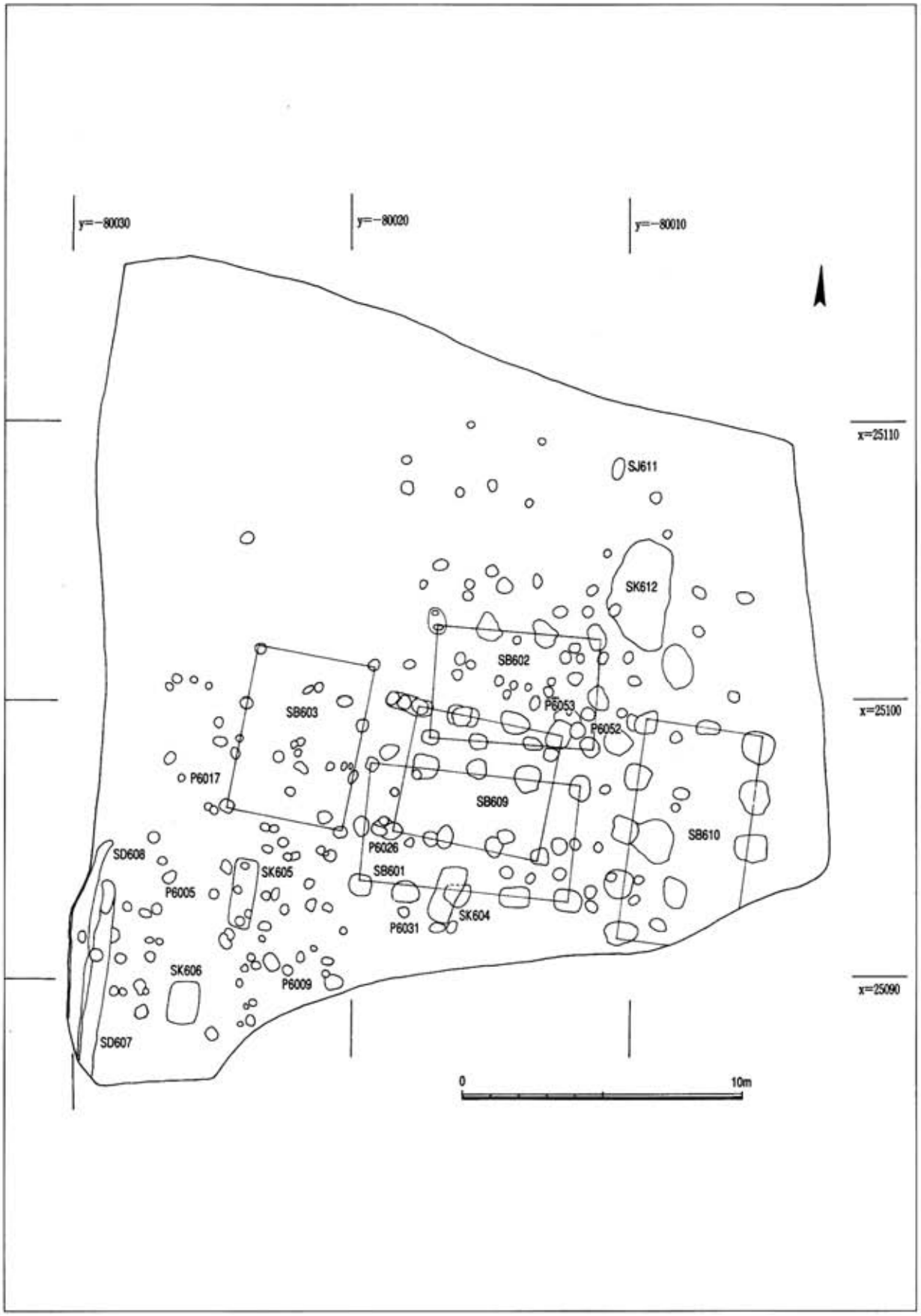



図49　焼石遺跡遺構配置図（1）　6区（S＝1／200）

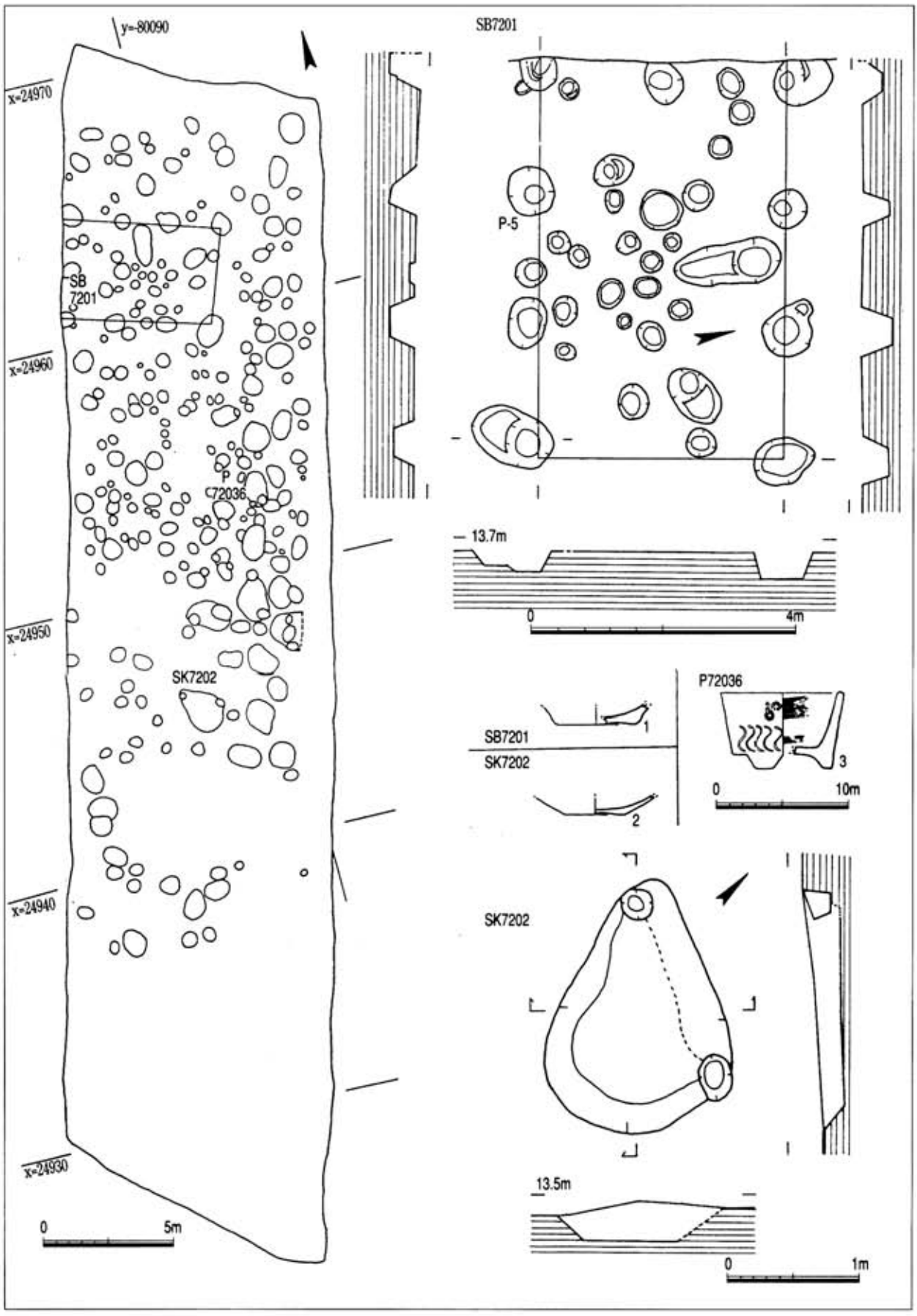



図50　焼石遺跡遺構配置図（２）7C区、SB7201・SK7202遺構実測図、出土遺物実測図

## 15. 山中遺跡（略号：ＹＭＡ）

遺跡の所在地

杵島郡江北町大字上小田字山中

調査主体者

江北町教育委員会

調査期間

平成８年11月19日～平成８年11月25日

調査面積

460㎡

図51　山中遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

遺跡は、江北町の西北部、聖岳から南東に派生した支脈が標高を減じ丘陵地形となって沖積地となって移行する地形の変換点に位置し、16世紀後半から17世紀初頭の城郭が残る乙宮山の北麓に位置する。

遺跡は、中世から近世にかけての遺構を主体とする集落跡である。

遺構は、掘立柱建物跡６棟、土壙４基、溝跡１基、小穴多数を検出した。掘立柱建物跡６棟は複雑に切り合っているが、出土遺物によって16世紀後半から17世紀初頭のほぼ同時期のものと考えられ拡張・または建て替えを示すものと考えられる。なお、この掘立柱建物跡には多数の柱が残存していた。

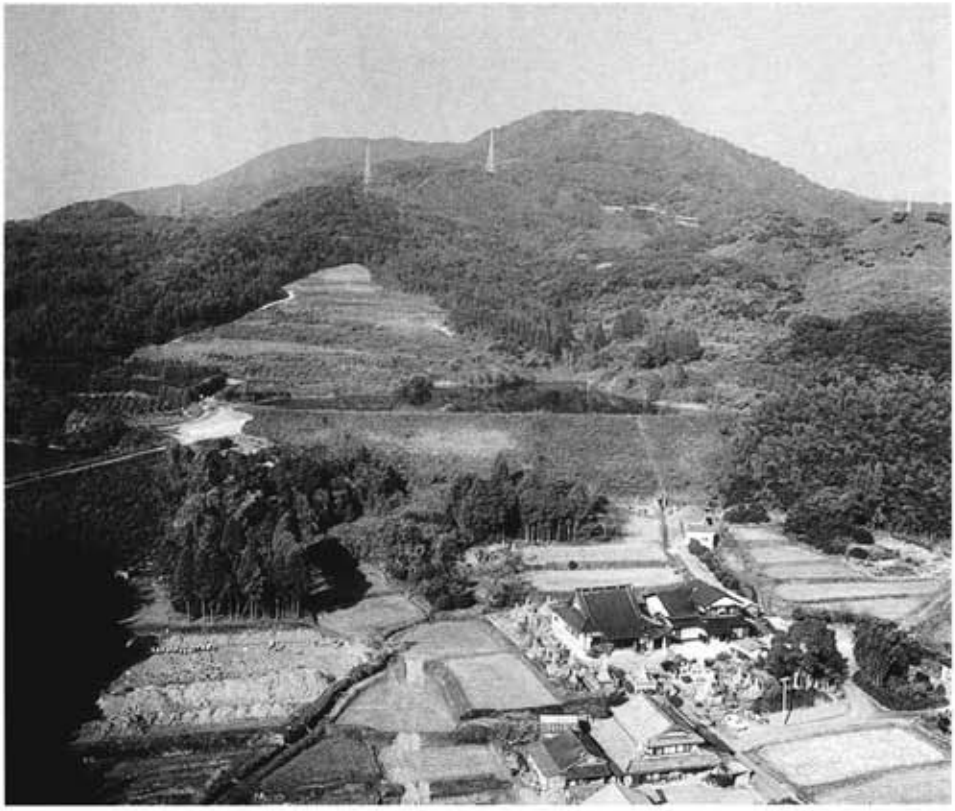
溝跡は、調査区の東西に走り調査区外へと伸びる。この溝跡を中心として調査区北側と南側では、遺構のほとんどが、南側で集中して検出した。このことから、この溝が区画溝的な性格を示すものと推測される。

出土遺物は、土師器皿、唐津焼陶器、瓦器、羽釜、白磁、青磁、朝鮮王朝陶器などが出土した。

山中遺跡背後にあたる乙宮山には、山城跡が確認されている。この山城跡は、もともと単純な構造であったものを後になって大幅に改修したものであって、時期は天正後半から慶長のころと推測する。

なお、この地には元亀元年に龍造寺信周が配置されており、その後天正３年三根郡中野城主の馬場肥前守鑑周が入部している。

天正後半から慶長頃に行われた大規模な普請や先進的な技術の導入を伴う改修は、ほぼ同時期に著しい展開を示す城下の集落と併せて馬場氏によりものとするのが自然である。即ち、山中遺跡は、乙宮山城下の中枢部である馬場氏の館の候補地として有力であるといえよう。



1　山中遺跡1区遠景（東から）

2　山中遺跡1区全景（上から）

図版17

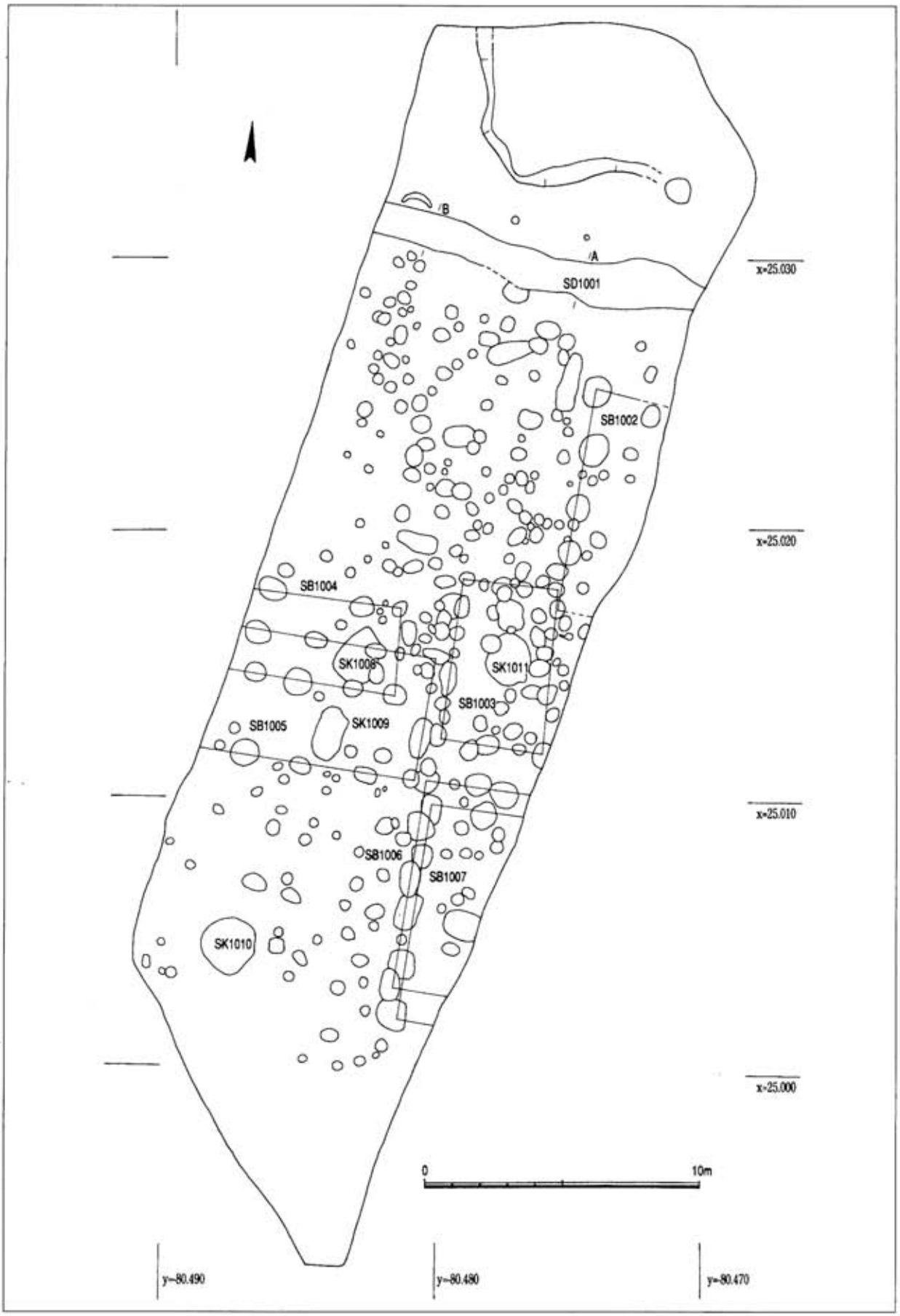



図52　山中遺跡遺構配置図　1区（S＝1／200）

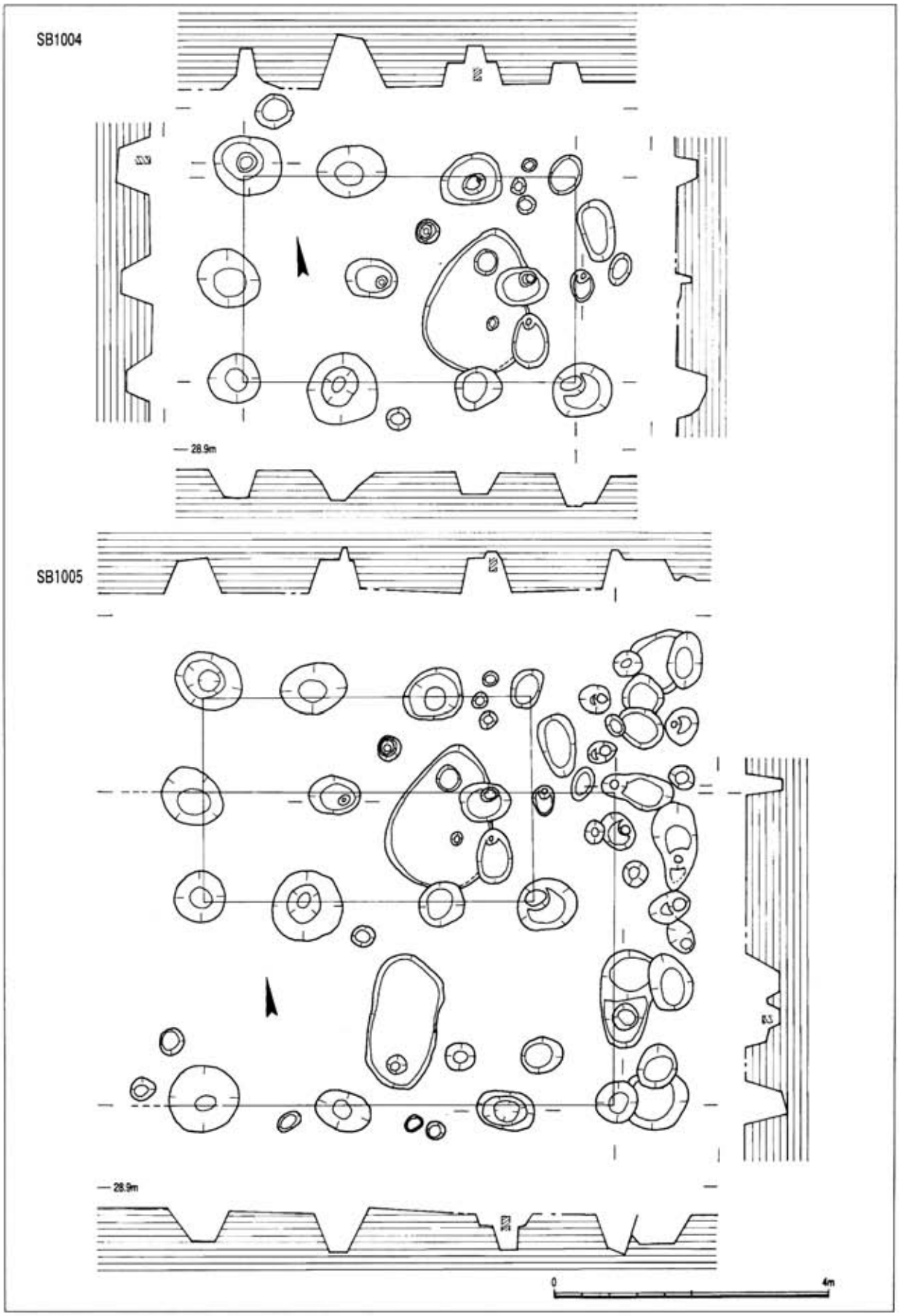



図53　山中遺跡遺構実測図 SB1004・SB1005（S＝1／80）

## 16. 八幡溜第Ⅱ遺跡（略号：HMDⅡ）

遺跡の所在地

唐津市佐志字八幡

調査主体者

唐津市教育員会

調査期間

平成8年6月20日～平成8年9月26日

調査面積

1,200㎡

図54　八幡溜第Ⅱ遺跡位置図（S＝1／25,000）

遺跡の概要

八幡溜第Ⅱ遺跡は、唐津市西部、佐志地区の西側に広がる玄武岩の風化土壌で形成された標高120～200ｍの準平原状台地（通称上場台地）の東側の縁辺部に立地する。遺跡の北側には、玄海灘が広がる。周辺には、八幡溜第Ⅲ遺跡、黒龍遺跡、園田遺跡、松尾遺跡、松尾Ⅱ～Ⅳ遺跡、笹ノ尾遺跡、草履作遺跡、枝去木山中遺跡等、旧石器時代から弥生時代にかけての遺跡が多く所在している。また、佐志地区の平野部に至ると縄文時代中期の遺物が出土した徳蔵谷遺跡、中世の遺構が検出された佐志中通遺跡が見られる。

調査は、道路拡幅工事に伴い昨年に続き行われているもので、平成7年度の調査区をA地区として、西へ順にB地区、C地区として調査を行った。

八幡溜第Ⅱ遺跡は、平成6年度の確認調査では三稜尖頭器や石鏃等、旧石器時代から縄文時代にかけての遺物が出土している。

B地区は、確認調査時に安山岩製の三稜尖頭器が出土した地区で、主に旧石器時代の遺物包含層の広がりが確認されていたところである。B地区（960㎡）は調査区を東西に分けて西側から調査を実施した。調査区の西側と中央の一部はミカン園造成時に削平を受けたところが多く、遺物包含層は良好な状態では残っていなかった。その中で遺物包含層の遺存状態の良い中央部西側の一部、北側、東側を中心に調査した。しかし、ミカン穴の掘り込みによる攪乱が随所に見られ、土壙や柱穴などの遺構は検出されなかった。確認調査で三稜尖頭器が出土した地点周辺は剥片等の石器が比較的多く出土し、ナイフ形石器や台形石器の出土地点周辺も同様の状況が見られ、石器が集中することが窺えた。石鏃等は造成による層から出土したものが多かった。

C地区（240㎡）は確認調査で遺物包含層の遺存状態が良好な部分について調査を行った。確認調査時に、縄文晩期頃の土器が出土していた部分は、小面積ながら遺物包含層を掘り下げた結果、縄文時代晩期の土器の口縁部等が数点出土したその他にも黒曜石の剥片等の石器が出土した。C地区は八幡溜に向かい、なだらかな丘陵地であるが調査地の幅が狭く細長いこと、既存の道路によって丘陵は切られており、遺跡の広がりを十分確認することはできなかった。

調査の結果、調査区の北側に広がる八幡溜に接するように、B地区は旧石器時代のナイフ形石器文化を中心としたと考えられる遺跡の広がりが見られる。C地区は縄文時代を中心とする遺跡が既存道路を挟んで存在することが想像される。八幡溜周辺は旧石器時代から縄文時代にかけての重要な遺跡が報告されており、平成7年度に続く今回の調査は、遺跡群の実態を知る手がかりとなるものである。

1　調査状況

2　調査状況

3　遺物出土状況

図版18　八幡溜第Ⅱ遺跡

## 17. 太田遺跡（略号：OOT）

遺跡の所在地

東松浦郡肥前町大字納所字太田

調査主体者

肥前町教育委員会

調査期間

平成８年７月～平成８年10月

調査面積

740㎡

図55　太田遺跡位置図（S＝1／25,000）

遺跡の概要

太田遺跡は肥前町の北部、標高100ｍの丘稜の先端部に位置し、水田として利用されている。遺跡の南側には湧水の豊富な低湿地帯に水田が広がり、北側には海からの風を遮るように丘陵地が広がり、周辺には納所小西遺跡群・長田溜周辺遺跡群などの旧石器時代～縄文時代土の遺跡が多数存在している。

調査は、南北、東西を主軸に２×２ｍのグリッドを設定し、すべて手掘りで行い、出土遺物はグリッド毎に出土地点、絶対高を記録して取り上げた。

旧石器時代の出土遺物はナイフ形石器・彫器が中心である。ナイフ形石器は縦長剥片を利用し、二側縁にブランティングがなされているものが大半を占めている。また、素材剥片の一側縁にブランティングがなされているものや二重縁加工の切出形石器も大半を占めている。彫器は素材長軸と平行に彫刻刀面を作り出したもので、彫刻刀面を形成するための打面にはブランティング状の調整加工がなされているものがほとんどである。他に台形石器・削器・細石刃が少量出土している。縄文時代の出土遺物は尖頭器・石匙（１点）・磨石（１点）がある。尖頭器は安山岩製でやや縦長のものとやや横広の小型のものがあり、いずれも両面加工である。黒曜石製の尖頭器については欠損品がほとんどで、破片の集中部に出土している。

今回の調査によって、以上のように旧石器遺時代から縄文時代の遺物を確認することができた。上場台地では層位的条件に恵まれていないが、平面分布からは石材別・時代別をある程度区別することのできるブロックも検出されており、この時代の生活のあり方を復元していく上で貴重な資料を得ることができた。

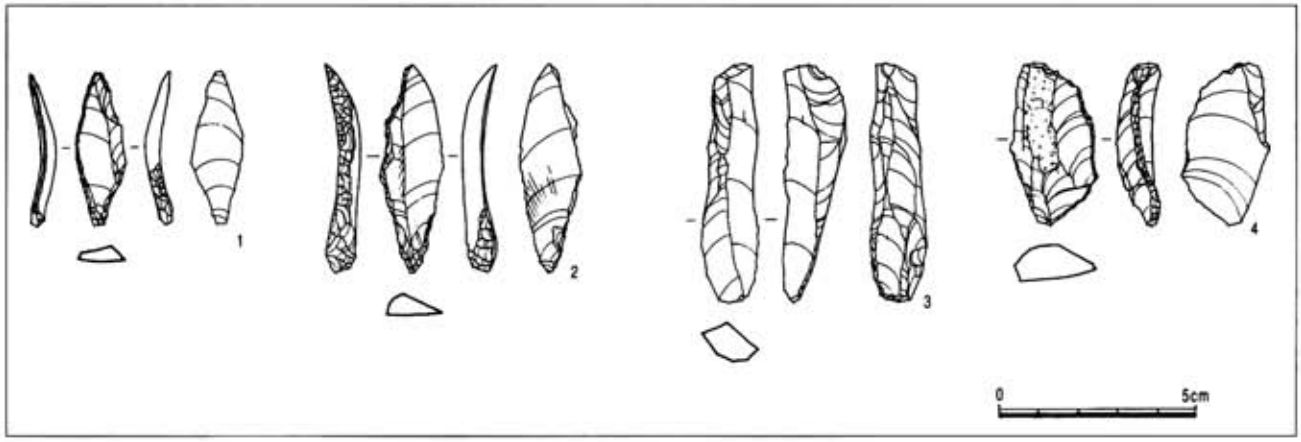
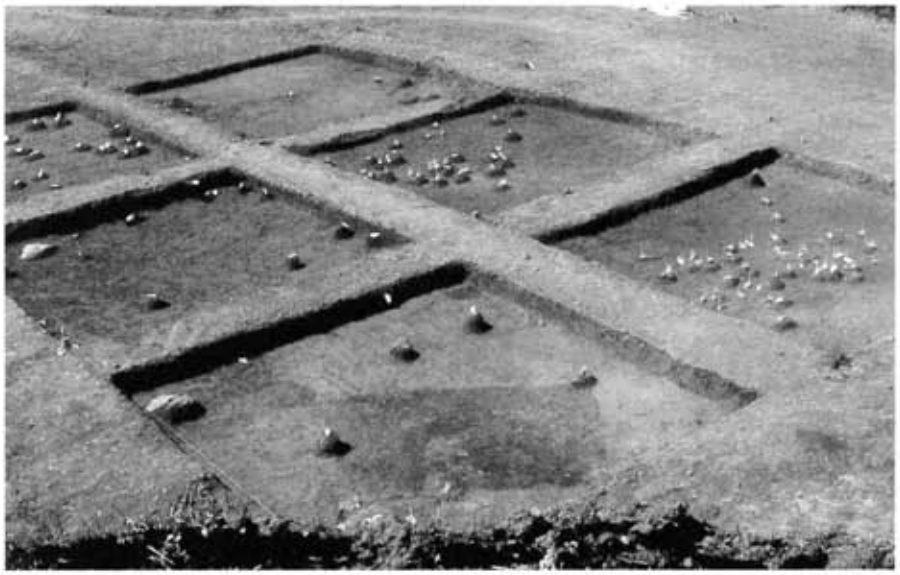



図56　太田遺跡出土遺物実測図（S＝1／2）

1　調査区全景



2　調査区遺物出土状況

3　遺物出土状況

図版19　太田遺跡

## 18. 塩鶴遺跡遺跡（略号：ＳＩＯ）

遺跡の所在地

東松浦郡鎮西町大字塩鶴字村田

調査主体者

鎮西町教育委員会

調査期間

平成８年９月～平成９年３月

調査面積

4,000㎡

図57　塩鶴遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

塩鶴遺跡は開析谷が流れ込む低湿地に位置する。調査対象地は水田となっており、15cm前後の耕作土を除去すると多量の弥生土器・中世の土器などを含む遺物包含層が認められた。遺構上面は削平されていたため遺構面は不明瞭であったが、弥生時代後期の甕棺墓８基・石棺墓２基・集石遺構１基および中世の建物跡などを確認した。

甕棺墓はいずれも攪乱を受け、上面の破損が著しかったが、このうちの１基から甕棺内部で管玉と勾玉を検出し、当時の副葬品と考えられる。

中世の遺構では掘立柱建物跡が数棟認められるほか、井戸・溝を検出した。特に井戸は深さが20cm～30cm程度であったが多数の木製品を含んでいた。

調査区内で出土した土器片などの遺物はコンテナ箱にして50箱を数える。遺物には、多量の弥生土器のほか貿易陶磁器も出土しており弥生時代と中世の時期の複合遺跡であることを十分推定させる。

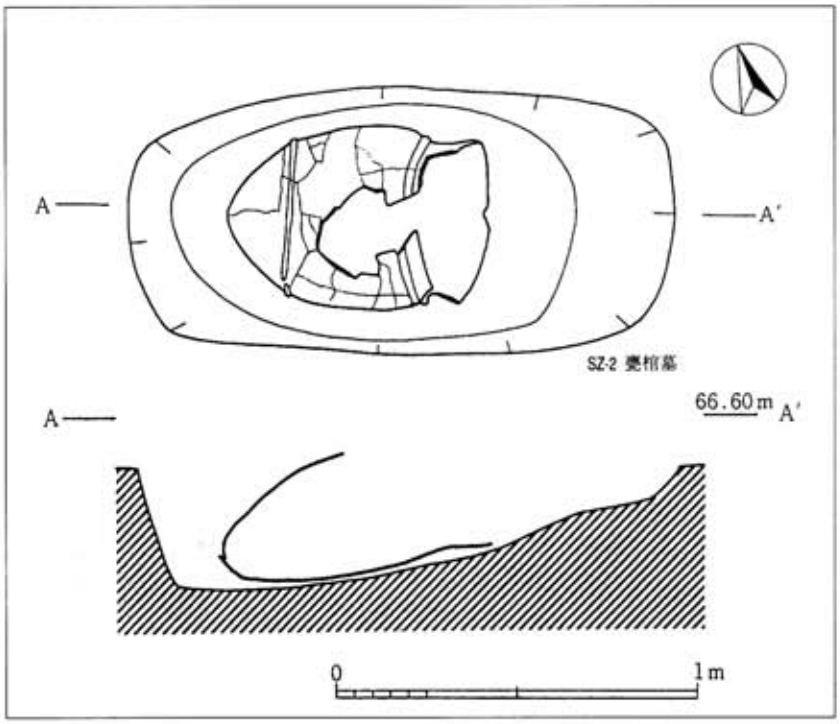



図58　塩鶴遺跡甕棺実測図

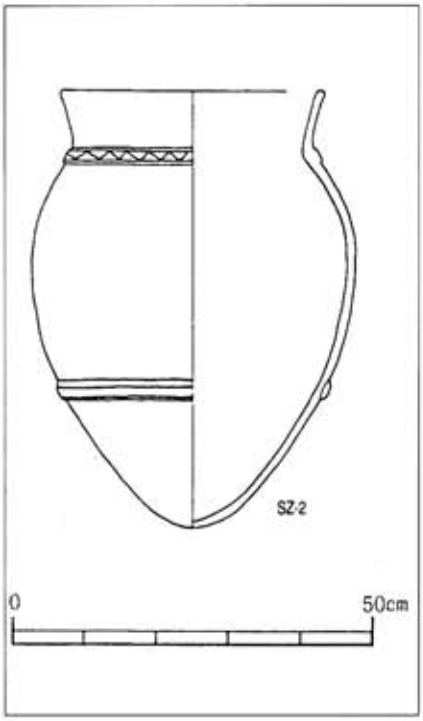



図59　甕棺実測図

1　A区全景
（北から）

2　B区全景（東から）

図版20　塩鶴遺跡

## 19. 薬師森遺跡（略号：ＹＭＲ）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字薬師丸字薬師森

調査主体者

佐賀県教育委員会

調査期間

平成８年12月16日～平成９年２月24日

調査面積

200㎡

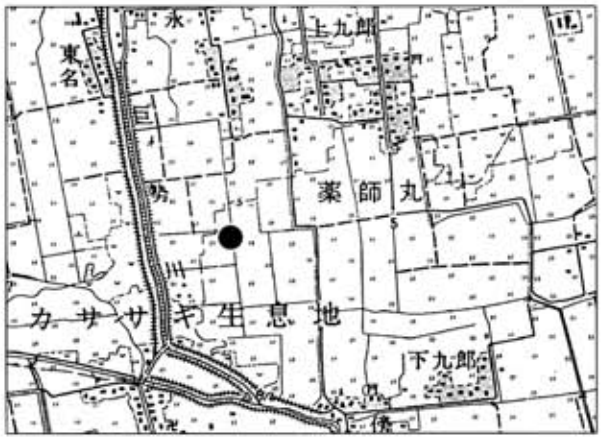



図60　薬師森遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

薬師森遺跡は、巨勢川の東、標高4.0～4.3ｍの水田部に位置し、南側には焼原川が流れている。周辺の遺跡としては、弥生時代を中心として北に村徳永遺跡・上九郎遺跡・石土井遺跡・薬師丸五本遺跡、東に友貞遺跡・東名遺跡などが存在する。これらの遺跡のほとんどが現在の集落とほぼ重なって存在している。これまでは水田部の高畑部分において遺構の存在は確認されていたが、現況の水田面以下では遺構は確認されていなかった。しかし、平成２年度の佐賀市教育委員会による巨勢川調整池事業に伴う確認調査の結果、巨勢川西岸の低地部で縄文時代早期の東名遺跡が発見され、平成５～７年度に本調査が行われている。

調査は削平を受ける水路部分の200㎡について実施した。調査の結果、溝１条および遺物包含層を確認した。溝は北西から南東方向に伸びており、北側はクリークによって寸断されているがさらに伸びるものと考えられる。南側について調査区の拡張を行い、溝の延長を追いかけたがこれも今回の調査対象区外に伸びている。溝は、浅い部分で約20cm、深い部分では60cm程度が残存している。

出土遺物は、縄文時代晩期末～弥生時代初頭と考えられる土器・石器が遺物包含層から出土している。これらの遺物は、溝の中からも出土しており、溝が埋まった時期は、同じく縄文時代晩期末～弥生時代初頭にかけての時期であると考えられる。

図61　　薬師森遺跡調査位置図

1　調査区全景

2　ＳＤ002溝（東から）

図版21　薬師森遺跡

## 20. 戊遺跡（略号：ＭＴＵ）

遺跡の所在地

小城郡三日月町大字長神田字戊

調査主体者

三日月町教育委員会

調査期間

平成８年７月～平成８年12月

調査面積

2,500㎡

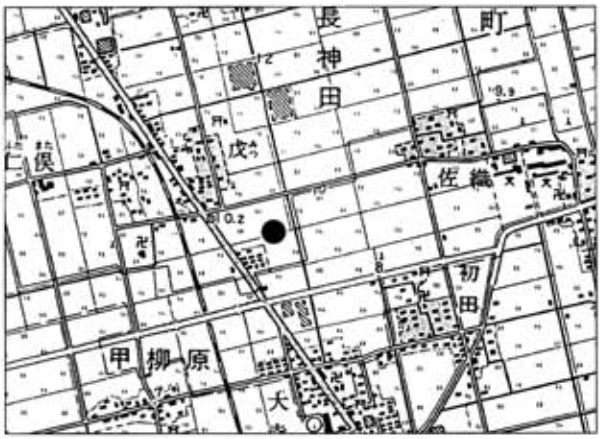



図62　戊遺跡位置図（Ｓ＝１／25,000）

遺跡の概要

佐賀平野の北西部、祇園川西岸に位置する。

今回発掘調査の対象となった地区は、三日月町の中央部標高約９ｍの水田地帯にあり、弥生時代～中世の遺跡として周知されている戊遺跡の範囲内に含まれる。

平成６年度には対象地南側で発掘調査を実施し、弥生時代と中世を中心とする集落跡が確認されている。

調査は、導水管埋設のため掘削される東西に延びる道路時期250㎡を対象に行い、古代と中世の溝のほか小穴を検出した。

溝は４条あり、いずれも南北方向の溝である。このうち１条は古代の溝であるが、中世の溝に切られているため、規模は不明である。この溝から土師器の甕などの土器が出土している。

あとの３条は中世の溝でいずれも南北方向に走っている。最も大きな溝で幅2.6ｍ、深さ0.7ｍある。中世の溝からは土師器皿・土鍋などの土器、輸入陶磁器のほか石鍋が出土している。

小穴は、柱穴と考えられるが、対象地内で建物を復元することはできなかった。

今回の調査は、調査面積が狭小で、遺跡の性格を決定させるまでには至らないが、中世の溝は幅広く、また遺物も数多く出土していることから、中世の集落もしくは屋敷跡を区画する溝である可能性が高い。

今後、周辺の調査状況等を踏まえ、対象地一帯の性格を明らかにする必要がある。

1　調査区全景

2　中央部小穴

3　ＳＤ22(北から)

4　ＳＤ19・ＳＤ20（南から）

5　ＳＤ21（南から）

6　ＳＤ21土鍋出土状況（西から）

図版22　戊遺跡

# V．まとめ

平成８年度の農林業基盤整備事業等に係る文化財確認調査を佐賀東部地区の鳥栖市、佐賀西部地区の佐賀市をはじめ県内６市４町20地区で実施し、筑後川下流用水事業に係る確認調査を佐賀市の１地区で実施した。

また、平成７年度の確認調査結果の協議に基づき実施した発掘調査（本調査）は、中原町・上峰町・佐賀市・多久市・三日月町・江北町・唐津市・肥前町・鎮西町の18遺跡と筑後川下流用水事業地区内２遺跡の計20遺跡である。

以下、平成８年度の確認調査について、まとめてみたい。

佐賀東部地区では、鳥栖市轟木・幸津地区で試掘調査を行なったが、未周知地区と言うこともあり、今回は遺構は確認されなかった。しかしながら、当該地区には、近世初頭に成富兵庫茂安が築いた幸津の霞堤が残存している。これは、今回の調査対象地からは離れているが佐賀藩最初の溜池といわれる「五反三歩溜池」とともに、近世初頭の土木工事事業を伝えるもので、大和町・佐賀市に所在する「石井樋」や多久市の「横堤」、牛津町の「芦刈水道」などともに成富兵庫茂安の佐賀平野における治水の考え方を示す遺構として貴重なものの一つである。今後、河川改修事業と圃場整備事業の進展のなかで、遺跡の保護と開発計画との調整が必要になってくると思われる。また、佐賀東部地区では、面的な圃場整備がほぼ終了し、林道を中心とする線的な開発計画が多く、これに伴い現地踏査などを行ない開発との調整を行なった。

佐賀西部地区では、佐賀市鍋島地区、金立東部地区、兵庫北部地区、久保泉西部地区、多久市八ツ溝地区、三日月町佐賀西部導水地区で遺跡の存在が確認された。

調査の結果、鍋島地区は、対象地22.6haに対し、井戸・溝跡などを検出し、中世の集落跡と考えられる8,000㎡の遺跡の広がりを確認した。 金立東部地区は、大部分では、遺構密度が極めて低くかったが、低平な標高３～４ｍの水田部（佐賀導水事業予定地区）で、縄文時代晩期～弥生時代初頭の遺物包含層を確認した。今後、従来遺構が確認されていない低平地にも試掘・確認調査をより密に行なう必要がある。兵庫北部地区では、対象地20.5haに対し4,430㎡の遺跡を確認した。

久保泉西部地区は、農業基盤整備編入地区の対象地0.76haのほぼ全域で中世～近世の集落跡を確認した。掘削を受ける200㎡では本調査が行なわれ、特に、この地区の近世集落の様相を示す資料が得られた。

多久市八ツ溝地区は、新規事業の対象地40.6haに対し、80,500㎡の遺跡を確認した。調査対象地区の中央部からやや標高が高い北側に小穴・溝跡などの遺構が確認されたが、調査区全域に縄文時代のサヌカイトの剥片が認められ、縄文時代の遺構の存在を予察させるが大部分は遺構密度が低いと考えられる。

三日月町佐賀西部導水地区は、対象地20.1haに対し３箇所 計1,550㎡の遺跡を確認した。工事予定地の隣接で行なった試掘調査では、祇園川右岸の氾濫原で比較的遺構密度が低いと推定した箇所より弥生時代前期末の溝跡、中世の溝跡を確認し、現水田面より約１ｍ下に遺構面があることを確認し、赤司遺跡の拡大を行なった。また、立物遺跡、赤司東遺跡として新規に佐賀県遺跡地図に登録し周知を図った。

佐賀西部地区は、農業基盤整備事業が後発であったこともあり、近年開発事業が集中している。特に佐賀市の場合、現在の集落近くでの開発計画が多く、遺構密度の高い遺跡が集中して確認されており、農林担当部局との調整は時間を要した。設計変更や事業計画箇所の繰り延べなど農林担当部局内での調整、佐賀市教育委員会による最大限以上の本調査対応など関係各機関および調査担当者には改めて感謝したい。

佐賀南部地区では、武雄市、鹿島市　江北町の３地区で確認調査を行なった。武雄市杵島山線では、広域基幹林道杵島山線開設事業に伴い現地踏査を行なった結果、縄文時代の岩陰遺跡の存在が想定されたため、その性格を知るため、また、国史跡おつぼ山神籠石から近い位置に立地するので神籠石の石材調達関連遺構の有無についても確認するため、巨石近辺の試掘調査を行なった。その結果、当初の予想に反して、平安時代末期の遺物が確認され、巨石信仰関連の遺跡と推定されている。発見された遺跡については、今回は農林担当部局の協力で、計画路線の設計変更により遺跡の保存が図られることとなったが、平安時代末期の信仰を考えるうえで新たな資料を提供した。また、江北町江北地区では、県営中山間総合整備事業の農道計画にともない確認調査を行ない、農道５号で縄文時代の遺物包含層 100㎡が確認され、黒曜石剥片・縄文時代晩期の土器が出土している。周辺の西百合遺跡などの調査成果と併せて、今後計画される農道工事など小規模開発事業についても、周辺には良好な遺物包含層が残っていると推定されるため留意する必要がある。

佐賀北部地区では、伊万里市のふるさと農道緊急整備事業渚線と国営伊万里地区総合農地開発事業幹線道路本瀬戸地区で遺跡の存在が確認されている。渚線では、腰岳遺跡群の鈴桶遺跡に近接する蜜柑園造成盛土中から多量の黒曜石の剥片・石器を確認し、農道工事着手前に遺物の採集を行なった。また、国営幹線道路本瀬戸地区では、道路予定地から縄文時代の遺物包含層を確認したので、樽浦遺跡として佐賀県遺跡地図に記載・登録し周知を図った。

佐賀北部地区では、急遽、地元との調整により国営事業が平成８年度を以て、事業を縮小し終了することになった。国営伊万里地区総合農地開発事業に伴う確認調査は平成８年度が最終年度となり、今回の調査対象地区は、平成８年度の繰越し事業として平成９年に本調査を実施し終了する。

佐賀上場地区は、唐津市の上場Ⅱ期地区（竹木場地区・枝去木地区）、肥前町の上場Ⅲ期地区（納所支線第２号地区）で遺跡が確認された。

竹木場地区は、調査対象地3.0haに対して遺構は確認されなかったが、造成土および流れ込みによる堆積土から黒曜石および安山岩質などの石鏃片・剥片が出土している。周辺に遺跡の存在が予察される。

枝去木地区は、調査対象延長1,100ｍに対して1,250㎡の遺跡を確認している。旧石器時代から縄文時代の良好な遺物包含層が確認されており、周辺の原遺跡・枝去木山中遺跡・馬部甚蔵山遺跡との比較を行なう上で良好な資料を提供し、今後上場台地における旧石器時代～縄文時代の様相を解明する資料の一つとなった。

納所支線第２号地区は、調査対象地3.0haに対して、標高90ｍ前後の尾根上で1,250㎡の範囲に縄文時代の遺物包含層を確認した。遺物包含層の上半分はやや削平されているが、狭い調査区にも拘らず、彫器・石鏃・砕片などが出土あるいは表面採集されており、納所笹山遺跡として新たに佐賀県遺跡地図に登録した。

平成９年度の農林業基盤整備事業等に係る文化財確認調査および調査結果に基づく協議に際しては、多くの方々に手を煩わし、また、ご迷惑をおかけしている。しかし、農林担当部局、土地改良区、市町村教育委員会、地元関係者ほかの協力によりほぼ順調に文化財の保護と開発との調整を行なうことができた。ここで改めて関係者各位に感謝をいたしたい。

# Ⅵ 資料

資料 1

## 平成９年度農業基盤整備事業に係る文化財調査一覧表

1996.12.18

| 市町村名 | 地区名 | 事業名 | 工事量 | 主幹課 | 確認遺跡面積 | 調査面積 | 遺跡名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 佐賀市 | 鍋島 | 県営担い手育成基盤整備 | 22.6ha | 農村整備課 | 確認調査済（39,760㎡） | （　㎡） | 森田遺跡 |
| | 金立東部 | 県営担い手育成基盤整備 | 40.5ha | 農村整備課 | 確認調査済（　0㎡） | 0㎡ | 未周知 |
| | 兵庫北部 | 県営担い手育成基盤整備 | 20.5ha | 農村整備課 | 確認調査済（4,430㎡） | （　㎡） | 未周知 |
| | 久保泉西部 | 県営圃場整備 | 0.76ha | 農村整備課 | 確認調査済（7,600㎡） | （　㎡） | 川久保松原遺跡 |
| | 兵庫西部 | 県営農地還元資源利用 | 23.0ha | 農村整備課 | 確認調査済（1,000㎡） | （　㎡） | 東渕遺跡 |
| | 幹線水路徳永線 | 筑後川下流農業水利事業 | 6.0ha | 筑後川下流農水事務所 | 確認調査済（　0㎡） | 0㎡ | 上九郎遺跡ほか |
| | 南里線新郷工区 | 筑後川下流農業水利事業 | 0.1ha | 筑後川下流農水事務所 | 未確認調査 | （　㎡） | 未周知 |
| | 市の江川副幹線 | 佐賀中部農地防災事業 | 1,000ｍ | 佐賀中部農地防災事業所 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 城西排水路 | 佐賀中部農地防災事業 | 0.46ha | 佐賀中部農地防災事業所 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 鍋島幹線用水路 | 佐賀中部農地防災事業 | 850ｍ | 佐賀中部農地防災事業所 | 確認調査済（　㎡） | （　㎡） | 森田遺跡 |
| 唐津市 | 竹木場（上場Ⅱ期） | 県営畑地帯総合土地改良事業 | 3.0ha | 農村整備課 | 確認調査済（　0㎡） | 0㎡ | 竹木場向ノ原遺跡 |
| | 枝去木（上場Ⅱ期） | 県営畑地帯総合土地改良事業 | 1,100ｍ | 農村整備課 | 確認調査済（1,250㎡） | （　㎡） | 枝去木分校入口遺跡 |
| 鳥栖市 | 轟木・幸津 | 県営担い手育成基盤整備 | 21.4ha | 農村整備課 | 確認調査済（　0㎡） | 0㎡ | 霞堤 |
| | 九千部山横断 | 広域基幹林道 | 2,900ｍ | 林政課 | 確認調査済（　100㎡） | （　㎡） | ワカヤマノトリデ |
| 多久市 | 八ツ溝 | 県営担い手育成基盤整備 | 40,6ha | 農村整備課 | 確認調査済（80,500㎡） | （　㎡） | 八ツ溝遺跡 |
| | 山頭 | 普通林道 | 150ｍ | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 刎石 | 県単林道 | 80ｍ | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 多久原 | 水源地域緊急整備 | 0.1ha | 森林整備課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 伊万里市 | 渚 | ふるさと農道緊急整備 | 300ｍ | 農村整備課 | 確認調査済（　0㎡） | 0㎡ | 腰岳遺跡群 |
| | 滝野線 | 普通林道 | 500ｍ | 林政課 | 現地踏査済,要設計変更 | 0㎡ | 今岳原遺跡・日南郷石塁 |
| | 大川眉山 | 普通林道 | 200ｍ | 林政課 | 未現地踏査 | （　㎡） | 未周知 |
| | 大野岳 | 生活環境保全林 | 10.1ha | 森林整備課 | 未確認調査 | （　㎡） | 大野岳遺跡 |
| | 山代 | 保安林管理道整備 | 280ｍ | 森林整備課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 木須（渡戸島・見上）団地 | 国営総合農地開発 | 13.0ha | 伊万里開拓 | 確認調査済（　0㎡） | 0㎡ | 未周知 |
| | 見上幹線道路 | 国営総合農地開発 | 460ｍ | 伊万里開拓 | 確認調査済（　0㎡） | 0㎡ | 未周知 |
| | 平山幹線道路 | 国営総合農地開発 | 300ｍ | 伊万里開拓 | 確認調査済（　0㎡） | 0㎡ | 未周知 |
| | 本瀬戸幹線道路 | 国営総合農地開発 | 1,000ｍ | 伊万里開拓 | 未確認調査 | （　㎡） | 未周知 |
| | 小黒川幹線道路 | 国営総合農地開発 | 1,266ｍ | 伊万里開拓 | 確認調査済（　0㎡） | 0㎡ | 未周知 |
| 武雄市 | 杵島山 | 広域基幹林道 | 1,600ｍ | 林政課 | 未確認調査 | （　㎡） | 南片白古墳群 |
| 鹿島市 | 飯田 | 県営担い手育成基盤整備 | 5.0ha | 農村整備課 | 確認調査済（　0㎡） | 0㎡ | 未周知 |
| | 嘉瀬ノ浦ほか | 団体営（排水不良型）圃場整備 | 7.8ha | 農村整備課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 大和町 | 小隈 | 国営水路　佐賀西部広域吐水槽 | 1.0ha | 筑後川下流農水事務所 | 未確認調査 | （　0㎡） | 小隈山前方後円墳 |
| | 赤司 | 国営水路　佐賀西部導水路 | 10.0ha | 筑後川下流農水事務所 | 確認調査済（　500㎡） | （　㎡） | 古富遺跡・牟田遺跡 |
| | 右岸幹線水路 | 佐賀中部農地防災事業　幹線水路 | 600ｍ | 佐賀中部農地防災事業所 | 確認調査不要 | 0㎡ | 久留間遺跡 |
| | 川上排水機場 | 佐賀中部農地防災事業 | 0.1ha | 佐賀中部農地防災事業所 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 川上排水機場樋管 | 佐賀中部農地防災事業 | 0.1ha | 佐賀中部農地防災事業所 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 川副町 | 南里線東西南里 | 国営水路　幹線水路 | 0.6ha | 佐賀中部農地防災事業所 | 未確認調査 | （　㎡） | 未周知 |
| | 市の江川副幹線 | 佐賀中部農地防災事業　幹線水路 | 1,300ｍ | 佐賀中部農地防災事業所 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 東与賀町 | 大井手幹線水路 | 佐賀中部農地防災事業　幹線水路 | 365ｍ | 佐賀中部農地 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 芦刈町 | 芦刈第２排水機場 | 佐賀中部農地防災事業 | 0.2ha | 佐賀中部農地防災事業所 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 芦刈第２排水機場樋管 | 佐賀中部農地防災事業 | 0.1ha | 佐賀中部農地防災事業所 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 富士町 | 無津呂 | 農業集落排水特別対策事業 | 200ｍ | 農村整備課 | 工事立会 | 0㎡ | 未周知 |
| | 藤瀬 | 農業集落排水特別対策事業 | 1,000ｍ | 農村整備課 | 工事立会 | 0㎡ | 未周知 |
| | 貝野～苣木線 | 普通林道事業 | 400ｍ | 林政課 | 工事立会 | 0㎡ | 舞野遺跡 |
| | 御民田線 | 普通林道事業 | 120ｍ | 林政課 | 未確認調査 | （　㎡） | 貝野遺跡 |

| 市町村名 | 地区名 | 事業名 | 工事量 | 主幹課 | 確認遺跡面積 | 調査面積 | 遺跡名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 富士町 | 須田船石 | 普通林道事業 | 400 m | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 一本黒木線 | 林業地域総合整備 | 800 m | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 中の宇土線 | 林業地域総合整備 | 240 m | 林政課 | 確認調査不要 | | 未周知 |
| | 上浦線 | 林業地域総合整備 | 400 m | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 東脊振村 | 九千部山横断 | 広域基幹林道 | 2,900 m | 林政課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 蛤岳横断 | 広域基幹林道 | 500 m | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 脊振村 | 蛤岳横断 | 広域基幹林道 | 500 m | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 川原田 | 普通林道 | 50 m | 林政課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 高取山 | 生活環境保全林整備 | 12.88ha | 森林整備課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 三瀬村 | 金山脊振 | 広域基幹林道 | 600 m | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 田宇曽 | 普通林道 | 500 m | 林政課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 向合 | 生活環境保全林 | 2.2ha | 森林整備課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 中原町 | 九千部山横断 | 広域基幹林道 | 2,900 m | 林政課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 鷹取山城跡近接 |
| 上峰町 | 上峰北部 | 県営圃場整備 | 2.0ha | 農村整備課 | 確認調査済 ( 7,500㎡) | ㎡ | 堤三本松遺跡 |
| 神埼町 | 城原金立 | 筑後川下流農業水利事業 | 12.0ha | 筑後川下流農水事務所 | 未確認調査 | ( ㎡) | 野田遺跡ほか |
| 基山町 | 九千部山横断 | 広域基幹林道 | 2,900 m | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 小城町 | 岩蔵 | 水質保全環境整備 | 0.1ha | 森林整備課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 牛尾 | 農林漁業用揮発油税財源見返農道整備 | 750 m | 農村整備課 | 未確認調査 | ( ㎡) | 牛尾城跡ほか |
| 三日月町 | 長水田 | 国営水路　佐賀西部導水 | 6.0ha | 筑後川下流農水事務所 | 確認調査済 ( 200㎡) | ( ㎡) | 未周知 |
| | 赤司 | 国営水路　佐賀西部導水 | 10.0ha | 筑後川下流農水事務所 | 確認調査済 ( 650㎡) | ( ㎡) | 牟田遺跡 |
| | ＪＲ唐津線横断 | 国営水路　佐賀西部導水 | 1.5ha | 筑後川下流農水事務所 | 確認調査済 ( 0㎡) | 0㎡ | 戊遺跡 |
| | 祇園川横断 | 国営水路　佐賀西部導水 | 0.4ha | 筑後川下流農水事務所 | 確認調査済 ( 0㎡) | 0㎡ | 未周知 |
| | 三ケ島 | 国営水路　佐賀西部導水 | 2.2ha | 筑後川下流農水事務所 | 確認調査済 ( 0㎡) | 0㎡ | 未周知 |
| 牛津町 | 友田排水機場 | 国営幹線水路 | 0.1ha | 佐賀中部農地防災事業所 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 友田排水機場樋管 | 国営幹線水路 | 0.1ha | 佐賀中部農地防災事業所 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| 浜玉町 | 椿山 | 生活環境保全林整備 | 6.9ha | 森林整備課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 椿山 | 地域防災対策総合治山 | 0.2ha | 森林整備課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 七山村 | 荒川～天川線 | 広域基幹林道 | 1,900 m | 林政課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 道太郎～蟹川線 | 普通林道 | 1,020 m | 林政課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 大立平 | 林業地域総合整備事業 | 400 m | 林政課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 袋底 | 保安林管理道整備 | 460 m | 森林整備課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| 厳木町 | 荒川～天川線 | 広域基幹林道 | 1,900 m | 林政課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 岩誇～栗ノ木 | 普通林道 | 500 m | 林政課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 滝山 | 普通林道 | 500 m | 林政課 | 未現地踏査 | ㎡ | 未周知 |
| 相知町 | 内浦 | 普通林道 | 400 m | 林政課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 浅井谷 | 復旧治山 | 400 m | 林政課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 厳野 | 地域防災対策総合治山 | 0.3ha | 森林整備課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 平山 | 保安林管理道整備 | 1,060 m | 森林整備課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| 肥前町 | 新木場(上場Ⅲ期) | 県営畑地帯総合土地改良事業 | 6.0ha | 農地保全課 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 万賀里川第2(上場Ⅲ期) | 県営畑地帯総合土地改良事業 | 2.0ha | 農地保全課 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 納所支2号(上場Ⅲ期) | 県営畑地帯総合土地改良事業 | 700 m | 農地保全課 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 寺浦支19号(上場Ⅲ期) | 県営畑地帯総合土地改良事業 | 600 m | 農地保全課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 玄海町 | 繁倉（上場Ⅳ期） | 県営畑地帯総合土地改良事業 | 2.7ha | 農地保全課 | 確認調査済 ( 0㎡) | 0㎡ | 未周知 |
| | 釜蓋（上場Ⅳ期） | 県営畑地帯総合土地改良事業 | 4.0ha | 農地保全課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 釜蓋遺跡 |
| | 日の出松(上場Ⅳ期) | 県営畑地帯総合土地改良事業 | 900 m | 農地保全課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |

| 市町村名 | 地区名 | 事業名 | 工事量 | 主幹課 | 確認遺跡面積 | 調査面積 | 遺跡名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 鎮西町 | 波戸 | 一般農道整備事業 | 8,514 m | 農地保全課 | 要現状変更協議 | ( 0㎡) | 上杉景勝陣跡ほか |
| | 加倉 | 県営畑地帯総合土地改良事業 | 300 m | 農地保全課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 西有田町 | 西有田西部 | 中山間地域総合整備事業 | 20.76ha | 農林整備課 | | | |
| | (丸尾) | 〃 | 0.62ha | 〃 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | (椎木山) | 〃 | 2.09ha | 〃 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | (二本松) | 〃 | 1.15ha | 〃 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | (大鳥ケ倉) | 〃 | 3.52ha | 〃 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | (中尾) | 〃 | 3.62ha | 〃 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | (大石) | 〃 | 2.14ha | 〃 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | (北岳) | 〃 | 5.42ha | 〃 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | (岩谷) | 〃 | 2.20ha | 〃 | 未確認調査 | ( ㎡) | 未周知 |
| | 山谷・椎の木線 | ふるさと農道緊急整備 | 2,312 m | 農村整備課 | 未確認調査 | ( ㎡) | 野瀬原遺跡 |
| | 曲川 | 水資源地域緊急整備 | 0.2ha | 農林整備課 | 確認調査不要 | ㎡ | 未周知 |
| 山内町 | 神六山 | 水資源地域緊急整備 | 26.0ha | 農林整備課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 砂原遺跡・黒仁田遺跡 |
| | 黒髪山 | 生活環境保全林整備 | 6.0ha | 農林整備課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 未周知 |
| 北方町 | 杵島山 | 広域基幹林道 | 1,600 m | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 勇猛山古墳群 |
| 江北町 | 江北 | 中山間地域総合整備 | 5.0ha | 農村整備課 | 確認調査済 ( ㎡) | ( 0㎡) | 馬場南遺跡ほか |
| | 〃 | 〃 (農村公園) | 1.6ha | 農村整備課 | 未確認調査 | ( ㎡) | 白木遺跡ほか |
| | 〃 | 〃 (農道) | 1,100 m | 農村整備課 | 確認調査済 ( ㎡) | ( ㎡) | 団子前遺跡ほか |
| 太良町 | 大野4・5号 | 集落水源山地整備 | 0.2ha | 農林整備課 | 未現地踏査 | ( ㎡) | 多良岳・山茶花遺跡 |
| 塩田町 | 杵島山線 | 広域基幹林道 | 1,600 m | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 鍋野線 | 普通林道 | 400 m | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 鍋野 | 地域防災対策総合治山 | 0.1ha | 森林整備課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| 嬉野町 | 椎葉線 | 林業地域総合整備事業 | 200 m | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |
| | 川棚線 | 県単林道 | 100 m | 林政課 | 確認調査不要 | 0㎡ | 未周知 |

※資料1～3は、平成8年12月18日に開催した「平成9年度農業基盤整備事業に係る文化財保護の協議会(第2回)」で使用した資料である。

資料　2

# 農業基盤整備事業に係る文化財調査の進め方

①９月上旬

翌（々）年度事業計画書の提出

農林部から文化財課へ翌（々）年度
工事施工計画図等の提出（協議）

②９月中旬～10月上旬

市町村教委と事前打ち合せ
及び現地踏査等

市町村教委と図面をもとに確認
調査箇所について打ち合わせ

③10月14日

第１回協議

九州農政局筑後川下流農業水利事務所
九州農政局佐賀中部農地防災事務所
九州農政局伊万里開拓建設事業所
農村計画課・農村整備課・農地保全課
森林整備課・林政課・農林事務所
市町村土地改良課・市町村教育委員会
文化財課と確認調査についての打ち合わせ

④10月下旬～12月上旬

文化財確認調査実施

県費補助事業計画書の提出
ヒアリング

⑤11月下旬～12月上旬

個別協議

文化財所在地区の農業基盤
整備事業について協議
（数回）

⑥12月下旬

第２回協議

翌年度発掘調査箇所（面積）
の決定、発掘調査の時期調整

◎国庫補助事業計画書提出（12月）
◎文化庁ヒアリング（１～２月）

⑦新年度

発掘調査

国庫補助事業内示
（４月）

資料　3

# 確認調査実施要領（平成８年度）

## ①　確認調査

### （１）準備

１．現地確認

調査員・工事担当課立会のうえ、工事範囲（調査範囲）・掘削機搬入路・その他の検討。

２．発掘承諾書（別添１）

文化財課へ１遺跡１通。工事担当課窓口。発掘承諾については、承諾書のみではなく、調査対象地権者への、調査に対する承認を充分得ておく。

３．98条の２第１項別記２（別添２）

発掘調査予定地所在地、所有者、調査対象面積、遺跡の種類、地目、発掘担当者名、着手時期等を記載し、発掘担当者承諾書（別添３）を添付して文化財課に提出。

４．掘削機・作業員の手配

人数の目安は、手掘りの場合　　１５人/１日

掘削機使用の場合　　３人/１日

※作業条件：作業時間　8：30～17：15，日当 6,200円

※雇用予定発掘作業員の名簿（別添４）を作成し、事前に文化財課に提出。

５．その他用意するもの

小型カメラ・野帳・移植ゴテ・尺・工事計画図面・文化財課指定の日誌（別添５）・文化財課が用意するフィルム（35ミリ・カラーフィルム24枚撮り）等の調査記録類。なお、作業員には各自シャベルを用意してもらうこと。

### （２）調査

１．原則として、20ｍ間隔で碁盤目状に試掘坑を設定。

２．試掘坑は、２ｍ×２ｍを基準とする。

・耕作土と深土を区別する。

・土層、遺構面までの深さ、遺構・遺物の性格及び遺存状況等記録する。

・埋め戻しは、深土を先に戻して十分転圧した後、耕作土を戻して復旧する。

３．工作物・道・水路等の取り扱いに注意し、また工事担当課が必ず立ち会うこと。

調査においては安全に充分心がけること。

## ②　調査記録の整理

１．日誌　　・調査地区、試掘数、その他特筆すべきこと。

・作業員数（例：7.5人）、掘削機台数（例：1.5台）

・文化財課へは、印のある原紙（別添５）を提出すること。

２．調査結果表（別添６）は調査区毎にまとめる。

３．試掘坑土層図（別添７）、遺構が検出された場合は平面略図（別添８）を作成する。

４．図面　　試掘坑の位置・番号・遺構面までの深さ（－45cm）・遺跡の範囲等を配布した図面に記入する。

5．写真　　フィルム（35ミリ・カラーフィルム24枚撮り）は文化財課で現像するので、確認調査後直ちに未現像のまま文化財課に提出。

プリントしたものを至急、市町村に返送しますので写真の説明をつけて調査結果表と併せて提出。(重機使用及び作業員の作業状況を必ず複数枚撮影すること。)

※以上の記録類はすべて、調査後文化財課に提出する。

※確認調査結果表・図面等の記録類は平成９年度刊行の「佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書16」の原稿に使用します。

③　その他の手続き

（１）掘削機借り上げ

１．運搬等の効率上、地元業者３業者の見積合せによる単価契約を行なう。

２．上記業者は、見積書（別添９）を提出し、決定があれば所定の契約書（別添10）２部を速やかに文化財課に提出する。

３．掘削機使用にあたっては、日時・場所等を事前に業者と充分打ち合わせ、かつ安全を期すこと。調査終了後、速やかに掘削機の作業実績簿（別添11）を文化財課に提出する。

（２）調査依頼および旅費

・文化財課が調査を依頼した市町村調査員については旅費を支給するので、次の書類を文化財課に提出されたい。

・確認調査承諾書（別添12）　・旅費請求委任状（別添13）

・就業確認書（別添14）　・口座振替申出書（別添15）

（３）就労調書

１．必ず所定の様式（別添16）を使用する。

２．調査後、作業員の押印、日数を早急に文化財課に提出する。

(10月下旬または11月下旬等に確認調査を実施した場合も、月末締めなので当該月末までに文化財課に必着とします。やむを得ず提出が遅れる場合は、FAXで送信も可。)

３．市町村調査員が調査にあたる場合は、市町村教育長・担当者の証明印を必要とする。

（４）賃金支払い

１．発掘作業員の賃金は県から支給する。

２．賃金支払い日は、翌月に日時を指定する。(概ね翌月の10日～15日)

３．現金で支給するので、支払い場所、連絡担当者等についてあらかじめ決めておき、文化財課に連絡をする。

４．賃金支払い当日は、就労調書と同一の印鑑で、領収の押印を行なうので発掘作業員には支払い場所・日時について十分周知させる。なお、支払い時には担当者の立会を必要とする。

資料　4

○農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項

昭和53年４月１日　佐賀県教育員会教育長
佐賀県農林部長
昭和59年４月１日　改正

農業基盤整備事業等（以下「事業」という）と埋蔵文化財保護の調査（以下「調査」という）との関係の調整については文化財保護法第57条並びに文化財保護法の一部改正に関する覚書（昭和50年５月23日文化庁長官農林省構造改善局長）の趣旨に基づき、佐賀県農林部と佐賀県教育委員会は次の事項について確認する。

1　文化財保護担当部局は事業の実施予定地区に係る文化財の調査に当っては当該事業の計画的かつ円滑な実施に支障が生じないよう措置するものとする。

2　農業担当部局は周知の埋蔵文化財包蔵地等における事業に先立ち、事業と文化財保護との連絡調整をはかるため、あらかじめ文化財保護担当部局と協議するものとする。

3　当該事業の施行にあたっては前々年度の９月上旬までに計画図等を添えて佐賀県教育委員会へ連絡し調整をはかるものとする。

4　文化財保護担当部局は当該地区の文化財調査を原則として事業施行前々年度に終了するものとする。また、事業地区の変更等が生じた場合は、ただちに農業担当部局は文化財保護担当部局に協議する。

5　確認調査の結果埋蔵文化財が発見された場合、文化財保護担当部局は当該地区の文化財の保護に関し農業担当部局と協議し事業計画上やむを得ず破壊される遺跡等について行う発掘調査については原則として事業施行前年度に終了するよう努めるものとする。

ただし、確認調査の有無にかかわらず工事中に埋蔵文化財が発見された場合農業担当部局は工事を一時中止して、文化財保護担当部局へその旨連絡し協議するものとする。

6　発掘調査の促進にあたっては農業担当部局はこれに協力するものとする。

7　事業の実施予定地区に係る埋蔵文化財の調査に要する経費は、原則として文化財保護担当部局において負担するものとする。

ただし、やむを得ず当該調査に要する経費を事業費のなかで負担せざるを得ない場合においても当該経費のうち農家負担分については文化財保護担当部局において負担するものとする。

8　その他事業計画遂行にあたり、文化財保護について問題が生じた場合はその都度協議するものとする。

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | さがけんのうぎょうきばんせいびじぎょうにかかるぶんかざいちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書16 |
| シリーズ名 | 佐賀県文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第138集 |
| 編集者名 | 松尾　法博 |
| 編集機関 | 佐賀県教育委員会 |
| 所在地 | 〒840－8570　佐賀県佐賀市城内1丁目1－59　TEL. 0952(24)2111 |
| 発行年月日 | 1998年3月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査対象面積<br>（確認調査）<br>ha | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 佐賀県<br>農業基盤<br>整備事業<br>地区内<br>遺跡 | 佐賀県内 | | | | | 19960401<br>～<br>19970331 | 453.5ha | 農林業基盤<br>整備事業等 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 佐賀県<br>農業基盤<br>整備事業<br>地区内<br>遺跡 | 集落<br>墓地<br>古墳 | 旧石器時代<br>～<br>近代 | 集落遺構<br>甕棺墓<br>古墳<br>包含層<br>ほか | 石器・土器<br>陶磁器<br>ほか | 確認調査報告のほかに平成8年度に農林業基盤整備事業等に伴い実施された20遺跡の調査概要を所収。 |

佐賀県文化財調査報告書第138集

佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書16

平成10年３月31日発行

編集・発行　佐賀県教育委員会
佐賀市城内一丁目１-59
ＴＥＬ　0952（24）2111
印　　刷　大成写真製版所
佐賀市巨勢町大字牛島字一本松353
ＴＥＬ　0952（23）1846